プログラム

大会長講演（PL）…… S02
大会長企画（PS）…… S02
海外セッション（ES）…… S03
合同シンポジウム（JSY）…… S04
4学会合同セッション（SJSY）…… S06
教育講演（EL）…… S06
シンポジウム（SY）…… S09
パネルディスカッション（PD）…… S18
ワークショップ（WS）…… S23
委員会企画（CM）…… S24
事例検討（CS）…… S27
自主セミナー（IS）…… S28
TIPS …… S29
交流集会（EM）…… S33
ランチョンセミナー（LS）…… S35
市民公開講座…… S37
PAL企画（PAL）…… S37
最優秀演題…… S38
優秀演題…… S39
一般演題ポスター（P）…… S43
PALポスター（PAL-P）…… S85

大会長講演

PL1
時空を超えて、希望につながる緩和医療、サイコオンコロジー
6月14日（金）8:40-9:10
第1会場

座長：田村 恵子（大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター）

演者：**時空を超えて、希望につながる緩和医療、サイコオンコロジー**
所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 心療内科/支持・緩和療法チーム）

大会長企画

PS1
JSPM理事長×JPOS代表理事講演
6月14日（金）9:30-10:50
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム）

演者：**社会の変化に対応し、病を持って生きる人を支える**
木澤 義之（筑波大学医学医療系 緩和医療学 教授）

がん患者のこころの支援　日本サイコオンコロジー学会
秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

PS2
マルチレベルの相互作用を広げていく全人的医療
6月14日（金）9:20-10:00
第12会場

座長：吉内 一浩（東京大学医学部附属病院心療内科）

演者：**マルチレベルの相互作用を広げていく全人的医療**
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

PS3
全人的医療の根源とは～すべての医療者のために～
【特別講演】
6月14日（金）11:00-12:00
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム）

演者：**全人的医療の根源とはーすべての医療者のために**
中井 吉英（関西医科大学名誉教授、京都翔医会西京都病院名誉院長・心療内科部長）

PS4
時空を超えて考える
【特別講演】
6月14日（金）15:00-16:00
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム）

演者：**心身医学，リエゾン精神医学，サイコオンコロジーの流れを振り返る**
保坂 隆（保坂サイコオンコロジー・クリニック）

時空を超えて考える
心身医学、サイコオンコロジー、緩和ケアの流れを振り返る
四宮 敏章（奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

PS5
怒りへの対応～このしくみを知っておけば、もう悩まなくていい
6月15日（土）13:30-14:10
第1会場

座長：保坂 隆（保坂サイコオンコロジー・クリニック）

演者：**表出される怒りへの対応方法～このしくみを知っておけば、もう悩まなくていい**
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

PS6
河野博臣メモリアル企画
6月15日（土）14:20-15:00
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム）

演者：**「日本サイコオンコロジー学会創設期から時空を超えて」**
～河野博臣先生の足跡を辿りながら～
大島 彰（九州がんセンター サイコオンコロジー科）

PS7
3人の自著を紐解く、生死との向き合い方
6月15日（土）15:10-16:30
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター心療内科/支持・緩和療法チーム）

演者：**また、あちらで会いましょう**
四宮 敏章（奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアチーム）

死と向き合う患者のこころのケア
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

保坂　隆「ステージ4をぶっ飛ばせ」
保坂 隆（保坂サイコオンコロジー・クリニック）

海外セッション

ES1
命を終えたい患者とどう関われば良いか？ 韓国、日本、台湾の医療者らの経験から得られた示唆
What to do when a seriously ill patient wants to die? Implications from Experiences by Korean, Japanese, and Taiwanese Medical Professionals
【日本緩和医療学会 国際交流委員会】
6月15日（土）9:20-10:50
第16会場

座長：森 雅紀（聖隷三方原病院）
荻野 美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

演者：**Taiwan's new policy on palliative care and psycho-oncology in 2024**
Chun-Kai Fang（Chief, Hospice and Palliative Care Center, MacKay Memorial Hospital）

Wishes for hastened death in ALS in Japan
荻野 美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

Compassionate Conversations: Approaching Patients Consulting End-of-life Choices in Korean Healthcare
Shin Hye Yoo（Assistant Professor, Center for Palliative Care and Clinical Ethics, Seoul National University Hospital）

ES2
Palliative care for children with severe neurological impairment
【日本緩和医療学会 専門的横断的緩和ケア推進委員会 小児緩和ケアWPG】
6月15日（土）11:00-12:30
第16会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：**Palliative care for children with severe neurological impairment**
Julie M Hauer（Assistant Professor, Harvard Medical School/Department of General Pediatrics, Boston Children's Hospital）

ES3
Young adult men and the delivery of a biobehavioral intervention to improve health outcomes
【一般社団法人日本心身医学会】
6月15日（土）12:40-13:40
第16会場

座長：吉内 一浩（東京大学医学部附属病院心療内科）

演者：**Young Adult Men and the Delivery of a Biobehavioral Intervention to Improve Health Outcomes**
Michael A. Hoyt（Professor, University of California/Irvine and the Chao Family Comprehensive Cancer Center）

ES4 6月15日（土）13:50-14:50
痛みに対する統合医療の観点からのアプローチ 第16会場
An Integrative Medicine Approach to Pain Management

座長：森 雅紀（聖隷三方原病院）

演者：**An integrative medicine approach to pain management:our experience in the cancer care setting**
Gabriel Lopez（Associate Professor, Integrative Medicine Program, Medical Director Integrative Medicine Center/Clinical Section Chief, Section of Integrative Medicine, Department of Palliative Rehabilitation and Integrative Medicine/Division of Cancer Medicine, University of Texas, MD Anderson Cancer Center, Houston, TX）

ES5 6月15日（土）15:00-16:30
APHN-JSPM joint session：Primary palliative care in Asia-Pacific region 第16会場

座長：Naveen Salins（Professor and Head, Department of Palliative Medicine and Supportive Care, Kasturba Medical College, Manipal, India）
Sayaka Ozaka（Tokyo Adventist Hospital）

演者：Ednin Hamzah（Chief Executive Officer, Hospis Malaysia）
Jun Hamano（Institute of Medicine, University of Tsukuba）
Rumalie A. Corvera（DPAFP-Diplomate Philippine Academy of Family Physicians/FPSHPM-Fellow, Philippine Society of Hospice and Palliative Medicine）
Wayne Naylor（Wayne Naylor RN, BSc (Hons), PG Cert (Pal Care), Dip Nurs (Chief Executive Officer, Hospice New Zealand)）

合同シンポジウム

JSY1 6月14日（金）13:20-14:50
脊椎転移への対応 第6会場
【特定非営利活動法人 日本骨転移研究会】

座長：髙木 辰哉（順天堂大学 緩和医療学研究室・整形外科・リハビリテーション科）

演者：**脊椎転移への対応　～緩和ケア医の役割～**
五十嵐 佑子（神戸大学 緩和支持治療科）

脊椎転移への放射線治療
川本 晃史（順天堂大学医学部 放射線治療学講座）

脊椎転移に対する緩和IVR：治療戦略に組み込もう!
荒井 保典（国立がん研究センター東病院 放射線診断科）

脊椎転移に対する手術療法の効果と限界
角谷 賢一朗（神戸大学大学院 整形外科 脊椎外科学部門）

JSY2 6月15日（土）9:20-10:50
骨転移以外の緩和ケア・緩和的放射線治療 第10会場
～骨メタだけじゃない。骨転移以外の緩和的放射線治療～
【公益社団法人 日本放射線腫瘍学会（JASTRO）】

座長：髙橋 健夫（埼玉医科大学総合医療センター放射線腫瘍科）
高野 利実（がん研有明病院 乳腺内科）

演者：**専門的緩和ケアの診療場面における緩和的放射線治療**
平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科）

腫瘍出血と皮膚浸潤/転移に対する緩和的放射線治療
和田 優貴（秋田大学大学院 医学系研究科 放射線医学講座）

悪性腫瘍による狭窄・閉塞症状に対する放射線治療
江原 威（杏林大学医学部付属病院放射線治療科）

骨転移以外のがん性疼痛に対する緩和的放射線治療
今野 伸樹（広島大学大学院医系科学研究科放射線腫瘍学）

JSY3
「がんと診断された時からの緩和ケア」をいかに現場に広めるか
【公益社団法人 日本臨床腫瘍学会】

6月15日（土）13:30-15:00
第5会場

座長：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）
井上 彰（東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野）

演者：**がん治療医からみた早期からの緩和ケアへの課題**
梶浦 新也（富山大学附属病院臨床腫瘍部）

外科系腫瘍医として四半世紀の診療を振り返って想う“診断時からの緩和ケア”
安部 正和（浜松医科大学 産婦人科）

患者の立場で考える「がんと診断されたときからの緩和ケア」
山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML）

「がんと診断された時からの緩和ケア」をいかに現場に広げるか～看護師の立場から～
杉山 育子（東北大学病院看護部緩和ケアセンター）

国が推進する「がんと診断された時からの緩和ケア」における根拠に基づく政策の立案と評価
釆野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

JSY4
在宅緩和ケアにおける精神症状の対応
【一般社団法人 日本在宅医療連合学会】

6月15日（土）15:10-16:40
第2会場

座長：竹内 文一（小田原市立病院）
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

演者：**二刀流の緩和ケア医の視点!!病院と在宅で異なる精神症状への対応**
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

在宅緩和ケアにおける精神症状の対応～在宅医の視点から
鶴岡 優子（つるかめ診療所）

在宅緩和ケアにおける精神症状への対応の工夫と苦悩～訪問看護師の立場から～
濵本 千春（YMCA訪問看護ステーション・ピース）

在宅医療での精神症状の評価や対応 ～がん末期患者を中心に～
吉田 哲彦（ふくろうクリニック等々力）

JSY5
薬学の緩和医療への貢献―薬学的エビデンスを踏まえた上で―
【一般社団法人 日本緩和医療薬学会】

6月15日（土）15:10-16:40
第4会場

座長：岡本 禎晃（市立芦屋病院）
中川 貴之（和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部）

演者：**がん患者病態生理の科学的解析と腫瘍神経科学領域研究の創生**
成田 年（星薬科大学 薬理学研究室）

基礎研究の観点から：末梢-脳円環システム制御によるがん病態の緩和
葛巻 直子（星薬科大学 薬理学研究室）

終末期、薬剤師はどこまで根拠を持って関われるか
志田 敏宏（山形大学医学部附属病院）

在宅緩和ケアに必要な薬学的エビデンス　薬局薬剤師の視点から
小林 篤史（カリン薬局）

緩和医療薬学：緩和医療医として薬剤師に求めるもの
月山 淑（和歌山県立医科大学麻酔科学講座）

今後の緩和医療分野に必要なベクトルを探る：最先端の医学・薬学的エビデンスと実務との融合
伊勢 雄也（日本医科大学付属病院薬剤部）

4学会合同セッション

SJSY1 6月14日（金）16:10-18:10
救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン改訂：緩和医療学会を加えた4学会のガイドラインへ 第8会場
【一般社団法人 日本集中治療医学会・一般社団法人 日本救急医学会・一般社団法人 日本循環器学会・一般社団法人 日本人工臓器学会】

座長：伊藤 香（帝京大学医学部外科学講座Acute Care Surgery部門）
藤野 裕士（市立豊中病院）

演者：**救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～緩和医療学会を加えた4学会のガイドラインへ～**
集中治療医学会の立場から
澤村 匡史（済生会熊本病院集中治療室）

全力で治療するためには、治療を中止できることが大切である
渥美 生弘（日本救急医学会 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会）

救急・集中治療における終末期合同ガイドラインの改定に望む：日本循環器学会の立場から
野々木 宏（大阪青山大学健康科学部）

補助循環治療における終末期
戸田 宏一（獨協医科大学埼玉医療センター心臓血管外科）

日本緩和医療学会の立場から
木澤 義之（筑波大学医学医療系 緩和医療学）

教育講演

EL1 6月14日（金）11:00-12:00
難治性がん疼痛の診断と治療に役立つ身体所見と画像所見のみかた 第3会場

座長：小杉 和博（筑波大学附属病院 緩和支持治療科）

演者：**難治性がん疼痛の診断に役立つ画像所見と治療への応用**
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座）

身体診察のサイエンスとアート：難治性がん疼痛の診断と治療に活かせること
大屋 清文（ピースホームケアクリニック京都）

EL2 6月14日（金）11:00-12:00
医療受診にまつわるLGBTQの課題 第5会場

座長：佐伯 吉規（がん研有明病院 緩和治療科）

演者：**医療受診にまつわるLGBTQの課題**
桂木 祥子（NPO法人QWRC）

EL3 6月14日（金）11:00-11:40
オピオイド受容体を介した鎮痛研究の最前線 第8会場

座長：住谷 昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部）

演者：**オピオイド製剤の鎮痛効果を高める併用薬の開発：新規オピオイド鎮痛補助薬として**
上園 保仁（東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座）

EL4 6月14日（金）11:00-11:40
スペシャルポピュレーションに対する薬物療法を考える 第11会場

座長：岡本 明大（三重大学医学部附属病院薬剤部）

演者：**スペシャルポピュレーションに対する薬物療法を考える**
国分 秀也（湘南医療大学薬学部臨床薬理学研究室）

EL5 6月14日（金）11:00-11:40
視覚・聴覚・知的障害のあるがん患者～ニーズを想像できる医療者・支援者であるために～ 第12会場

座長：大谷 弘行（聖マリア病院）

演者：**視覚・聴覚・知的障害のあるがん患者～ニーズを想像できる医療者・支援者であるために～**
八巻 知香子（国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部）

EL6 6月14日（金）13:20-14:00
発達特性を持つ人への関わりと支援 第10会場

座長：酒見 惇子（神戸大学医学部附属病院）

演者：**患者さんの「伝え方」「受けとり方」のクセを考える～ “発達特性”という視点～**
松元 和子（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

EL7 6月14日（金）15:00-16:00
サイコオンコロジーを動かす医療AI 第2会場

座長：嶋田 和貴（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）

演者：**コミュニケーションの観点からみたAI技術の活用**
五十嵐 江美（東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野）

コミュニケーションツールとしてのGenerative Artificial Intelligenceの可能性
華井 明子（千葉大学大学院 情報学研究院）

EL8 6月14日（金）15:00-15:40
緩和ケアにおける適応外使用について考える 第3会場

座長：塩川 満（聖隷横浜病院 薬剤部）

演者：**緩和ケアにおける適応外使用について考える**
中川 貴之（和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部）

EL9 6月14日（金）15:00-15:40
神経ブロックの基本のき 第5会場

座長：鈴木 梢（がん・感染症センター都立駒込病院）

演者：**神経ブロックの基本のき**
小杉 寿文（佐賀県医療センター好生館）

EL10 6月14日（金）15:00-16:00
ミックスメソッドのすすめ 第11会場

座長：市倉 加奈子（北里大学医療衛生学部保健衛生学科）

演者：**ミックスメソッドってなに？　基本的な考え方と研究事例**
千葉 宏毅（北里大学医学部 医学教育研究部門）

複合的介入の臨床試験におけるプロセス評価とはなにか?
釆野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

EL11 6月14日（金）15:00-15:40
心不全における精神心理的苦痛の評価と緩和ケア 第7会場

座長：小早川 誠（広島赤十字・原爆病院）

演者：**心不全における精神心理的苦痛の評価と緩和ケア**
西村 勝治（東京女子医科大学医学部精神医学講座）

EL12
鎮痛補助薬って、実際どう使い分けるの？

6月14日（金）15:00-15:40
第13会場

座長：間宮 敬子（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 緩和部門）

演者：**鎮痛補助薬の作用機序×痛みの病態をアセスメントする**
～医療者のセレクションミスで鎮痛補助薬の育薬を阻害しないために～
田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬）

EL13
がん医療における心理療法を「きちんと学ぶ」シリーズ第2回：アクセプタンス＆コミットメント・セラピー

6月15日（土）11:00-12:00
第1会場

座長：藤澤 大介（慶應義塾大学医学部 医療安全管理部/精神神経科）

演者：**がん医療における心理療法を「きちんと学ぶ」シリーズ第2回：アクセプタンス&コミットメント・セラピー**
酒井 美枝（名古屋市立大学大学院 医学研究科 精神・認知・行動医学）

EL14
排尿障害の緩和ケア

6月15日（土）11:00-11:40
第4会場

座長：三浦 剛史（セコメディック病院）

演者：**排尿障害の緩和ケア**
～どのタイミングで泌尿器科医へコンサルテーションされますか?～
増本 弘史（国立病院機構 福山センター）

EL15
緩和的放射線治療のエビデンス

6月15日（土）11:00-11:40
第5会場

座長：徳原 真（東海大学医学部緩和医療学）

演者：**科学的根拠に基づいた緩和的放射線治療**
中村 直樹（聖マリアンナ医科大学 放射線治療科）

EL16
サバイバーに聴く サバイバーシップケアとは何か

6月15日（土）11:00-12:00
第6会場

座長：高橋 都（NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク）

演者：**がんを越えて生きるということ～大切なこと、例えば働くことを通して～**
村本 高史（サッポロビール株式会社）

この10年で感じている、がんサバイバーシップとそのケアについて
岸田 徹（NPO法人がんノート）

EL17
医療を受ける子供への上手な関わり方

6月15日（土）11:00-12:00
第8会場

座長：多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター）

演者：**医療を受けるこどもたちの様々な主体性を支える**
常石 悠子（静岡県立静岡がんセンター）

傷つきのある子どもへの回復・成長のためのかかわり～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～
副島 賢和（昭和大学大学院）

EL18
ガイドラインで推奨されたDecision Aids、質問促進リストの使い方

6月15日（土）11:00-12:00
第11会場

座長：浦久保 安輝子（公益財団法人日本医療機能評価機構 EBM医療情報部）
白井 由紀（京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）

演者：**がん医療における質問促進リスト**
岡村 優子（国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

がん医療におけるDecision Aids
大坂 和可子（慶應義塾大学看護医療学部）

シンポジウム

SY1
“がん医療の妊孕性温存” ―今ある命と、今ここにない命をどう考えるか―

6月14日（金）9:20-10:50
第4会場

座長：鈴木 直（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター）

演者：**妊孕性温存後生殖補助医療を支える共有意思決定とは**
奈良 和子（亀田総合病院）

がん・生殖医療の歴史的背景と基礎知識
鈴木 直（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

妊孕性温存におけるがん治療医の葛藤
北野 敦子（聖路加国際病院 腫瘍内科）

予後不良・再発のがん患者・家族における妊孕性温存と死後生殖をめぐる心理的社会的課題
小泉 智恵（獨協医科大学埼玉医療センターリプロダクションセンター）

SY2
がん患者の気持ちのつらさガイドライン

6月14日（金）9:20-10:50
第5会場

座長：奥山 徹（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 精神科・緩和ケアセンター）
藤森 麻衣子（国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部）

演者：**気持ちのつらさガイドラインの概要**
藤澤 大介（慶應義塾大学医学部 医療安全管理部/精神神経科）

がん患者における気持ちのつらさガイドライン
～がん患者の気持ちのつらさに抗不安薬/抗うつ薬の投与は推奨されるか～
倉田 明子（広島大学病院 精神科/緩和ケアセンター）

がん患者の気持ちのつらさに心理療法は推奨されるか
柳井 優子（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

「がん患者の気持ちのつらさガイドライン」
気持ちのつらさを有するがん患者に、協働的ケアは推奨されるか?
岡島 美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）

気持ちのつらさを有するがん患者に対して、早期からの緩和ケアは推奨されるか?
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

気持ちのつらさを有するがん患者において、介護者に対する心理社会的介入は推奨されるか
岡村 優子（国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

がん患者の気持ちの辛さに対してピアサポートは有用か
吉川 栄省（日本医科大学 医療心理学教室）

成人がん患者の再発恐怖に対する心理療法は推奨されるか
竹内 恵美（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部）

SY3
様々な形のピアサポート

6月14日（金）9:20-10:50
第8会場

座長：齋藤 円（市立ひらかた病院）
野田 真由美（NPO法人支えあう会「α」）

演者：**患者会が行う病院内でのピアサポートについて**
古谷 浩（精巣腫瘍患者友の会 J-TAG）

がん体験を企業の価値としてとらえる　～支えられた経験を新たな価値へ～
桜井 なおみ（一般社団法人CSRプロジェクト）

熊本県のピアサポート活動
馬見塚 まゆみ（がんサロンネットワーク熊本）

がんピアサポーターとの協働
尾川 洋子（富山県社会福祉協議会 富山県がん総合相談支援センター）

SY4
がんと診断された時からの緩和ケアを推進するためのがん治療医との連携
6月14日（金）9:20-10:50
第11会場

座長：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

演者：**がん治療医と緩和ケアチームをつなげるための外科医チェアマンの実践**
廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

がんと診断された時からの緩和ケアの推進～がん治療医と薬剤師の連携からの一考～
龍 恵美（長崎大学病院 薬剤部）

進行再発がん患者を診断の早期から治療医と共に支える
伊藤 由美子（兵庫県立がんセンター）

外科医の背景をもった緩和医療学会専門医が考える緩和ケアを推進するためのがん治療医との連携
山﨑 圭一（ベルランド総合病院 緩和ケア科）

SY5
高齢者に対するがん診療のあり方を考える－高齢者への緩和ケア、意思決定支援－
6月14日（金）11:00-12:00
第4会場

座長：井上 彰（東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野）

演者：**高齢者に対するがん診療のあり方を考える　意思決定支援**
小川 朝生（国立がん研究センター東病院）

高齢化社会を先行する地方都市　がん診療の現状と未来　～支持療法・緩和ケアの視点から～
本間 英之（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア内科）

「高齢者に対するがん診療のあり方を考える-高齢者への意思決定支援　看護師の立場から-」
渡邉 眞理（湘南医療大学 保健医療学部看護学科）

SY6
コミュニケーションをどこで学ぶか、学ぶ機会をどうつくるか？
6月14日（金）13:20-14:50
第1会場

座長：木澤 義之（筑波大学 医学医療系 緩和医療学）

演者：**積み重ねがスキルになる**
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端基盤看護科学講座 看護倫理学分野）

SHARE-CST コミュニケーション技術研修
秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

医療コミュニケーショントレーニングスキル『かんわとーく』の概要と日本でのコミュニケーション研修における今度の展望
湯浅 美鈴（鈴鹿中央総合病院 緩和ケア内科）

コミュニケーションをどこで学ぶか、学ぶ機会をどう作るか?
看護師のコミュニケーションスキル“NURSE”
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

SY7
病院でも自宅でもない第3の場所におけるがん患者・家族への支援
6月14日（金）13:20-14:50
第2会場

座長：阿部 泰之（一般社団法人だいだいの丘）
市原 香織（淀川キリスト教病院）

演者：**地域に開かれたホスピスを**
宇野 さつき（ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス）

病院でも自宅でもない第3の場所におけるがん患者・家族への支援
～コロナとともに歩んだ　小さな街での看多機（看護小規模多機能型居宅介護）の役割～
横山 孝子（看護小規模多機能型居宅介護まるごとケアの家あいさん家）

患者視点で考える第3の場所の提案
彦田 かな子（がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念）

医師が始めた「居場所」創り-サードプレイスの観点から
阿部 泰之（一般社団法人だいだいの丘代表理事）

SY8
6月14日（金）13:20-14:50
第4会場

緩和ケアの実践におけるメンタルヘルス専門家の役割と課題―学際的視点から

座長：和田 信（大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 心療科（精神腫瘍科））

演者：**精神科医が緩和ケア病棟で主治医となってしていること**
津田 真（地方独立行政法人市立大津市民病院）

緩和ケアの現場におけるこころのケア
～緩和ケア認定看護師、精神看護専門看護師の立場から～
安達 なさ子（越谷市立病院 看護部）

緩和ケアの現場におけるコンサルテーション・リエゾン精神科の視点から
厚坊 浩史（がん研有明病院）

精神医学的視点からみる在宅医療
和田 知未（双樹会 守上クリニック 在宅診療部）

緩和ケアの実践における多職種の役割と課題―がん悪液質の視点から
天野 晃滋（大阪国際がんセンター 支持・緩和医療科）

SY9
6月14日（金）13:20-14:50
第5会場

緩和ケアと認知症 緩和ケア領域における認知症患者の意思決定支援－認知機能の評価も含めて－

座長：小川 朝生（国立がん研究センター東病院）
品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター）

演者：**認知症の緩和ケア　意思決定支援**
小川 朝生（国立がん研究センター東病院）

認知症の終末期の意思決定と緩和ケア
平原 佐斗司（東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所/オレンジほっとクリニック 地域連携型認知症疾患医療センター）

「認知症単身高齢者の尊厳の保持と自立支援について
～社会福祉の視点から～」
御牧 由子（静岡県立静岡がんセンター）

意思決定支援の前にBPSD（認知症の行動心理症状）の捉え方を変えてみよう～困った症状から、SOSのサインに～
西山 みどり（有馬温泉病院）

SY10
6月14日（金）13:20-14:50
第7会場

がんサバイバーの慢性疼痛治療

座長：笠原 庸子（秋本クリニック）
山代 亜紀子（洛和会音羽病院）

演者：**がんサバイバーの慢性疼痛に対する薬物療法　～オピオイド鎮痛薬の適正使用を中心に～**
上野 博司（京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部）

がんサバイバーの慢性疼痛に対する薬物療法以外の多面的アプローチ：心理社会的アプローチ、運動療法など
笹良 剛史（社会医療法人友愛会 豊見城中央病院）

がんサバイバーの慢性疼痛治療　薬剤師の視点
岡本 禎晃（公立大学法人 敦賀市立看護大学）

いつでも「痛い」と伝えられるために
松本 陽子（NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会）

SY11
6月14日（金）13:20-14:50
第11会場

緩和とサイコ､最新の研究up to date

座長：平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）
角甲 純（三重大学大学院）

演者：**緩和とサイコの臨床研究、臨床医からのup to date**
平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

緩和とサイコの臨床研究、薬剤師からのup to date
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

緩和とサイコの臨床研究、リハビリテーション専門職からのup to date
西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

緩和とサイコの臨床研究、心理職からのup to date
市倉 加奈子（北里大学医療衛生学部保健衛生学科）

緩和とサイコの臨床研究、看護師からのup to date
角甲 純（三重大学大学院）

SY12
終末期の口腔症状対応を再考する（口渇・粘膜炎・味覚障害）

6月14日（金）15:00-16:00
第4会場

座長：西島 薫（第二協立病院）
中島 信久（琉球大学病院 地域・国際医療部 緩和ケアセンター）

演者：**がん終末期の口腔症状に関する現状と課題**
荒川 さやか（国立がん研究センター中央病院）

終末期の口腔トラブルとその対応
上野 尚雄（国立がん研究センター中央病院 歯科）

経口摂取が困難となった終末期がん患者に対する口腔ケア-看護師の立場から-
麻生 咲子（静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程）

SY13
サバイバーのアイデンティティ確立、巣立ち、社会適応

6月14日（金）15:00-16:00
第14会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：**Long-Term Follow-Up for young adult survivors of pediatric cancer: successful treatment of mental health and transition of care**
Shweta Ghosh（Pediatric Psychologist, Hematology/Oncology/Bone Marrow Transplant, UCSF Benioff Children's Hospital Oakland）

Dina Hankin（Licensed Pediatric Psychologist）

SY14
緩和ケアにおける倫理的なジレンマへの対応～対話と合意形成について考える

6月14日（金）16:10-17:40
第3会場

座長：池永 昌之（淀川キリスト教病院）

演者：**終末期医療における倫理コンサルテーションチームの役割**
-生命維持治療の中止への対応を中心に-
多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター）

コロナ禍を経て緩和ケアの現場はどう変わったか　～ジレンマはどこへ消えた
新城 拓也（しんじょう医院）

緩和ケアにおける倫理的なジレンマへの対応～対話と合意形成について考える～
高見 陽子（大阪府済生会吹田病院）

チームの多様性と対話による合意形成
柏谷 優子（辻仲病院柏の葉）

SY15
緩和ケアに必要な思考と態度にどう介入するか～若いスタッフを育て、仲間を広げていくために

6月14日（金）16:10-17:40
第4会場

座長：大坂 巌（HITO病院緩和ケア内科）
新幡 智子（慶應義塾大学看護医療学部）

演者：**緩和ケアに携わる医師に必要な思考と態度への介入**
安保 博文（六甲病院）

専門的緩和ケアに従事する看護師に求められる思考と態度をいかに育むか
高野 純子（一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院）

緩和ケアを行う組織における対話的・ケア的な環境の重要性について
高橋 綾（大阪大学人文学研究科）

SY16
呼吸困難に対する非薬物的な対応

6月14日（金）16:10-17:10
第10会場

座長：渡邊 紘章（在宅緩和ケアあすなろ医院）
松沼 亮（医療法人社団クリノヴェイション）

演者：**呼吸困難に対する酸素療法　エビデンスと実践のポイント**
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

呼吸困難に対する高流量鼻カニュラ酸素療法のエビデンスと実践のポイント
萩本 聡（公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科 緩和ケア内科）

呼吸困難に対する看護ケアのエビデンスと実践のポイント
角甲 純（三重大学大学院）

悪性胸水の管理についてのエビデンスと実践のポイント
原納 遥（神戸大学医学部附属病院 緩和支持治療科）

SY17
がん患者のビタミンB1欠乏 ～忘れ去られた病態としての脚気～

6月14日（金）16:10-17:40
第11会場

座長：伊東 洋（医療法人広至会 伊東内科小児科医院）
内田 望（埼玉医科大学国際医療センター）

演者：**通院中がん患者のチアミン欠乏症**
吉岡 亮（三菱京都病院）

地域住民におけるビタミンB1欠乏の実態
内田 望（埼玉医科大学国際医療センター）

がん患者・家族における心理的苦悩の“鑑別”
石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター）

緩和医療における様々な病態に対し、ビタミンB1欠乏を鑑別に加えよう
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター）

SY18
緩和医療、サイコオンコロジーにおけるデジタル技術を用いた新たな患者支援

6月14日（金）16:10-17:40
第14会場

座長：内富 庸介（国立がん研究センター）
森田 達也（聖隷三方原病院）

演者：**がん患者の精神症状をスマートフォン精神療法で緩和する-分散型臨床試験基盤を用いた多施設ランダム化比較試験**
明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

質問促進リスト（QPL）アプリケーションを用いたコミュニケーション支援
藤森 麻衣子（国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部）

バーチャルリアリティ（VR）を用いた患者支援
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

デジタル技術を活用した運動療法によるがんサバイバー支援
松岡 豊（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部）

SY19
言語障害を抱える患者とのコミュニケーションを支える ～関わり方の工夫とデバイスの活用～

6月14日（金）16:10-17:40
第16会場

座長：谷向 仁（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

演者：**高齢者の言語症状の診方と代表的徴候**
繁信 和恵（公益財団法人浅香山病院精神科）

発声発語のメカニズムとその障害
坂井 麻里子（医療法人友紘会 友紘会総合病院 リハビリテーション科）

マイボイスのこれまでと今後の可能性
本間 武蔵（東京都立神経病院）

喉頭がんなどの病気によって声を失った方が着用するハンズフリー型のウェアラブル電気式人工喉頭について
竹内 雅樹（東京大学工学系研究科電気系工学専攻）

SY20
コミュニケーションについて何を明らかにしていく必要があるのか？

6月15日（土）9:20-10:50
第3会場

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

演者：**高齢がん患者におけるより良い意思決定支援につながるコミュニケーション**
菅野 康二（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター）

子どもの声―コミュニケーションをどのように追究するか
中嶋 祥平（帝京大学）

がん診療における地域・文化的要因-沖縄・東北・首都圏の3地域の比較から見えること
中島 信久（琉球大学病院 地域・国際医療部 緩和ケアセンター）

アプリケーションを用いた治療やケアについての医師との協働意思決定支援の有効性評価
小濱 京子（国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部）

コミュニケーションガイドラインの普及実装に向けて
大沢 恭子（滋賀県立総合病院 精神科）

SY21
がん悪液質で苦しむ患者と家族に対する身体症状、精神症状と心理社会的苦悩への多職種連携ホリティックマルチモーダルケア

6月15日（土）9:20-10:50
第5会場

座長：森 直治（愛知医科大学 緩和ケアセンター）
佐藤 理佳（静岡県立静岡がんセンター /聖路加国際大学大学院）

演者：**がん悪液質で苦しむ患者と家族へのホリスティックマルチモーダルケアの開発と効果判定**
天野 晃滋（大阪国際がんセンター 支持・緩和医療科）

がん悪液質ケアプロトコールの開発
坂口 達馬（愛知医科大学 緩和ケアセンター）

がん悪液質における薬剤師の役割～患者の治療のゴールに向けた薬学的アプローチ～
藤井 宏典（岐阜大学医学部附属病院）

がん悪液質に対する多職種連携ホリステックマルチモーダルケアを実践するための取り組み
久保 佳子（長野市民病院）

進行がん患者におけるNutrition Impact Symptomとうつ病との関連
阿部 晃子（横浜市立大学附属病院 緩和医療科）

SY22
がん患者の自殺 -アセスメントとケースマネジメントの実践-

6月15日（土）9:20-10:50
第6会場

座長：稲垣 正俊（島根大学）
石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター）

演者：**がん患者の自殺を予防するための試み―スクリーニングから精神科専門治療まで―**
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター）

がん患者の自殺予防とメンタルヘルス支援のための介入方略開発研究
河西 千秋（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）

がん患者の地域での自殺予防
大塚 耕太郎（岩手医科大学医学部神経精神科学講座）

SY23
スピリチュアルケアの実践における支援者の姿勢：人と人とのあいだ

6月15日（土）9:20-10:50
第11会場

座長：坂口 幸弘（関西学院大学人間福祉学部）

演者：**患者の葛藤と問いへの対応**
田村 恵子（大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター）

聴くという営みについて
中井 珠惠（愛染橋病院）

聴くことの難しさ
和田 信（大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 心療科（精神腫瘍科））

「医療とケアの現象学」からのコメントと問いかけ
榊原 哲也（東京女子大学現代教養学部人文学科哲学専攻）

SY24
多様な疾患や療養の場での緩和ケアを考える～専門家を超えて広げるために～

6月15日（土）9:20-10:50
第12会場

座長：浜野 淳（筑波大学 医学医療系）

演者：**ホスピス・緩和ケア病棟における非がん疾患の緩和ケアの実態と支援ニーズ**
浜野 淳（筑波大学 医学医療系）

多様な疾患を診る緩和ケア病棟
坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）

療養病床で地域に質の高い緩和ケアを提供するための挑戦
藤木 啓（医療法人社団誠和会 藤木病院）

全ての人と場所を育む緩和ケア　～多様な施設での協働型コンサルテーション・実践報告～
神谷 浩平（一般社団法人 MY wells 地域ケア工房）

SY25
出血への対応

6月15日（土）9:20-10:50
第13会場

座長：東 光久（奈良県総合医療センター）
柏木 夕香（新潟県立新発田病院 看護部）

演者：**出血への対応（IVRの立場から）**
濱中 章洋（北播磨総合医療センター）

進行がん患者の出血への対応　-緩和ケア内科医の立場から-
田中 佑加子（甲南医療センター）

がん性皮膚自壊創からの出血への対応　-皮膚・排泄ケア認定看護師の立場から-
菊池 絵里（国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院）

進行がん患者の出血への対応―放射線療法の立場から―
牧田 憲二（国立がん研究センター東病院 放射線治療科）

SY26
怖くない、脊髄鎮痛の管理をやってみよう

6月15日（土）9:20-10:50
第14会場

座長：小杉 寿文（佐賀県医療センター好生館）
佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

演者：**硬膜外持続鎮痛法の管理について**
山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

くも膜下鎮痛法について
久保 麻悠子（佐賀県医療センター好生館）

持続硬膜外カテーテル留置中の看護　～患者が希望する療養の場で生きるを支える～
久保川 純子（京都府立医科大学附属病院）

在宅における脊髄鎮痛の実際と課題について
阪口 志帆（ホームクリニックなぎの木）

SY27
AI時代の学び方

6月15日（土）11:00-12:00
第2会場

座長：平山 貴敏（こころサポートクリニック 心療内科・精神科・腫瘍精神科）

演者：**論文のインプット・アウトプットを効率化する方法**
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

chatGPTを活用した緩和医療の学習
大森 崇史（福岡ハートネット病院）

緩和ケアにおける最新AI研究とAIの学び方
升川 研人（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

SY28
死前喘鳴への対応

6月15日（土）11:00-12:00
第13会場

座長：西 智弘（川崎市立井田病院 腫瘍内科）
小林 成光（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）

演者：**改めて死前喘鳴の基礎と日本の現状の解説**
松沼 亮（神戸大学大学院医学研究科）

死前喘鳴に対する抗コリン薬の役割はあるのか?
山口 崇（神戸大学医学部附属病院）

死前喘鳴に対する看護のあり方
江川 亜希（甲南医療センター）

SY29
小児・AYA―エビデンス up to date

6月15日（土）13:30-15:00
第2会場

座長：林 みずほ（大阪大学医学部附属病院）
永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）

演者：**研究知を臨床の実践につなげるために**
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

終末期にある小児がんの子どもと家族が過ごす場所:大切な選択を支えるために何ができるか?
名古屋 祐子（宮城大学 看護学群 小児看護学領域）

小児・AYA患者とのコミュニケーション
吉田 沙蘭（東北大学大学院 教育学研究科）

SY30
緩和ケア専門職において必要な資質について考える

6月15日（土）13:30-15:00
第4会場

座長：長岡 広香（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

演者：**緩和ケアの専門職に大切な姿勢とは?**
池永 昌之（淀川キリスト教病院）

緩和ケアについて必要な資質について考える（看護の立場から）
小山 富美子（近畿大学看護学部設置準備室）

緩和ケア薬剤師に必要な資質を考える
宮部 貴識（国立病院機構舞鶴医療センター）

緩和ケアにおける四無量心
大坂 巌（社会医療法人石川記念会HITO病院 緩和ケア内科）

SY31
がん患者・家族への社会的支援の今～「誰ひとり取り残さない」を目指した方策～

6月15日（土）13:30-15:00
第6会場

座長：久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学 石川県がん安心生活サポートハウス）

演者：**社会的処方と重層的緩和ケア**
西 智弘（川崎市立井田病院 腫瘍内科）

医療者と市民の心を寄せ合い、希望の輪を広げる
森 一郎（医療法人協和会 協立記念病院）

がん相談支援センターのソーシャルワーカーの立場から考える社会的支援と取り残さない方策
萬谷 和広（国立病院機構大阪南医療センター）

SY32
高齢がん患者の人生の最終段階をどこで、どのように看ていくのか？

6月15日（土）13:30-15:00
第13会場

座長：白山 宏人（医）西日本平郁会 大坂北ホームケアクリニック）
桜井 隆（さくらいクリニック）

演者：**高齢がん患者の人生の最終段階をどこで，どのように看ていくのか?**
足立 誠司（国民健康保険智頭病院）

高齢がん患者の在宅看取りを通して、コンパッション・コミュニティを考えよう
二ノ坂 保喜（にのさかクリニック）

人生の最期の時を自宅で過ごしてもらえる在宅看護のコツ
黒澤 薫子（一般社団法人ハーモニーナース 在宅看護センター和音）

ホスピス住宅の暮らしの中の看取り
梅田 恵（ファミリー・ホスピス株式会社）

SY33
非がん緩和ケアの普及啓発

6月15日（土）13:30-15:00
第14会場

座長：山口 崇（神戸大学医学部附属病院）
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

演者：**心不全に対する緩和ケアの普及啓発**
大石 醒悟（医療法人社団 まほし会 真星病院 循環器内科）

非がん性呼吸器疾患の緩和ケア
木村 尚子（恩賜財団 済生会横浜市南部病院）

非がん患者に対する在宅緩和ケアの普及啓発
首藤 真理子（みなとホームケアクリニック）

救急集中治療分野での緩和ケアの実践
石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

SY34
Stroke Oncology(腫瘍脳卒中学)

6月15日（土）15:10-16:40
第7会場

座長：川崎 成章（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
熊野 宏治（パナソニック健康保険組合 松下記念病院）

演者：**脳卒中、がん治療、緩和ケア、サイコオンコロジー　～腫瘍内科医の立場から、学際的な取り組みの重要性を考える～**
高野 利実（がん研有明病院 乳腺内科）

Stroke Oncology（腫瘍脳卒中学）脳卒中診療医の立場から
河野 浩之（杏林大学 医学部 脳卒中医学教室）

Stroke Oncologyにおけるリハビリテーション治療の役割と課題
土方 奈奈子（国立がん研究センター東病院 リハビリテーション科）

SY35
非がん緩和ケアーエビデンス up to date

6月15日（土）15:10-16:40
第10会場

座長：菅野 康二（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター）
青山 真帆（東北大学大学院医学系研究科 緩和ケア看護学分野）

演者：**心不全・呼吸不全の緩和ケア**
高木 雄亮（株式会社CureApp）

救急・集中治療領域の緩和ケア　up to date
三好 祐輔（神戸市立医療センター中央市民病院）

認知症、精神疾患の緩和ケアーエビデンス　up to date
齋藤 円（市立ひらかた病院精神科）

SY36
専門的緩和ケアの医療体制が不十分な療養の場での看取りの現状と課題

6月15日（土）15:10-16:40
第11会場

座長：風間 郁子（ウィル訪問ステーション江戸川）

演者：**専門的在宅緩和ケアの医療体制が不十分な療養の場での看取りケアの現状と課題**
村上 真基（あゆみ緩和ケアクリニック）

住み慣れた地域での暮らしを支える
～ホスピス住宅の取り組みと課題
杉田 智子（ファミリー・ホスピス京都北山ハウス）

一般急性期病院での専門的緩和ケアの取り組みと課題
～いのちのバトンを受け、地域へ繋ぐために～
小林 礼子（小山記念病院）

FlexibleでSeamlessなホスピス緩和ケアを目指した地域包括ケア病床の活用
相河 明規（裾野赤十字病院）

SY37
苦痛に対するアルゴリズム治療開発の現在地

6月15日（土）15:10-16:40
第14会場

座長：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）

演者：**進行がん患者における呼吸困難に対するアルゴリズム治療開発の現在地**
森 雅紀（聖隷三方原病院）

鎮静と過活動型せん妄に対するアルゴリズム治療開発
今井 堅吾（聖隷三方原病院 ホスピス科）

がん疼痛に対するアルゴリズム治療開発の現在地
平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

がん疼痛に対するアルゴリズム治療における専門的鎮痛法の位置付け
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

在宅医療におけるがん患者の終末期過活動せん妄に対するアルゴリズムの開発状況
阿部 晃子（横浜市立大学附属病院 緩和医療科）

パネルディスカッション

PD1
在宅で使えるちょっとした緩和ケアのスキル

6月14日（金）9:20-10:50
第3会場

座長：河原 正典（岡部医院仙台）
濵本 千春（YMCA訪問看護ステーション・ピース）

演者：**在宅で使えるちょっとした緩和ケアのスキル～ケアを紡ぐ地域医療のチカラ～**
品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター）

在宅緩和ケアにおけるコミュニケーションと症状緩和
清水 政克（医療法人社団 清水メディカルクリニック）

個性あふれる薬剤管理にどうかかわるか
餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）

在宅における訪問看護師のケアの視点
倉持 雅代（青戸訪問看護ステーション）

PD2
地域でがん患者を支える体制づくり：病院と在宅の協働

6月14日（金）9:20-10:50
第10会場

座長：加藤 薫（かとう内科並木通り診療所）
宇野 さつき（ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス）

演者：**地域緩和ケア連携調整員の役割とがん患者・家族の意向に沿った療養ができる地域づくり**
川島 正裕（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科）

在宅緩和ケア医の視点から考えるがん患者の地域連携
佐藤 悠子（爽秋会 岡部医院仙台）

がん患者の希望をシームレスに繋ぐ病院の取り組み
～診断から在宅緩和ケア移行期における連携～
安富 由紀（静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター）

PD3
不確かな情報に揺れ動く患者を、私たちはどう支援すれば良いのか？

6月14日（金）9:20-10:50
第13会場

座長：高野 利実（がん研有明病院 乳腺内科）
和田 佐保（国立がん研究センター がん対策所 がん医療支援部/中央病院 精神腫瘍科）

演者：**がんに効くという食品や栄養素に関する不確かな情報に揺れ動く患者への対応**
腰本 さおり（東京家政学院大学人間栄養学部）

「がん情報サービス」における情報作成の実際と普及に向けた取り組み：患者支援におけるWeb情報の活用可能性の検討
堀拔 文香（国立がん研究センターがん対策研究所）

支援の手前で考えるべきこと
田代 志門（東北大学大学院文学研究科）

医療現場において指示的態度は好ましくないか?
～「支持的」と「指示的」のバランスを考える～
谷向 仁（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

PD4
緩和ケアにおける患者・市民参画の現状と展望

6月14日（金）9:20-10:50
第14会場

座長：有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）
森 一郎（医療法人協和会 協立記念病院）

演者：**患者・市民の立場から**
山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML）

共に築く未来への一歩：緩和ケアサロンからの患者・市民参画
森 一郎（医療法人協和会 協立記念病院）

緩和ケアの普及・啓発について緩和ケア普及啓発WPGの立場から
大津 裕佳（三菱京都病院）

緩和医療・サイコオンコロジー研究における患者・市民参画：患者・市民とともにあゆむJ-SUPPORT
内富 庸介（国立がん研究センター）

緩和ケアにおける患者・市民参画の現状と展望
有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）

PD5
これからの世界に求められる学術誌の役割
“The Role of Academic Journals in the Coming World”

6月14日（金）9:20-10:50
第16会場

座長：関根 龍一（亀田総合病院）
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端基盤看護科学講座 看護倫理学分野）

演者：**PCR（Palliative Care Research）誌の課題**
関根 龍一（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科）

The Role of Academic Journals in the Coming World
Christopher Jones（Associate Professor of PC/Editor in Chief, Journal of Palliative Med）

これからの世界に求められる「Palliative Care Research」誌の役割
佐藤 一樹（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

PD6
私たち医療者は「ヤングケアラー」という言葉とどう向き合い、支援できるのか
―病院・自宅での支援の現場から―

6月14日（金）11:00-12:00
第2会場

座長：池山 晴人（大阪国際がんセンター）

演者：**がん医療におけるヤングケアラーについて考える**
白石 恵子（国立病院機構九州がんセンター）

子どもの世界を理解し、支える
～がん患者の子どもたちは皆、「ヤングケアラ―」なのか?～
赤川 祐子（秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座）

医療現場におけるヤングケアラー　～在宅医療の現場で支援する～
渡邊 紘章（在宅緩和ケアあすなろ医院）

PD7
スタッフのレジリエンスについて考える～緩和領域でのしなやかさを育む～

6月14日（金）11:00-12:00
第6会場

座長：關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

演者：**がん患者の感情と向き合うための備えと支え―心理士の立場から―**
岡本 恵（京都第一赤十字病院 精神科（心療内科）、緩和ケア内科）

緩和ケアの現場で医師がしなやかに働き続けるために
野里 洵子（東京医科歯科大学病院 緩和ケア科）

しなやかな組織を作るために　～看護管理者の視点～
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

PD8
AYA世代と社会との繋がり－YA世代の就労を通して、社会全体の課題を考える－

6月14日（金）13:20-14:50
第12会場

座長：枷場 美穂（静岡県立静岡がんセンター）
名古屋 祐子（宮城大学 看護学群 小児看護学領域）

演者：**YA世代の就労支援**
前田 留里（NPO法人京都ワーキング・サバイバー）

就労・社会参加・寄り添いの支援
大濱 江美子（大阪市立総合医療センター）

YA世代のがん患者と家族の就労
岡田 弘美（東京医療保健大学 医療保健学部）

YA世代の就労支援の現状とこれからへの期待-がん専門病院の実践から-
坂本 はと恵（国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院）

PD9
呼吸困難に対する薬物治療：疾患での違い

6月14日（金）16:10-17:40
第5会場

座長：松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）
山本 亮（佐久総合病院佐久医療センター緩和ケア内科）

演者：**がん患者の呼吸困難に対する薬物療法**
高木 雄亮（株式会社CureApp、帝京大学臨床研究センター、戸田中央総合病院）

非がん性呼吸器疾患の呼吸困難に対する薬物療法
立川 良（神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科）

末期心不全患者の治療抵抗性呼吸困難に対するモルヒネの有効性と安全性の検討
濱谷 康弘（国立病院機構 京都医療センター）

筋萎縮性側索硬化症における呼吸苦に対する緩和医療
清水 俊夫（東京都立神経病院）

PD10
がん患者における心理社会的因子を主とする痛みを再検討する ～さまざまな領域のエキスパートの視点から～

6月15日（土）9:20-10:50
第1会場

座長：明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）
茅野 綾子（国立がん研究センター 中央病院）

演者：**機序に基づいた疼痛治療**
天谷 文昌（京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室）

がん患者における身体症状症による痛み
名越 泰秀（京都第一赤十字病院 精神科（心療内科））

がん患者の痛みを心理士の視点から考える～不安と自己効力感に焦点を当てたアプローチ～
岡本 恵（京都第一赤十字病院 精神科（心療内科）、緩和ケア内科）

人はなぜ薬物依存症になるのか?～薬物依存症臨床の立場から
松本 俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部）

PD11
緩和ケア・サイコオンコロジーの卒前卒後教育

6月15日（土）9:20-10:50
第2会場

座長：東端 孝博（筑波大学附属病院 緩和支持治療科）
川崎 優子（兵庫県立大学）

演者：**がん看護専門看護師としての看護師卒後教育の活動の実際　-院内から地域に広がるがん看護卒後教育-**
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

医師・医学生を対象とした緩和ケア・サイコオンコロジー教育
采野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

緩和医療を担う薬剤師育成のための教育プログラムの構築
内田 まやこ（同志社女子大学 臨床薬学教育研究センター）

緩和ケア・サイコオンコロジーにおけるリハビリテーション療法士の卒前卒後教育に関する現状と課題
立松 典篤（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

緩和ケア・サイコオンコロジーにおける心理職の卒前卒後教育に関する課題
中西 健二（鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科）

PD12
緩和治療の介入研究体制の構築を目指して

6月15日（土）9:20-10:50
第4会場

座長：金石 圭祐（JCHO東京新宿メディカルセンター）

演者：**緩和医療・サイコオンコロジー領域での複数のランダム化比較試験の経験より見えてきたもの**
松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

間質性肺疾患の呼吸困難に対するモルヒネの臨床試験を実施して経験した課題
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）

緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの有効性検証試験を多施設共同で行った経験から感じた課題とその対応策
西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

多様な場面への対応が求められる専門的緩和ケアチームによる介入試験の経験と課題
沖﨑 歩（国立がん研究センター東病院緩和医療科）

終末期がん患者を対象とした薬物臨床試験への挑戦
―緩和医療に関する臨床試験をどのように推進していていくべきか―
三輪 聖（聖隷三方原病院 ホスピス科）

PD13
多職種の専門性を引き出すチームビルディング

6月15日（土）9:20-10:50
第7会場

座長：秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）
山本 瀬奈（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

演者：**緩和ケアチームが機能するために～緩和ケアチームの手引きとチーミング～**
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

チーム医療・多職種連携を促進するコーディネート能力とは　-研究的取り組みから-
飯岡 由紀子（埼玉県立大学）

チーム活動の実際① 緩和ケア分野における実践
吉岡 とも子（京都府立医科大学附属病院 看護部）

4）チーム活動の実際②　退院支援・地域連携分野における実践
関根 知嘉子（国立病院機構 大阪医療センター）

PD14
こどものホスピスや家族滞在施設の紹介

6月15日（土）9:20-10:50
第8会場

座長：宮本 二郎（ゆずりは訪問診療所）
松岡 真里（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻）

演者：**患者家族滞在施設リラのいえと横浜こどもホスピス～うみとそらのおうち**
田川 尚登（認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト）

TSURUMIこどもホスピスが取り組む、地域における小児緩和ケアの実践と課題
水谷 綾（公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト）

生命を脅かす病気とともにある子どもと家族に向けた緩和ケア：コミュニティ型こどもホスピスにおける実践
津村 明美（認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト）

病院近くの第2のわが家「福岡ファミリーハウス」の役割とあゆみ
髙原 登代子（NPO法人福岡ファミリーハウス）

PD15
がん悪液質に対するホリスティックマルチモーダルケアを実践するための多職種への教育

6月15日（土）13:30-14:30
第3会場

座長：天野 晃滋（大阪国際がんセンター）
毛利 貴子（京都府立医科大学大学院保健看護学研究科）

演者：**がん悪液質に対するホリスティックマルチモーダルケアの教育プログラム開発に向けて**
森 直治（愛知医科大学 緩和ケアセンター）

薬剤師のがん悪液質ケアの認識と実態
岡村 知美（大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 データセンター）

がん悪液質に対するホリスティックマルチモーダルケアを実践するための看護師への教育
佐藤 理佳（静岡県立静岡がんセンター）

PD16
就労支援

6月15日（土）13:30-15:00
第7会場

座長：佐藤 温（弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座）
坂本 はと恵（国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院）

演者：**企業におけるがん患者の就労支援の現状とその課題および展望　―　産業医の立場から**
南雲 智子（富士通株式会社 健康推進本部）

ピア・サポーター、患者団体、社会的人材リソースは就労支援に貢献できるのか
吉田 稔（日本赤十字社熊本健康管理センター）

がんサバイバーの就労～生存戦略とその先へ～
谷島 雄一郎（ダカラコソクリエイト）

PD17
非がんの緩和ケアの実態

6月15日（土）13:30-15:00
第10会場

座長：田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬）
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

演者：**市中病院での非がん疾患への緩和ケアデリバリー　～エクステンシビストと移行期ケア～**
柏木 秀行（飯塚病院）

大学病院における非がん緩和ケアの現状と課題
木村 有里（神戸大学医学部附属病院）

COVID-19患者への全人的ケア提供プロセスにおけるIPOSの実装
松村 優子（京都市立病院 がん相談支援センター）

非がん患者の緩和ケアの評価～患者報告型アウトカムの評価ツールIPOSの活用から見えてきたこと～
石井 容子（自治医科大学 看護学部）

PD18
オピオイド持続注射を在宅や一般病棟で安全に、効果的に使うための工夫

6月15日（土）13:30-15:00
第11会場

座長：清水 正樹（京都桂病院 緩和ケア科）
大津 裕佳（三菱京都病院）

演者：**在宅におけるオピオイド持続皮下注の課題と対策**
平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック）

入院中から在宅へ、PCAで繋ぐ疼痛コントロールの実際
石川 彩夏（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

一般病棟における医療用麻薬の持続皮下注射の実際
畑 弥生（洛和会音羽病院）

オピオイド持続注射を安全に、効果的に使うための訪問看護師による工夫
賢見 卓也（みる看る訪問看護ステーション）

PD19
大規模RCTのネガティブデータの衝撃！
治療選択肢が否定されたとき、目の前の患者の症状をどう緩和すればよいか？

6月15日（土）15:10-16:40
第5会場

座長：前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院）
飯田 真之（神戸大学医学部附属病院）

演者：山口 崇（神戸大学医学部附属病院）
横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支持治療科）
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）

PD20
一般病棟・在宅における終末期の身の置き所のなさへのケア

6月15日（土）15:10-16:40
第6会場

座長：釆野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

演者：**終末期における身の置き所のなさとは**
河野 佐代子（慶應義塾大学病院）

終末期のせん妄
秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）

在宅療養を継続するための「地域の医療チーム」の連携
～訪問診療所看護師の立場から～
日塔 裕子（くげぬま緩和ケア内科）

終末期の苦悩　terminal anguish
川島 夏希（筑波大学附属病院 緩和支持治療科 緩和ケアセンター）

ワークショップ

WS1
ベテラン医師も悩んでいる! 困難な状況に挑む向精神薬薬物療法

6月14日（金）13:20-14:50
第3会場

座長：井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）
山田 了士（地方独立行政法人岡山県精神科医療センター）

演者：**「アルコール多飲」や「非けいれん性てんかん重積（NCSE)」を併存するがん患者の困難な病態に対する向精神薬投与を考える**
井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）

「重症心不全」「パーキンソン病」を併存する患者の不穏に対する薬物療法を考える
谷向 仁（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

「肝機能障害」「脳血管障害」を併存するがん患者の対応困難な病態に対する向精神薬投与を考える
佐伯 吉規（がん研有明病院 緩和治療科）

「重度腎障害・透析中」や「呼吸不全」を併存するがん患者の対応困難な病態に対する向精神薬投与を考える
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院）

WS2
希望につながる統合医療～治療・予防・QOLの向上を目指して

6月14日（金）13:20-14:50
第13会場

座長：船戸 崇史（船戸クリニック）
大西 佳子（京都市立病院）

演者：**がん患者滞在型リトリート「リボーン洞戸」という統合医療の実践**
船戸 崇史（船戸クリニック）

緩和ケアと漢方
間宮 敬子（信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター）

緩和ケアにおける臨床アロマセラピーの効果と意味
相原 由花（ホリスティックケアプロフェッショナルスクール）

“よりよく生きる”を支援する音楽療法
柴田 恵美（洛和会京都音楽療法研究センター）

WS3 6月14日（金）13:20-14:50
在宅で倫理的な問題の意思決定をすすめる上での障壁とコツ 第16会場

座長：橋本 孝太郎（医療法人社団爽秋会 ふくしま在宅緩和ケアクリニック）
德谷 理恵（ピースホームケアクリニック）

演者：**在宅医療の臨床現場における倫理的課題を考える難しさ**
橋本 孝太郎（医療法人社団爽秋会 ふくしま在宅緩和ケアクリニック）

薬局薬剤師の立場から倫理的課題を考える
西村 秀明（株式会社ニシムラ・ウェル・ビーイング ニシムラ薬局）

在宅医療おける倫理的ジレンマを看護師の立場から考える
富澤 あゆみ（ひとつぶ診療所）

私の視点：在宅医療の文脈を意識して関わる
大屋 清文（ピースホームケアクリニック京都）

WS4 6月14日（金）16:40-17:40
ProsCons企画：週単位の予後と考えられる患者の頻回なレスキュー投与を許容するか 第2会場

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）
岡本 禎晃（市立芦屋病院）

演者：餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）
重野 朋子（筑波大学附属病院看護部）
前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院）
大橋 晃太（トータス往診クリニック）

WS5 6月15日（土）11:00-12:00
業務効率化と緩和ケア -必然性と必要性- 第3会場

座長：平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック）

演者：**業務効率化と緩和ケア -必然性と必要性- 薬剤師の視点から**
岡本 禎晃（敦賀市立看護大学）

業務効率化と緩和ケア　病院医師の立場から
吉岡 亮（三菱京都病院）

業務効率化と緩和ケア -必然性と必要性-
看護師の立場から考える
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

WS6 6月15日（土）14:50-16:50
せん妄GLを使いこなそう！ 第3会場

演者：井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）
北浦 祐一（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 精神神経科）
野村 優子（東京都立駒込病院 看護部 緩和ケアセンター）

ファシリテータ：和田 佐保（国立がん研究センター がん対策研究所がん医療支援部/中央病院精神腫瘍科）
角甲 純（三重大学大学院）

委員会企画

CM1 6月14日（金）9:20-10:50
緩和ケアを語り聴き癒しあおう2024～緩和ケアに携わる看護師のための悩み・相談ブース～ 第2会場
【日本緩和医療学会 教育・研修委員会】

座長：小林 孝一郎（白井聖仁会病院 緩和ケアセンター）
酒井 禎子（新潟薬科大学看護学部）

演者：**緩和ケアの魅力を語り合おう**
田村 恵子（大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構事業化研究推進センター）

緩和ケアの悩みを相談しよう
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

エキスパートのキャリアパスを聞いてみよう
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

一緒に考えよう！　～緩和ケア、EOLケアをどう教育していくか～
西山 みどり（有馬温泉病院）

CM2
2024診療報酬・介護報酬改定のポイント
【日本緩和医療学会 健康保険・介護保険委員会】

6月14日（金）9:20-10:50
第6会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

演者：**緩和医療に関する施策及び診療報酬の概要について**
原澤 朋史（厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課）

R6改定に対する学会の取り組みとR8改定へ向けての課題
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

看護領域における診療報酬・介護報酬改訂の取り組み
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

がん患者の痛みに対して神経ブロックを普及させるための方策について
上野 博司（京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部）

CM3
専門医・認定医フォーラム
【日本緩和医療学会 専門医認定委員会、専門医育成・教育委員会】

6月14日（金）9:20-10:50
第7会場

座長：久永 貴之（筑波メディカルセンター病院・専門医認定委員会）
柏木 秀行（飯塚病院）

演者：**専門医制度改訂概要**
久永 貴之（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

新制度での専門医・認定医申請にあたり留意すること
山田 博英（総合病院 聖隷浜松病院）

指導医と指導医講習会に関して
山口 健也（地域医療機能推進機構九州病院 総合診療科・緩和ケア科）

緩和医療専門医・指導医のためのFaculty Developmentプログラムの確立
釆野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

日本専門医機構サブスペシャルティ領域専門医制度
橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）

CM5
学会の新しいロゴお披露目します！
【日本緩和医療学会 広報委員会】

6月14日（金）13:20-14:50
第14会場

座長：永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

演者：**「ブランディング」とはなにか―日本緩和医療学会の広報にブランディングを活かす**
永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）

広報委員会がしてきたこと
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

日本緩和医療学会のブランディングって?
相木 佐代（独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科）

あたらしいロゴマーク―日本緩和医療学会のシンボルとして
永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）

CM6
サイコオンコロジストとして医師はどう活動すべきか
【日本サイコオンコロジー学会 専門医(登録医)制度委員会】

6月14日(金)16:10-17:40
第6会場

座長：小早川 誠（広島赤十字・原爆病院）
増田 昌人（琉球大学病院がんセンター）

演者：**登録精神腫瘍医制度のいま、そして未来**
小早川 誠（広島赤十字・原爆病院 精神科）

登録精神腫瘍医としてがん患者の全人的苦痛にどう向き合うか
―精神科医が緩和医療に従事し考えること―
河野 裕太（公立阿伎留医療センター 緩和治療科）

がん・緩和ケア領域における精神科医のニーズと「やりがい」
倉田 明子（広島大学病院 精神科/緩和ケアセンター）

サイコオンコロジストとして私はどう活動してきたか―心療内科医の立場から―
稲田 修士（埼玉県立がんセンター 心療内科）

CM7
患者の価値観と医療の調和について多職種で考える
【日本サイコオンコロジー学会 薬剤師教育検討小委員会】

6月14日(金)16:10-17:40
第7会場

座長：工藤 浩史（国立国際医療研究センター病院）
武村 尊生（東北福祉大学 総合福祉学部福祉心理学科）

演者：**がん患者の精神心理ケアを理解し調和を意識した薬剤師のかかわり～コンコーダンスを意識した薬物療法サポート～**
佐伯 朋哉（国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院）

各々の価値観の違いに直面した時とがん患者の治療やケアのBest Practice　-がん看護専門看護師の立場より-
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

患者・家族の価値観を知るための傾聴スキル
清水 研（がん研有明病院 腫瘍精神科）

CM8
緩和ケア・精神腫瘍学の基本教育の15年：PEACEのこれまでとこれからを考える
【日本緩和医療学会 委託事業委員会】

6月14日(金)16:10-17:40
第12会場

座長：秋月 伸哉（がん・感染症センター 都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック）
下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

演者：**PEACEプロジェクトの来し方とゆくえ**
永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）

がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会―身体モジュールを中心に
山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会―精神科医・日本サイコオンコロジー学会としての立場から
五十嵐 江美（東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野）

CM9
メサドンを安全に投与する
【日本緩和医療学会 安全感染委員会】

6月14日(金)16:10-17:40
第13会場

座長：松田 良信（市立芦屋病院 緩和ケア内科）
龍 恵美（長崎大学病院 薬剤部）

演者：**メサドンを安全に投与する**
～看護師の立場から考える～
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

メサドンによる安全な薬物療法のために薬剤師ができること
大内 竜介（東北医科薬科大学薬学部病院薬剤学教室）

メサドン処方における現状の課題と今後の展開
的場 元弘（青森県立中央病院）

CM10
「今、緩和医療に求められる遺族ケア ～生前から死別後まで～」
【日本サイコオンコロジー学会 遺族ケアGL委員会】

6月15日（土）13:30-15:00
第8会場

座長：倉田 明子（広島大学病院 精神科/緩和ケアセンター）
浅井 真理子（帝京大学薬学部）

演者：**遺族ケアに関する研究～生前から繋がるケア～**
青山 真帆（東北大学大学院医学系研究科 緩和ケア看護学分野）

「今、緩和医療に求められる遺族ケア　～生前から死別後まで～」医療者ができる生前からの家族への関わり
井上 実穂（国立病院機構 四国がんセンター 心理支援室）

がん患者遺族を“診る” -遺族外来の取り組みから-
石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター）

Prolonged Grief Disorder に関連した精神医学的診断
清水 加奈子（六番町メンタルクリニック）

事例検討

CS1
希死念慮

6月14日（金）9:20-10:20
第17会場

座長：厚坊 浩史（がん研有明病院）

演者：**がん患者の『希死念慮』に多職種にてどう関わる?**
牧村 ちひろ（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科）

CS2
家族

6月14日（金）11:00-12:00
第17会場

座長：山田 宇以（聖路加国際病院 心療内科）

演者：**家族の強迫症の加療の過程で、患者のAdvance care planningに変化を認めた一例**
黒田 綾（神戸赤十字病院）

CS3
ケミカルコーピング

6月14日（金）13:20-14:20
第17会場

座長：山口 健也（地域医療機能推進機構九州病院 総合診療科・緩和ケア科）

演者：**ケミカルコーピングを取り巻く患者・医療者の陰性感情の扱いについて**
山根 朗（淀川キリスト教病院）

CS4
臨床倫理

6月14日（金）15:00-16:00
第17会場

座長：瀧本 禎之（東京大学医学部附属病院 心療内科/患者相談・臨床倫理センター）

演者：**進行期難治がんにおける薬物療法に関する医学的判断と、患者の自律尊重における積極的責務を考える**
菅野 康二（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター）

CS5
精神症状の鎮静

6月14日（金）16:10-17:10
第17会場

座長：今井 堅吾（聖隷三方原病院 ホスピス科）

演者：**実存的な苦悩が強く持続的鎮静に至った症例**
内藤 明美（宮崎市郡医師会病院 緩和ケア科）

CS6
呼吸困難
6月15日（土）9:20-10:20
第17会場

座長：山本 和美（医療法人翔医会西京都病院、関西医科大学心療内科学講座）

演者：**呼吸器疾患の終末期の症状緩和に自身の職業観からのホスピタリティを医療者に求めた一例**
小杉 孝子（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター）

CS7
医心連携
6月15日（土）11:00-12:00
第17会場

座長：加藤 文恵（関西医科大学心療内科学講座 松原徳洲会病院心療内科）

演者：**患者・家族のもつ性格特性に対し多職種連携（医心連携）で関わった症例**
兵 純子（国保中央病院）

CS8
在宅系
6月15日（土）13:20-14:20
第17会場

座長：西山 順滋（関西医科大学心療内科学講座/同附属病院総合診療科）

演者：**うつ病を背景に持ち誤嚥性肺炎を繰り返しアドバンス・ケア・プランニングを要した一例**
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

CS9
非がん性疼痛
6月15日（土）14:30-15:30
第17会場

座長：水野 泰行（関西医科大学心療内科学講座）

演者：**事例検討『非がん性疼痛』**
阪本 亮（堺市立総合医療センター）

CS10
怒り・否認（防衛機制）
6月15日（土）15:40-16:40
第17会場

座長：阿部 哲也（日本赤十字社和歌山医療センター）

演者：**闘病経過で繰り返し遭遇する喪失体験に伴う否認・怒りを表出された患者への関わり**
～受容できないまま残された時間が迫ったとき、何が最善だったのか？～
桒原 宏貴（日本赤十字社和歌山医療センター 看護部）

自主セミナー

IS1
がん患者の症状緩和における看護実践「プラクティス」×「エビデンス」with「ケアリング」
6月15日（土）12:20-13:00
第3会場

座長：荒尾 晴惠（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 看護実践開発科学講座）

演者：**がん患者の症状緩和における看護実践「プラクティス」×「エビデンス」with「ケアリング」**
林 ゑり子（横浜市立大学 医学部 看護学科）

IS2
がん領域の心理師として　～私の経験から～
6月15日（土）12:20-13:00
第4会場

座長：和田 信（大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 心療科（精神腫瘍科））

演者：**がん領域の心理師として　～私の経験から～**
石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター）

TIPS

TIPS1
子供のケア
6月14日（金）9:20-9:35
第15会場

演者：**おとなとは違う?こどもの支援**
松元 和子（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

TIPS2
お父さん、お母さんががんの子どものケア
6月14日（金）9:40-9:55
第15会場

演者：**医療従事者の関わりについて考える**
小嶋 リベカ（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

TIPS3
倦怠感
6月14日（金）10:00-10:15
第15会場

演者：**これだけはおさえておきたい!がん関連の倦怠感**
相木 佐代（独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科）

TIPS4
神経ブロック
6月14日（金）10:20-10:35
第15会場

演者：**神経ブロック**
山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

TIPS5
せん妄
6月14日（金）10:40-10:55
第15会場

演者：**せん妄対応の実際**
大矢 希（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）

TIPS6
不眠
6月14日（金）11:00-11:15
第15会場

演者：**無力感に苛まれない不眠への対処**
佐久間 博子（関西医科大学附属病院）

TIPS7
スピリチュアルケア
6月14日（金）11:20-11:35
第15会場

演者：**日常ケアのなかにあるスピリチュアルケア**
市原 香織（淀川キリスト教病院）

TIPS8
ピアサポート
6月14日（金）11:40-11:55
第15会場

演者：**ピアサポート**
中村 千珠（大阪人間科学大学心理学部）

TIPS9
痛みの評価
6月14日（金）13:10-13:25
第15会場

演者：**痛みの評価を基に、患者報告アウトカムに沿った治療目標を設定する**
～ Personalized Pain Goal（PPG）を導入してみよう!～
田上 恵太（医療法人社団 悠翔会）

TIPS10
抑うつ・不安
6月14日（金）13:30-13:45
第15会場

演者：**不安と抑うつの成り立ちや意味について**
伊達 泰彦（光愛病院）

TIPS11
鎮静
6月14日（金）13:50-14:05
第15会場

演者：**TIPS：がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静**
大谷 弘行（聖マリア病院）

TIPS12
鍼灸治療
6月14日（金）14:10-14:25
第15会場

演者：**鍼灸治療ってなに?**
古田 大河（鍼灸MARU）

TIPS13
リンパ浮腫
6月14日（金）14:30-14:45
第15会場

演者：**リンパ浮腫**
池長 奈美（国立がん研究センター中央病院）

TIPS14
腹水の症状緩和
6月14日（金）14:50-15:05
第15会場

演者：**悪性腹水の症状緩和**
角埜 徹（大阪医科薬科大学病院 化学療法センター）

TIPS15
QOLの評価
6月14日（金）15:10-15:25
第15会場

演者：**QOLの評価**
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

TIPS16
予後予測
6月14日（金）15:30-15:45
第15会場

演者：**予後予測の精度を向上させるためのちょっとした工夫**
平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

TIPS17
緩和口腔ケア
6月14日（金）15:50-16:05
第15会場

演者：**がん治療における歯科介入の重要性と効果について**
石橋 美樹（地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター がんオーラルケア・歯科口腔外科）

TIPS18
非がん(認知症)
6月14日（金）16:10-16:25
第15会場

演者：**認知症診療とケアのTIPS　～特徴的な所見や認知症の緩和ケアを知ろう～**
吉田 哲彦（ふくろうクリニック等々力）

TIPS19
非がん(腎疾患)
6月14日（金）16:30-16:45
第15会場

演者：**これだけ押さえよう!腎疾患の緩和ケアエッセンス**
坂井 正弘（浦安ツバメクリニック）

TIPS20
最新のがん治療
6月14日（金）16:50-17:05
第15会場

演者：**最新のがん治療**
中山 智裕（市立岸和田市民 腫瘍内科・緩和ケアチーム）

TIPS21
がんリハ
6月14日（金）17:10-17:25
第15会場

演者：**TIPS　がんリハビリテーション**
藤井 美希（大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター）

TIPS22
IVR
6月14日（金）17:30-17:45
第15会場

演者：**緩和医療におけるIVRの役割**
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座）

TIPS23
緩和ケアの歴史
6月14日（金）17:50-18:05
第15会場

演者：**緩和ケアの歴史**
神谷 浩平（一般社団法人MY wells地域ケア工房）

TIPS24
家族・遺族ケア
6月15日（土）9:20-9:35
第15会場

演者：**がん患者の家族や遺族に対する支援**
竹内 恵美（国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部）

TIPS25
非がん（救急・集中治療）
6月15日（土）9:40-9:55
第15会場

演者：**蘇生中止の話し方　救急外来での基本的緩和ケア**
石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

TIPS26
がん患者とのコミュニケーション
6月15日（土）10:00-10:15
第15会場

演者：**がん患者とのコミュニケーション**
岡村 優子（国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

TIPS27
アドバンス・ケア・プランニング
6月15日（土）10:20-10:35
第15会場

演者：**アドバンス・ケア・プランニング**
岸野 恵（キングスカレッジロンドン）

TIPS28
燃え尽き
6月15日（土）10:40-10:55
第15会場

演者：**燃え尽き**
小西 知子（関西医科大学附属病院）

TIPS29
解決志向アプローチ
6月15日（土）11:00-11:15
第15会場

演者：**解決志向アプローチ**
吉田 幸平（洛和会音羽病院 臨床心理室）

TIPS30
高齢者
6月15日（土）11:20-11:35
第15会場

演者：**高齢者の緩和ケアのポイント**
竹田 雄馬（わかたけクリニック）

TIPS31
消化器症状の緩和
6月15日（土）11:40-11:55
第15会場

演者：緩和領域の便秘と悪性消化管閉塞のTIPs

結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

TIPS32
マインドフルネス
6月15日（土）13:10-13:25
第15会場

演者：**マインドフルネス**
朴 順禮（慶應義塾大学看護医療学部/同大学病院緩和ケアセンター /同大学マインドフルネス&ストレスセンター）

TIPS33
疼痛に対する非薬物療法
6月15日（土）13:30-13:45
第15会場

演者：**身体と心からアプローチする、がん疼痛に対する非薬物療法**
黒田 綾（神戸赤十字病院 心療内科）

TIPS34
非がん（心疾患）
6月15日（土）13:50-14:05
第15会場

演者：**【初学者歓迎】明日からはじめる　心疾患の緩和ケア**
大森 崇史（福岡ハートネット病院）

TIPS35
非がん（呼吸器）
6月15日（土）14:10-14:25
第15会場

演者：**非がん性呼吸器疾患の緩和ケア**
萩本 聡（公立陶生病院）

TIPS36
AYA世代の支援・緩和ケア
6月15日（土）14:30-14:45
第15会場

演者：**AYA世代の患者へのサポート　～多様なニーズをキャッチし、多職種で支える～**
小川 祐子（国立がん研究センター中央病院）

TIPS37
非がん（肝不全）
6月15日（土）14:50-15:05
第15会場

演者：**肝不全（肝硬変）の緩和ケア**
堀木 優志（市立伊丹病院）

TIPS38
呼吸器症状の緩和
6月15日（土）15:10-15:25
第15会場

演者：**がん患者の呼吸器症状**
三輪 聖（聖隷三方原病院 ホスピス科）

TIPS39
放射線療法
6月15日（土）15:30-15:45
第15会場

演者：**緩和的放射線治療「きほんのき」**
和田 健太郎（多根総合病院）

TIPS40
オピオイドの使い方
6月15日（土）15:50-16:05
第15会場

演者：**オピオイドの使い方**
松原 奈穂（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

TIPS41 6月15日（土）16:10-16:25
オピオイド以外の薬物療法 第15会場

演者：**明日から使える!オピオイド以外に役立つ薬物療法のまとめ（がん疼痛）**
荒川 さやか（国立がん研究センター中央病院）

交流集会

交流集会1 6月14日（金）18:20-19:20
終末期の家族支援　～親を亡くす子どもに対して私たちは何ができるのだろう　～ Part3 第2会場

企画者：井上 実穂（国立病院機構四国がんセンター /NPO法人Hope Tree）

交流集会2 6月14日（金）18:20-19:20
終末期癌患者・家族の急変時における意思決定の変更：こんな時あなたならどうする？ ―繰り返すACPの意味と問題点― 第3会場

企画者：濱田 昇（岡山市立市民病院 呼吸器内科）

交流集会3 6月14日（金）18:20-19:20
新生J SUPPORT紹介～JORTCとともに目指す緩和治療/ケアのエビデンス構築～ 第4会場

企画者：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 J-SUPPORT）

交流集会4 6月14日（金）18:20-19:20
現状確認ツールIMADOKOを活用して今後のことを話し合った経験をシェアしよう 第5会場

企画者：大井 裕子（小金井ファミリークリニック、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック、NPO法人くみサポ）

交流集会5 6月14日（金）18:20-19:20
「リフレクションマッププログラム（RMP：答えは自分の体験の中にある）は臨床でどのように活用できるか」 第6会場

企画者：飯岡 由紀子（埼玉県立大学）

交流集会6 6月14日（金）18:20-19:20
血液がん患者における意思決定支援をどう進めていくか 第7会場

企画者：鈴木 奈々（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 緩和ケアセンター）

交流集会7 6月14日（金）18:20-19:20
自身やごく身近な人ががんを体験した医療者の集い 第8会場

企画者：藤澤 大介（慶應義塾大学医学部 医療安全管理部/精神神経科）

交流集会8 6月14日（金）18:20-19:20
いつでもどこでも小児緩和ケアー病院と在宅のコラボレーションー 第9会場

企画者：堀木 としみ（神奈川県立こども医療センター緩和ケア普及室、医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック）

交流集会9 6月14日（金）18:20-19:20
緩和領域の実臨床における、より良いリハビリテーション専門職のフォローアップや教育活動とは 第10会場

企画者：角田 健（要町病院 リハビリテーション科）

交流集会10 6月14日（金）18:20-19:20
患者力がリアルワールドACPのキーワード！！ 第2弾 第11会場

企画者：東 光久（奈良県総合医療センター総合診療科・臨床研修医支援室）

交流集会11
緩和ケアの鍼灸の力、鍼灸で緩和ケアしよう！
6月14日（金）18:20-19:20
第12会場

企画者：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

交流集会12
救急集中治療領域の緩和ケアディスカッション ～成人・小児の症例を交えて～
6月14日（金）18:20-19:20
第13会場

企画者：石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

交流集会13
『あなたの家で逝けるよ！・・・この声を療養前に届けるアプローチを探る』
～患者会との連携で、地域住民との交流を図る訪問看護ステーションの試み～
6月14日（金）18:20-19:20
第14会場

企画者：宮本 直治（がん患者グループゆずりは、オフィス宮本）

交流集会14
緩和ケアにおけるアロマテラピーの活用について話し合いませんか？
6月14日（金）18:20-19:20
第16会場

企画者：伊藤 里美（東北大学医学系研究科）

交流集会15
日本サイコオンコロジー学会認定登録医精神腫瘍医交流会
6月14日（金）18:20-19:20
第17会場

企画者：小早川 誠（広島赤十字・原爆病院 精神科部長）

交流集会16
理想の緩和ケア研修環境を考える
6月15日（土）8:00-9:00
第5会場

企画者：柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

交流集会17
あつまれ関西の30代！　関西緩和ケア若手コミュニティをつくろう！
6月15日（土）8:00-9:00
第6会場

企画者：光齋 久人（六甲病院 緩和ケア内科）

交流集会18
「緩和ケア対象者へのがんリハビリテーションの実践！その取り組みを広げよう！」
日本がん・リンパ浮腫理学療法学会／日本がん作業療法研究会共催
6月15日（土）8:00-9:00
第7会場

企画者：島崎 寛将（日本がん作業療法研究会、大阪府済生会富田林病院）

交流集会19
ACPを病院や地域で広めるためのコツってありますか?(PART Ⅲ)
～ACPは誰のため？を考えよう～
6月15日（土）8:00-9:00
第8会場

企画者：佐藤 直（一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院（外科））

交流集会20
SHARE-CSTファシリテーター大集合！
6月15日（土）8:00-9:00
第10会場

企画者：小室 龍太郎（国立病院機構金沢医療センター緩和ケア内科）

交流集会21
通院治療中・治療後の身体活動を増やしQOL改善―運動支援の実際と普及に向けて
6月15日（土）8:00-9:00
第11会場

企画者：福井 里美（東京都立大学 健康福祉学部 看護学科、認定NPOがんサポートコミュニティー）

交流集会22
神経ブロック等がすすめられるがんの痛みを知って、ネットワークを作って相談しましょう！
6月15日（土）8:00-9:00
第13会場

企画者：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

交流集会23　6月15日（土）8:00-9:00
地域における小児緩和ケアの今と未来を話し合おう！　第14会場

企画者：津村 明美（認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト、医療法人社団幸貴会 せや在宅クリニック）

交流集会24　6月15日（土）8:00-9:00
メサドンの広場～使いこなしてエビデンスの構築を!!～　第17会場

企画者：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科科長/がん相談支援センター長）

ランチョンセミナー

LS1　6月14日（金）12:20-13:10
アセトアミノフェン ～最新情報を整理する～ がん疼痛治療における位置づけ　第2会場

共催：あゆみ製薬株式会社

座長：荒尾 晴惠（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 看護実践開発科学講座）

演者：**アセトアミノフェン～最新情報を整理する～がん疼痛治療における位置づけ**
余宮 きのみ（埼玉県立がんセンター 緩和ケア科）

LS2　6月14日（金）12:20-13:10
緩和的放射線療法の普及のために～地域連携・院内連携の成功事例から学ぶ　第3会場

共催：一般社団法人がん医療の今を共有する会（ACT）

座長：　髙橋 健夫（埼玉医科大学総合医療センター放射線腫瘍科）
モデレーター：岸田 徹（NPO法人がんノート）

演者：**がん診療連携拠点病院等における緩和的放射線療法の位置づけ**
大井 肇（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課）

放射線治療医の立場からの緩和照射の普及・啓発活動
中村 直樹（聖マリアンナ医科大学 放射線治療学講座）

緩和的放射線治療の地域連携促進の工夫：専門的がん疼痛治療のためのweb相談システム
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

LS3　6月14日（金）12:20-13:10
がん患者の不眠に対処するため本当に必要なこと
～オレキシン受容体拮抗薬ベルソムラの立ち位置について～　第4会場

共催：MSD株式会社

座長：蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

演者：**がん患者の不眠に対処するため本当に必要なこと**
～オレキシン受容体拮抗薬ベルソムラの立ち位置について～
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

LS4　6月14日（金）12:20-13:10
がん患者・がんサバイバーにおけるトラマドールの位置づけ　第7会場

共催：日本臓器製薬株式会社

座長：高雄 由美子（兵庫医科大学 ペインクリニック部）

演者：**がん患者・がんサバイバーにおけるトラマドールの位置づけ**
上野 博司（京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部）

LS5　6月14日（金）12:20-13:10
がん疼痛治療におけるメサドン ～300例を超える臨床経験からのメッセージ～　第8会場

共催：帝國製薬株式会社／テルモ株式会社

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

演者：**がん疼痛治療におけるメサドン～300例を超える臨床経験からのメッセージ～**
佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

LS6 6月14日（金）12:20-13:10
ドクタートッシュの「痛みを訴える患者さんどう対応する？」～がん疼痛緩和の基本と落とし穴～ 第10会場

共催：第一三共株式会社

座長：山口 重樹（獨協医科大学 麻酔科学講座）

演者：**ドクタートッシュの「痛みを訴える患者さんどう対応する？」～がん疼痛緩和の基本と落とし穴～**
四宮 敏章（奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

LS7 6月14日（金）12:20-13:10
がん疼痛の治療の軸となるジクトル®テープ再考
～経口NSAIDsと何がどう違うの？ジクトル®テープもっと知ってみませんか？～ 第11会場

共催：久光製薬株式会社

座長：馬渡 弘典（国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 緩和支持療法科）

演者：**がん疼痛の治療の軸となるジクトル®テープ再考**
～経口NSAIDsと何がどう違うの?ジクトル®テープもっと知ってみませんか?～
山﨑 圭一（ベルランド総合病院 緩和ケア科）

LS16 6月14日（金）12:20-13:10
緩和医療の基盤としての精神的ケア：抑うつ・不安・不眠・せん妄の症状緩和、遺族ケアからDxまで 第12会場

共催：エーザイ株式会社

座長：松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科／支持・緩和療法チーム）

演者：**緩和医療の基盤としての精神的ケア：抑うつ・不安・不眠・せん妄の症状緩和、遺族ケアからDxまで**
明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

LS8 6月14日（金）12:20-13:10
誰も教えてくれなかったがん患者の疼痛治療 第13会場

共催：塩野義製薬株式会社

座長：井上 彰（東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野）

演者：**誰も教えてくれなかったがん患者の疼痛治療**
大坂 巌（社会医療法人石川記念会HITO病院 緩和ケア内科）

LS9 6月14日（金）12:20-13:10
緩和医療と口腔ケアの接点 ～がん患者さんのQOL向上に口腔ケアがどう貢献できるか～ 第14会場

共催：久光製薬株式会社

座長：永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院 緩和医療内科）

演者：**「緩和医療と口腔ケアの接点」～がん患者さんのQOL向上に口腔ケアがどう貢献できるか～**
上野 尚雄（国立がん研究センター中央病院 歯科）

LS10 6月15日（土）12:20-13:10
便通異常症診療ガイドライン2023を紐解く ～オピオイド誘発性便秘症の治療戦略を含めて～ 第2会場

共催：塩野義製薬株式会社

座長：本間 英之（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア内科）

演者：**便通異常症診療ガイドライン2023を紐解く～オピオイド誘発性便秘の治療戦略を含めて～**
眞部 紀明（川崎医科大学 検査診断学（内視鏡・超音波））

LS11 6月15日（土）12:20-13:10
サポーティブケア漢方～粘膜障害と食欲低下への挑戦～ 第7会場

共催：株式会社ツムラ

座長：江口 晋（長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 移植・消化器外科）

演者：**サポーティブケア漢方～粘膜障害と食欲低下への挑戦～**
櫻井 宏樹（虎の門病院 緩和医療科）

LS12
がん疼痛攻略のためのTips
6月15日（土）12:20-13:10
第10会場

共催：久光製薬株式会社／協和キリン株式会社

座長：森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支持治療科）

演者：**がん疼痛攻略のためのTips**
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

LS13
がんゲノム医療
6月15日（土）12:20-13:10
第12会場

共催：中外製薬株式会社

座長：木澤 義之（筑波大学附属病院 緩和支持治療科）

演者：**ここまで進んだがんゲノム医療**
金井 雅史（関西医科大学附属病院 がんセンター）

LS14
明日からできるチーム医療～病院から地域へ想いを込めてバトンを繋ぐ～
6月15日（土）12:20-13:10
第14会場

共催：ファミリー・ホスピス株式会社

座長：杉田 智子（ファミリー・ホスピス京都北山ハウス）

演者：**明日からできるチーム医療～病院から地域へ想いを込めてバトンを繋ぐ～**
西 麻弥（八尾市立病院 地域医療連携室）
蔵 昌宏（八尾市立病院 緩和ケアセンター）
吉野 知子（八尾市立病院 看護局）

LS15
弱きを助ける漢方治療 -補剤の使い方-
6月15日（土）12:20-13:10
第13会場

共催：クラシエ薬品株式会社

座長：多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケアセンター／緩和ケア内科）

演者：**弱きを助ける漢方治療　-補剤の使い方-**
水野 泰行（関西医科大学心療内科学講座／関西医科大学附属病院 痛みセンター）

市民公開講座

市民公開講座
みんなで学ぼう！　がん患者さんを支える治療　からだとこころの痛みについて
6月15日（土）15:30-17:30
第12会場

共催：塩野義製薬株式会社

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）
武田 ヒサ（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 緩和ケア病棟）

演者：**がん患者さんを支える痛みの治療の重要性**
住谷 昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/麻酔科・痛みセンター）

自分でできる!からだと心の痛みのケア
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

PAL企画

PAL1ランチョン
コミュニケーションガイドラインを考える
6月14日（金）12:20-13:10
第9会場

座長：轟 浩美（全国がん患者団体連合会）

演者：**がん医療における患者―医療者間のコミュニケーションガイドラインを考える**
畑 琴音（早稲田大学 人間科学学術院）

パネリスト：岡村 優子（国立がん研究センターがん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

PAL2ランチョン
診断時からの緩和ケアを考える
6月15日（土）12:20-13:10
第9会場

座長：松本 陽子（全国がん患者団体連合会）

演者：**診断時からの緩和ケアを考える～もっと本音で、もっと率直に～**
尾阪 咲弥花（東京衛生アドベンチスト病院）

PAL3ディスカッション
～みんなで話そう　診断時からの緩和ケア
6月15日（土）13:30-15:00
第9会場

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）
轟 浩美（全国がん患者団体連合会）

最優秀演題

最優秀演題
6月14日（金）16:10-18:10
第1会場

座長：蓮尾 英明（関西医科大学 心療内科学講座）
松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院）

最優秀演題1-1 **がん患者における機能性身体症候群の疫学的調査とストレス関与の検討**
秋山 泰士（関西医科大学 心療内科学講座・緩和ケアセンター）

最優秀演題1-2 **がん患者におけるオピオイド誘発性便秘に対するナルデメジンの予防効果：多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照試験**
浜野 淳（筑波大学 医学医療系）

最優秀演題1-3 **免疫チェックポイント阻害薬と脳以外に対する放射線治療による精神症状のリスク：後ろ向き観察研究**
貞廣 良一（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

最優秀演題1-4 **がん患者と主要介護者の在宅看取り成否における社会的因子の影響**
平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック 腫瘍内科・緩和ケア内科）

最優秀演題1-5 **シート型体振動計から取得されるバイタルサインの死亡前7日間の変化：終末期がん患者776名の前向き研究 COSMOS-PAL study**
豊田 彩織（パラマウントベッド株式会社睡眠研究所）

最優秀演題1-6 **眠りSCANによる活動量は終末期の身の置き所のなさの客観指標になりうる：COSMOS-PAL study**
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和治療科）

最優秀演題1-7 **ハイリスク手術を受ける患者へのディシジョンエイドを用いたadvance care planning支援に関するパイロットランダム化比較試験**
山本 加奈子（聖路加国際大学）

最優秀演題1-8 **認知症患者の客観的疼痛評価尺度Pain Assessment in Advanced Dementia日本版（PAINAD-J）の作成と信頼性・妥当性の検討**
江川 健一郎（三井記念病院 緩和ケア科、亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科、亀田医療大学 総合研究所）

最優秀演題1-9 **日本、オーストラリア、ベトナムで放射線治療を受けている患者のがん治療の意思決定における経験と意向の相違**
内田 恵（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学、名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

最優秀演題1-10 **死別を経験した人を対象としたセルフコンパッションに焦点を当てたオンライン心理療法に関する実施可能性試験：the COMPACT feasibility trial**
釆野 優（京都大学医学部附属病院 腫瘍内科）

優秀演題

優秀演題1

6月14日（金）11:00-12:00
第7会場

座長：天野 晃滋（大阪国際がんセンター）
飯田 真之（神戸大学医学部附属病院）

優秀演題1-1 がん患者の呼吸困難Integrated Palliative care Outcome Scaleスタッフ版のMinimal Clinically Important Difference
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）

優秀演題1-2 がん患者における経皮経食道胃管挿入術（PTEG）のチューブ交換の実態調査
中間 楽平（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科）

優秀演題1-3 AIで骨転移を早期に発見し、骨転移患者の全人的苦痛を予防する
佐藤 信吾（東京医科歯科大学病院 がん先端治療部・緩和ケア科）

優秀演題1-4 オピオイド誘発性悪心嘔吐に対するオランザピンによる予防的制吐療法の有効性および安全性に関する探索的臨床試験（JORTC-PAL20）
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

優秀演題1-5 栄養状態と体組成からみた終末期膵がん患者における予後規定因子に関する検討
伊藤 彰博（藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座）

優秀演題1-6 取り下げ

優秀演題2

6月14日（金）11:00-12:00
第10会場

座長：市倉 加奈子（北里大学医療衛生学部保健衛生学科）
角甲 純（三重大学大学院）

優秀演題2-1 地域がん診療連携拠点病院における薬剤師による外来麻薬指導と多職種連携
阿部 美佐緒（地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院、がん診療サポートチーム、薬剤部）

優秀演題2-2 取り下げ

優秀演題2-3 がん患者が死亡した病院の機能とがん診療連携拠点病院・非拠点病院で死亡した患者の特性比較
高橋 理智（国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部、
国立がん研究センター がん対策研究所 がん政策評価研究部）

優秀演題2-4 ホスピスにおける認定音楽療法士による音楽療法の実践 ～コロナ禍を含めた22年の活動報告～
高瀬 佳子（日本バプテスト病院 ホスピス）

優秀演題2-5 在宅療養患者における臨床会話音声データからの患者報告型アウトカム自動判定モデルの開発
董 磊（東北大学 医学系研究科 保健学専攻 緩和医療看護学分野）

優秀演題2-6 がん患者の身体活動におけるHealth Action Process Approachの適応
松井 智子（大阪大学 大学院人間科学研究科）

優秀演題3

6月14日（金）11:00-11:50
第13会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）
笠原 庸子（秋本クリニック）

優秀演題3-1 オピオイド治療抵抗性のがん疼痛に対する低用量メサドン併用の効果と安全性：前後比較研究
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

優秀演題3-2 前立腺癌フレイル症例の『関節や筋肉の痛み』や『筋力低下』に対して補中益気湯の投与は有効か - AMSスコア、改定J-CHS基準の検討から -
大岡 均至（国立病院機構 神戸医療センター 泌尿器科）

優秀演題3-3 根治不能がん患者の筋筋膜性疼痛に対するトリガーポイント注射：探索的無作為化割付比較試験
蓮尾 英明（関西医科大学 心療内科学講座）

優秀演題3-4 外来がん患者オピオイド継続のための薬剤師による診察前面談介入ポイント
鈴木 宣雄（大垣市民病院 薬剤部）

優秀演題3-5 CCL11とIL-16の両遺伝子多型によるオピオイド選択戦略
藤田 至彦（近畿大学 医学部 ゲノム生物学教室）

優秀演題4

6月14日（金）11:00-12:00
第14会場

座長：西島 薫（第二協立病院）
佐藤 理佳（静岡県立静岡がんセンター /聖路加国際大学大学院）

優秀演題4-1 当院における大量オピオイド使用を要したがん患者の傾向
森下 亜希子（桐生厚生総合病院 乳腺外科、桐生厚生総合病院 外科）

優秀演題4-2 アジア人の身体的特徴を反映した悪液質診断基準（AWGC）の臨床的意義：緩和ケア患者の予後と症状評価に関する後方視的コホート研究
坂口 達馬（愛知医科大学 緩和ケアセンター、愛知医科大学大学院 医学研究科 緩和・支持医療学）

優秀演題4-3 悪性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法と腹腔穿刺ドレナージの有効性・安全性の比較：52625例を対象とした全国レセプト研究
横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支持治療科）

優秀演題4-4 造血器悪性腫瘍患者における緩和ケア病棟入棟後の血小板値と出血症状に関する検討
岡田 耕平（札幌北楡病院 血液内科）

優秀演題4-5 緩和ケア領域の便秘症患者を対象に直腸エコー所見別の新規便秘治療戦略を開発するための多施設前向き観察研究
石原 洋（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科、国際医療福祉大学医学部大学院 消化器内科学、
横浜市立大学医学部大学院 肝胆膵消化器病学教室）

優秀演題4-6 鍼刺激がケモブレインモデル動物に与える有効性について
平岩 慎也（明治国際医療大学大学院 鍼灸学研究科）

優秀演題5

6月14日（金）11:00-11:50
第16会場

座長：風間 郁子（ウィル訪問ステーション江戸川）
山﨑 圭一（ベルランド総合病院緩和ケア科）

優秀演題5-1 納棺師アンケートで判明した死亡退院後の出血事象の現状と医葬連携シートの導入
吉村 真一朗（地域医療機能推進機構 九州病院 緩和ケア科）

優秀演題5-2 苦痛緩和のために緩和ケア病棟へ入棟した非がん疾患9例のコスト分析の検討
齊藤 英一（新生病院）

優秀演題5-3 シート型体振動計「眠りSCAN」を用いた鎮静の効果と安全性の検討 -調節型鎮静と持続的深い鎮静の比較に関する前向き観察研究 COSMOS-PAL study-
今井 堅吾（聖隷三方原病院 ホスピス科）

優秀演題5-4 当緩和ケア病棟における予後判定シートの診断確率モデルとしての精度に関する一考察
馬見塚 勝郎（鹿児島市医師会病院 緩和ケア科）

優秀演題5-5 緩和ケア病棟に紹介された患者の複雑性（complexity）と緩和ケアの病期（Phase of Illness）との関連
大日方 裕紀（北海道大学大学院 保健科学研究院）

優秀演題6

6月14日（金）15:00-15:40
第6会場

座長：稲田 修士（埼玉県立がんセンター心療内科）
馬場 華奈己（大阪公立大学医学部附属病院）

優秀演題6-1 取り下げ

優秀演題6-2 在宅がん患者が抱くSelf-Perceived Burdenの要因に関する質的研究
佐橋 正寅（北里大学病院 研修統括部 臨床研修センター）

優秀演題6-3 子育て中の乳がん患者のうつ状態に影響する要因の検討―子どもとの関わり方およびソーシャルサポートに着目して―
瀧川 楽乃（大阪人間科学大学大学院）

優秀演題6-4 AYA世代がん経験者が伝えたい内容の検討―WEB版体験談集の質的分析―
山田 裕里恵（北里大学大学院 医療系研究科 医療心理学、国立がん研究センター）

優秀演題7

6月14日（金）15:00-15:50
第10会場

座長：佐藤 一樹（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）
栗原 幸江（がん・感染症センター都立駒込病院/上智大学グリーフケア研究所/認定NPO法人マギーズ東京緩和ケア科）

優秀演題7-1 緩和ケア病棟における患者報告型アウトカムの臨床活用プログラムの実施可能性を検討するためのパイロット調査
重野 朋子（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）

優秀演題7-2 予後予測スコアの年齢による考え方：2つの多施設共同前向きコホート研究の二次解析研究
伊藤 まどか（神戸大学医学部附属病院）

優秀演題7-3 がんの親をもつ小学生の相談の実態と教諭の支援
赤川 祐子（秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座）

優秀演題7-4 終末期がん患者の身体機能評価EFAT-2日本語版に関する反応性の検討
藏合 勇斗（横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション科、横浜市立みなと赤十字病院 看護部、
慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室）

優秀演題7-5 がん患者における新型コロナウイルス感染症罹患によるがん治療への影響とコロナ禍で提供されたリソース
小杉 和博（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

優秀演題8

6月14日（金）15:00-16:00
第12会場

座長：前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院）
德谷 理恵（ピースホームケアクリニック）

優秀演題8-1 緩和ケア病棟での90歳以上の超高齢患者の実態調査
河野 真揮枝（市立芦屋病院）

優秀演題8-2 心不全入院患者に対する、緩和ケアニーズ同定ツール“Supportive and Palliative Care Indicator Tool (SPICT)”の検証
濱谷 康弘（国立病院機構 京都医療センター 循環器内科）

優秀演題8-3 集中治療領域の患者に対する緩和ケアの提供についての医師の認識
原納 遥（神戸大学医学部附属病院）

優秀演題8-4 外来における当日計画での単回緩和照射の取り組み ～診療放射線技師・医学物理士の役割～
児玉 秀治（三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム）

優秀演題8-5 救命救急センターにおける心不全患者の苦痛スクリーニング集計結果から見えた課題
西本 麻衣子（広島市立広島市民病院）

優秀演題8-6 介護支援を要したがん患者の医療や療養生活に関する全国アンケート調査 ― 在宅訪問診療と終末期意思決定
井上 玲央（東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター）

優秀演題9

6月14日（金）15:00-15:50
第16会場

座長：岡本 明大（三重大学医学部附属病院薬剤部）
酒見 惇子（神戸大学医学部附属病院）

優秀演題9-1 進行がん患者の専門的緩和ケアニードの予測：診療録データを用いたAIと苦痛スクリーニングの比較
川島 有沙（名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻、
国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 老年社会科学研究部）

優秀演題9-2 薬剤師外来がもたらす緩和ケア外来の効率化と質の向上～2つのツールを用いたタスクシェア/シフト～
神谷 力嗣（八潮中央総合病院 薬剤部）

優秀演題9-3 がん患者の治療や日常生活の中で気になっていること：単施設超大規模調査
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和ケアセンター）

優秀演題9-4 便秘を訴えるまたは訴えられない患者に対する携帯型エコーを用いた看護師の便秘症状スクリーニング
大平 麻由美（国際医療福祉大学成田病院 看護部）

優秀演題9-5 我が国における進行がん患者における早期緩和ケアの希望時期と内容について：インターネットによる質問紙調査
佐野 仁哉（JA岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター 西濃厚生病院）

優秀演題10

6月15日（土）11:00-11:20
第7会場

座長：山本 瀬奈（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）
和田 佐保（国立がん研究センター がん対策所 がん医療支援部 / 中央病院 精神腫瘍科）

優秀演題10-1 がん患者家族の緩和ケア主体の時期の療養場所選択に関する構造モデルの開発と検証
田村 南海子（上智大学 総合人間科学部 看護学科）

優秀演題10-2 集中治療におけるACPの実施に関する態度と考え：日英の異文化間の視点Attitudes and believes about ACP implementation in the intensive care context; cross-cultural perspectives between UK- Japan
アナグノストウ デスピナ（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻）

優秀演題11

6月15日（土）11:00-12:00
第10会場

座長：渡邊 紘章（在宅緩和ケア あすなろ医院）
枷場 美穂（静岡県立静岡がんセンター）

優秀演題11-1 思春期・若年成人（AYA）世代のがん患者の受療する終末期療養の質と専門的緩和ケアの関連：単施設後方視的研究
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

優秀演題11-2 終末期AYA世代がん患者における在宅緩和ケアの特性と課題
渡邊 拓史（医療法人社団 淳友会 わたクリニック）

優秀演題11-3 終末期を見据えた小児がん患者の退院調整の特徴と工夫-退院調整に関わるスタッフに対するフォーカスグループインタビュー -
名古屋 祐子（宮城大学 看護学群 小児看護学領域）

優秀演題11-4 愛知こどもホスピスプロジェクトによる「グリーフの会」の実践
畑中 めぐみ（愛知こどもホスピスプロジェクト）

優秀演題11-5 AYA世代スクリーニングシートで判明したつらさの寒暖計スコアと生活での問題点の関連性
松原 奈穂（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

優秀演題11-6 非がん性呼吸器疾患緩和ケアと肺がん緩和ケアの比較―日本緩和医療学会緩和医療専門医対象全国調査―
木村 尚子（済生会横浜市南部病院）

優秀演題12

6月15日（土）11:00-12:00
第12会場

座長：平塚 裕介（竹田綜合病院緩和医療科/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科/市立芦屋病院薬剤科）

優秀演題12-1 がん緩和ケア支援AIアプリ『PalliEase（パリース）』症状評価版の開発～構想からPoCフェーズを目指して～
嶋田 和貴（京都大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 緩和医療科）

優秀演題12-2 非がん患者を対象とした患者報告型アウトカム尺度（IPOS）の信頼性・妥当性の検証
石井 容子（自治医科大学 看護学部）

優秀演題12-3 外来で放射線療法を受けるがん患者の気がかりスケールの開発
日浅 友裕（中京学院大学 看護学部看護学科）

優秀演題12-4 未成年の子どもがいるがん患者に関わる医療者に対する研修プログラム前後でのアンケート調査
近藤 麗子（PC-Panda（Parents with cancer and Children Support-Professionals and associates）、
国立がん研究センター中央病院 看護部）

優秀演題12-5 **専門的緩和ケアの実践におけるInterprofessional Workに必要なコンピテンシーの探究：フォーカス・グループ・インタビューを用いた質的研究**
高坂 美紗子（京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）

優秀演題12-6 **コンテンツを用いた看取り教育による施設間の教育効果の均てん化を目的とした研究**
田中 幸介（JCHO九州病院、国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

優秀演題13

6月15日（土）11:00-11:50
第14会場

座長：柏谷 優子（辻仲病院柏の葉）
神谷 浩平（一般社団法人MY wells地域ケア工房）

優秀演題13-1 **当院緩和ケア病棟における待機的死亡診断の導入**
石川 貴洋子（NTT東日本関東病院 緩和ケア科）

優秀演題13-2 **緩和ケア病棟に入院したがん終末期患者において死亡前に発生する新規褥瘡の実態調査**
蒲原 亨子（辻仲病院柏の葉）

優秀演題13-3 **緩和ケア病棟に入院した統合失調症患者に関する検討**
西里 卓次（札幌清田病院 緩和支持医療センター 緩和ケア内科）

優秀演題13-4 **緩和ケア病棟に入院する進行がん患者の心理的柔軟性と心理的苦痛およびQOLの変化に関する縦断的調査**
宇津 聖子（比治山大学大学院 現代文化研究科）

優秀演題13-5 **緩和ケア病棟入院したがん患者に対する2週間のリハビリテーション時間と入院2週から8週後の日常生活動作の維持との関連 -傾向スコアを用いた入院時患者属性の調整-**
添田 遼（医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション部、
慶應義塾大学大学院 医学研究科 医学系研究専攻 博士課程）

優秀演題14

6月15日（土）15:10-15:50
第8会場

座長：岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）
山代 亜紀子（洛和会音羽病院）

優秀演題14-1 **難治性がん疼痛に対するケタミン併用使用に関する検討**
児山 香（東北医科薬科大学病院 がん治療支援（緩和）科）

優秀演題14-2 **がん疼痛に対するオピオイド増量を予測する機械学習モデルの探索**
伊藤 圭一郎（東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野）

優秀演題14-3 **酸化マグネシウムで効果不十分なオピオイド誘発性便秘症のがん患者に対するナルデメジントシル酸塩の上乗せ効果-国内後期第2相、第3相試験の事後サブグループ解析-**
結束 貴臣（国際医療福祉大学 成田病院 緩和医療科 消化器内科、国際医療福祉大学 医学部大学院 消化器内科学、
横浜市立大学 医学部大学院 肝胆膵消化器病学教室）

優秀演題14-4 **基本的ながん疼痛緩和法の有効性に関する多施設前向き観察研究**
吉田 清香（東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野、岡部医院仙台 内科）

一般演題ポスター

オピオイド1（P1-1～P1-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：川原 玲子（和泉市立総合医療センター 緩和医療科）

P1-1 **モルヒネ注射からメサドン内服切り替え時に、注射量がかなりの増量になったが、その後減量中止できた1例**
泉 信行（市立ひらかた病院）

P1-2 **がん患者の骨病変関連痛195症例に対するメサドンの使用経験**
佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、静岡県立静岡がんセンター 緩和ケアチーム）

P1-3 **オピオイド鎮痛薬の大量投与によりミオクローヌスを呈していたが、減量したところ最終的に鎮痛薬が不要となった直腸がん仙骨転移の一例**
佐藤 良太（丸木記念福祉メディカルセンター 薬局）

P1-4　メサドンの鎮痛効果が早期に得られると危険であるかもしれない
松田 良信（市立芦屋病院 緩和ケア内科）

P1-5　オキシコドンの鎮痛耐性形成を疑い、モルヒネへ変更したことにより疼痛が改善した1例
高野 陽平（砂川市立病院 薬剤部）

P1-6　終末期在宅療養中の難治性がん疼痛患者にメサドン頬粘膜投与が有効であった2症例
池垣 淳一（医療法人社団 池垣クリニック）

P1-7　トラマドールとオキシコドンがそれぞれ別の病院から同一患者に処方されていた直腸癌患者の疼痛コントロール
中島 邦枝（済生会前橋病院 麻酔科）

P1-8　在宅がん患者のオピオイド最終使用量とケア期間の関連
佐々木 翼（在宅ホスピス研究所パリアン、健芯会 ライフクリック）

P1-9　オピオイドの不適切使用に対して緩徐に減量をしたが離脱症状を生じたがんサバイバーの1症例
島田 宣弘（自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座）

P1-10　当院におけるがん患者の疼痛管理目的入院に対する実態調査
堀江 達夫（大田市立病院 薬剤科）

P1-11　メサドンの内服が困難となったがん患者における他のオピオイドへの切り替えに関する後方視的検討
岡久 将暢（がん研究会有明病院 緩和治療科）

オピオイド2 (P2-1～P2-11)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：太田 周平（神奈川県立がんセンター 緩和ケア内科）

P2-1　左側上顎歯肉がんに対して疼痛緩和を行い失神が軽快した一症例（第2報）
小室 龍太郎（国立病院機構 金沢医療センター 緩和ケア内科）

P2-2　がん終末期透析患者の症状マネジメントに外来通院時から介入した一例
長谷川 森一（成田記念病院 緩和ケア外科）

P2-3　ケタミンとオキシコドンの静脈内投与からメサドンへのオピオイドスイッチングが有効であった組織球肉腫による全身痛の1症例
木村 太（弘前大学 大学院 医学研究科 地域侵襲制御医学講座）

P2-4　地域包括ケア病棟におけるオピオイド使用に関する現状調査
林 誠（国立病院機構石川病院 薬剤科）

P2-5　オピオイド内服患者の周術期疼痛管理の4例
宮田 祥一（東邦大学医療センター大森病院 薬剤部、東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター）

P2-6　介護支援を要したがん患者の医療や療養生活に関する全国アンケート調査 ― 痛みと医療用麻薬の使用状況
阿部 博昭（東京大学 医学部附属病院 緩和ケア診療部）

P2-7　ケミカルコーピングが疑われていたが、結果的に偽依存であった大腸癌の一症例
山田 武志（飯田市立病院 緩和ケアチーム、飯田市立病院 緩和ケア内科）

P2-8　当院緩和ケア病棟における頭頸部がん患者のオピオイドの使用状況
武田 亜衣（市立芦屋病院 緩和ケア内科）

P2-9　当院でメサドンを導入した50例の後方視的検討
岩間 かれん（広島市民病院）

P2-10　先行オピオイドへのメサドンadd-onタイミングによるNRS・レスポンダー率の変化
阿曽沼 伸一（福岡県済生会福岡総合病院 薬剤部、福岡県済生会福岡総合病院 がん治療サポートチーム）

P2-11　緩和ケア外来における長期生存患者の疼痛コントロールにメサドンが有効であった一例
高橋 みなみ（一般財団法人 神奈川県警友会 けいゆう病院）

オピオイド3 (P3-1～P3-11)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：谷口 彩乃（京都第一赤十字病院　緩和ケア内科 ）

P3-1　延髄腫瘍術後の疼痛に対してメサドンからトラマドールへの切り替えにより疼痛コントロールが良好となった症例
髙木 麻美（福島県立医科大学附属病院 麻酔・疼痛緩和科）

P3-2　低用量で開始されたヒドロモルフォン徐放製剤の効果と有害事象の探索的研究
小澤 康久（湘南鎌倉総合病院 薬剤部）

P3-3　慢性疼痛に対して長期間高容量オピオイドを使用していたが、悪性疾患治療をきっかけに緩和ケアチームが介入し、オピオイドを漸減・中止できた症例
花山 千恵（福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座）

P3-4　メサドン内服を中断し内臓神経ブロックを行った2症例
田中 成明（信州大学 医学部附属病院 麻酔科蘇生科、
信州大学 医学部附属病院 信州がんセンター 緩和ケアセンター）

P3-5　メサドンによる低血糖発作を疑う肺がんの1症例
菅島 裕美（西宮市立中央病院 ペインクリニック内科・外科）

P3-6　オピオイドが麻痺性イレウスの原因と判断され中止後、出現した退薬症候に対してオピオイドの再開と対症療法を行った一例
大崎 慶子（広島大学病院 呼吸器内科、広島大学病院 緩和ケアセンター）

P3-7　トラマドールから強オピオイドへのオピオイドスイッチングする際の換算に影響を与える因子の検討
清水 瞭子（愛媛大学 医学部 医学科）

P3-8　頻回にレスキューを希望する患者に対して向精神薬が有効だった一例
西野 早紀（市立敦賀病院）

P3-9　難治性のがん性疼痛に低用量のメサドンを追加・併用することにより疼痛コントロールが改善した2症例～メサドンの追加・併用療法の有用性を考える～
藤掛 沙織（JCHO東京新宿メディカルセンター 薬剤部、JCHO東京新宿メディカルセンター 緩和ケアチーム）

P3-10　大規模総合病院におけるオピオイド回診の取り組み
田村 真吾（国立病院機構 九州医療センター 緩和ケアセンター）

P3-11　がん患者のオピオイド誘発性便秘症に対するナルデメジントシル酸塩の使用実態下での安全性および有効性-使用成績調査の事後サブグループ解析-
森岡 靖英（塩野義製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部）

オピオイド4（P4-1～P4-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：田口 奈津子（千葉大学医学部麻酔科学 麻酔・疼痛・緩和医療科）

P4-1　ナルデメジンがオピオイド誘発性便秘に対する便秘薬や緩下剤の使用に与える影響について
山口 曜（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P4-2　フェンタニル経皮吸収型製剤525μg/hを125μg/hまで減量しえた一例
渡辺 恵布（群馬大学 医学部附属病院 薬剤部）

P4-3　メサドン投与時のQTc補正値に関する実態調査
小澁 朝子（国立がん研究センター東病院 薬剤部）

P4-4　がん疼痛治療のために医療用麻薬注射製剤をPCA機能付きポンプで投与する際の安全なレスキュー使用に関する後方視的調査
池長 奈美（国立がん研究センター中央病院 看護部）

P4-5　婦人科悪性腫瘍に対するTC（パクリタキセル・カルボプラチン）療法中に生じる関節痛・筋肉痛におけるオピオイドの使用経験
木村 英世（国立病院機構 小倉医療センター 外科）

P4-6　がん性疼痛に対して高用量のヒドロモルフォンにケタミンを併用した1例
松原 千香（東京歯科大学 市川総合病院 薬剤部、東京歯科大学 市川総合病院 緩和ケアチーム）

P4-7　当院緩和ケアチームにおいて下肢壊疽に対しブプレノルフィンを使用した症例
高橋 尚子（日本赤十字社 医療センター 緩和ケア科）

P4-8　呼吸器悪性腫瘍におけるメサドンと強オピオイド併用に関する使用状況調査
渕崎 恵美子（独立行政法人国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 薬剤部、
独立行政法人国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 支持・緩和療法チーム）

P4-9　オピオイドコーピングや偽依存が疑われる状況下でメサドン内服からオキシコドン持続投与へ切り替え良好な疼痛コントロールが得られた1症例
森 竜久（医療法人社団 桐和会 東京さくら病院）

P4-10　悪性腸腰筋症候群に対しメサドンが有効であった3症例
石丸 紗也佳（市立芦屋病院）

P4-11　上肢リンパ浮腫による疼痛にメサドンで対応した一症例
高子 優子（宝塚市立病院 薬剤部）

オピオイド5（P5-1～P5-6）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：水野 俊美（がん研究会有明病院 看護部）

P5-1　難治性がん疼痛に対する当施設でのメサドン使用実績と切れ目のない疼痛緩和への取り組み
渡部 秀樹（鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科、鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院）

P5-2　内服困難な患者のがん性疼痛に対して高用量のヒドロモルフォン注射薬（HM）をオキシコドン注射薬（OC）にオピオイドスイッチング（OS）を行った2症例
堀 泰祐（淡海医療センター 緩和ケア内科）

P5-3　ヒドロモルフォン注射剤から経口剤への変更で大幅な増量を要した一例
外池 祐子（厚生連長岡中央綜合病院 緩和ケアチーム）

P5-4　ヒドロモルフォン塩酸塩徐放錠導入量の検討～低用量導入（2mg/日）の有効性～
加藤 涼子（愛知医科大学病院 薬剤部、愛知医科大学病院 緩和ケアチーム）

P5-5　ケミカルコーピングへの対応の実際：代替コーピングの獲得と実存的な不安への対処を行なった一例
山根 朗（淀川キリスト教病院 緩和医療内科、関西医科大学附属病院 研究医員）

P5-6　在宅医療における高度がん性疼痛とオピオイドによる眠気がある患者に対し2種のオピオイドの併用と放射線療法を行い疼痛緩和しつつ副作用を軽減しADLを維持しえた1例
真船 太一（医療法人社団平郁会 みんなの日立クリニック）

トータルペイン、非薬物療法（患者教育など）（P6-1～P6-9）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：伊藤 奈央（岩手医科大学 看護学部 ）

P6-1　癌関連膿瘍へのドレナージと人生のトラウマへの精神療法によりトータルペインを緩和することのできた大腸癌症例
米田 孝一（いづろ今村病院 緩和ケア内科）

P6-2　神経障害性疼痛を伴う悪性リンパ腫治療における多職種チーム医療の役割
林 邦雄（明和病院 血液内科）

P6-3　多施設，多職種の連携によりオピオイド使用障害から脱した症例を通して考える本邦におけるオピオイド使用障害への対応の問題点
杉原 有希（東京都立多摩総合医療センター 緩和ケア内科）

P6-4　意味のある活動に従事したことで包括的QOL評価（CoQoLo）に改善を認めた終末期食道がん患者の一例
山口 拓也（医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院、
神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション研究科 医療リハビリテーション専攻、
慶應義塾大学大学院 医学研究科 医学系研究専攻）

P6-5　進行癌で化学療法中に非がん急性疾患のため緊急手術を施行した症例への緩和ケア介入の経験と課題
沖田 充司（岡山市立市民病院 外科）

P6-6　カルシフィラキシスを発症した慢性腎不全患者への多職種による関わり
上田 響子（東京慈恵会医科大学附属病院 緩和ケア診療部）

P6-7　疼痛緩和に難渋した白血病終末期の2症例
植田 知代子（京都桂病院 緩和ケア科）

P6-8　がんサバイバーのオピオイド使用障害に対して認知行動療法を取り入れてハームリダクションを試みた一例
小西 治子（日本赤十字社医療センター 緩和ケア科）

P6-9　身体症状症（DSM-5）の診断がついて多量のオピオイドを減量できた肺癌の一例
小室 龍太郎（国立病院機構 金沢医療センター 緩和ケア内科）

呼吸器症状（呼吸困難、咳など）（P7-1～P7-12）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：中村 陽一（東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター）

P7-1　呼吸困難を有している患者に対する当院における看護実践の実態
中嶋 紫乃（独立行政法人 国立病院機構 高崎総合医療センター 看護部）

P7-2　緊張性気胸発症し持続胸腔ドレナージを施行したが、急激な転帰を辿った空洞病変を伴う原発性肺癌の一例
越村 裕美（市立秋田総合病院 緩和ケア内科）

P7-3　脳腫瘍の小児在宅緩和ケアにおける経鼻高流量療法の有効性
前田 浩利（医療法人財団 はるたか会）

P7-4　緩和医療における呼吸困難に対する薬物治療の実態調査
宮森 歩美（神戸学院大学 薬学部）

P7-5　呼吸困難感に対するヒドロモルフォンの有効性~モルヒネ・オキシコドンとの比較~
山本 果奈（東京女子医科大学 がんセンター、消化器内科）

P7-6　呼吸器悪性腫瘍における在宅酸素療法の実態，在宅療養期間や予後に関する検討
黒岩 裕也（公立藤岡総合病院 呼吸器内科）

P7-7　少量ヒドロモルフォンがⅡ型呼吸不全を併発した超高齢進行期肺がん患者の呼吸困難の症状緩和に有効であった一例
小原 弘之（廿日市記念病院 内科）

P7-8　StageDの心不全に伴う呼吸困難に対してフェンタニル持続投与が有効であった3症例
小沢 陽子（信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科、信州大学医学部附属病院 緩和ケア内科）

P7-9　非がん進行性疾患の呼吸困難に対するモルヒネ注射剤の当院での使用経験について
松島 紗代実（磐田市立総合病院 緩和医療科、磐田市立総合病院 呼吸器内科）

P7-10　治療に難渋した頭皮血管肉腫による続発性気胸の1例
飯田 邦夫（協立総合病院 緩和ケア診療部）

P7-11　膵臓癌肺転移、癌性胸膜炎に伴う大量の胸水貯留に対して、ほぼ毎週、胸水を排液することにより1年程度の自宅療養を支えた症例
米田 孝一（いづろ今村病院 緩和ケア内科）

P7-12　呼吸困難に対して高流量鼻カニュラ酸素療法（HFNC）を使用し家族との時間を過ごすことが出来た一例
長谷川 森一（成田記念病院 緩和ケア外科）

消化器症状（悪心・嘔吐、腹水など）1（P8-1～P8-8）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：添田 遼（医療法人社団　三喜会　鶴巻温泉病院 リハビリテーション部）

P8-1　肺腺癌，乳び腹水に対しオクトレオチド持続皮下注が有効であった症例
佐野 広美（埼玉協同病院 緩和ケア内科）

P8-2　肝硬変の終末期と一時は診断されたが、利尿薬（特にスピロノラクトン®）により腹水が貯留しなくなりCART（腹水濾過濃縮再静注法）を離脱でき退院可能となった1例
高橋 有我（医療法人二之沢会 二之沢病院）

P8-3　胃癌術後腹膜播種による悪性腹水に対し頻回の腹水濾過濃縮再静注法（CART）が症状緩和に有効であった一例
長尾 宗紀（東北医科薬科大学病院 がん治療支援（緩和）科）

P8-4　嘔気・嘔吐を有する末期がん患者に対するヒドロキシジンとミダゾラムの二剤併用療法
神保 好夫（立正佼成会附属佼成病院 緩和ケア科）

P8-5　確定診断のついていない悪性消化管閉塞に対しステロイドが著効し通過障害の改善が得られた症例
中村 契（国保中央病院）

P8-6　幽門部ステントが断裂していた1症例
牧野 毅彦（医療法人相生会 福岡みらい病院）

P8-7　悪心の原因精査により診断しえた亜鉛過剰症の一例
小松 祐也（長崎大学病院 緩和ケアセンター、長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 麻酔集中治療医学）

P8-8　クモ膜下フェノールブロックにて難治性肛門部痛とともに排便困難とADLが改善した大腸癌仙骨転移の一症例
森山 久美（川崎市立 多摩病院 緩和ケア内科、聖マリアンナ医科大学 緩和医療学講座）

消化器症状(悪心・嘔吐、腹水など)2 (P9-1～P9-8)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：青木 美和（大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻）

P9-1　前立腺癌患者において整復困難なS状結腸軸捻転をきたした1例
山内 通仁（NTT東日本 関東病院 緩和ケア科）

P9-2　薬剤起因性collagenous colitisが疑われた1例
山本 敦子（岡崎市民病院 緩和ケア内科）

P9-3　術後狭窄をきたした再発中咽頭癌に対して、食道ステントの挿入がQOL向上に寄与し、自宅退院が実現した一例
松本 弥一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

P9-4　悪性消化管閉塞に対するドレナージ法の違いがん患者のQOLに与える影響
沖代 格次（おきしろ在宅クリニック）

P9-5　上行結腸に便塊が至る重症便秘に対して、オリーブ油停留浣腸が著効した1例
山川 宣（神鋼記念病院 緩和治療科）

P9-6　難治性腹水に対し腹腔静脈シャント術を施行した167名の治療効果、短期死亡率についての検討
西尾 美帆（医療法人社団 いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケア外科）

P9-7　狭窄症状を伴う食道扁平上皮癌に対する緩和的放射線治療の臨床経験
川端 良平（堺市立総合医療センター 緩和ケア科）

P9-8　がん終末期のメトクロプラミドおよびハロペリドール抵抗性の持続的な悪心に対してレボメプロマジン持続皮下注を使用した3例の効果および副作用に関する検討
端 裕之（大阪赤十字病院 緩和ケア科）

痛み以外の基礎研究、食欲不振・輸液・栄養・悪液質症候群、倦怠感 (P10-1～P10-8)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：宮田 知恵子（独立行政法人国立病院機構東京医療センター 緩和ケア内科/腫瘍リハビリテーション科）

P10-1　在宅療養中の癌患者のセレン血中濃度の検討
杉本 由佳（すぎもと在宅医療クリニック）

P10-2　がん患者における高マグネシウム血症に寄与する因子とその基準値についての検討
春日 真由美（国立病院機構 埼玉病院 緩和ケア内科）

P10-3　切除不能進行胃がん患者に対して『栄養サポート外来』で実施した集学的栄養療法の実際
大原 寛之（日本赤十字社 長崎原爆病院 緩和ケア内科）

P10-4　当院における終末期患者の最終末期の輸液についての後方視的検討
高野 仁（JA岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター 岐北厚生病院 外科）

P10-5　JA尾道総合病院における終末期がん患者に対するアナモレリンの使用状況
濱井 宏介（JA尾道総合病院 呼内科内科）

P10-6　緩和ケア病棟における経管栄養
豊見山 健（沖縄赤十字病院 外科・緩和ケア科）

P10-7　アナモレリンの処方開始時期と投与期間
田邊 祐貴（富山大学附属病院 緩和ケアチーム）

P10-8　非常に強い倦怠感が、がんの進行と判断され緩和ケアへ紹介となった患者の症状が免疫チェックポイント阻害剤による有害事象であった事例
前里 喜一（医療法人 松籟会 河畔病院）

泌尿器症状、口腔の問題、脊髄圧迫・脳転移・痙攣 (P11-1～P11-9)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：三浦 智史（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

P11-1　入院時の苦痛のスクリーニングから考える膀胱がんと前立腺がん患者の心理的特徴
横田 亜水（医療法人 原三信病院 看護部）

P11-2　泌尿器科手術後の膀胱刺激症状・疼痛の出現時間に関する前向き観察研究
二村 舞子（名鉄病院）

P11-3　S状結腸がん膀胱浸潤による膀胱テネスムスへの対応に難渋した症例
本間 恵子（金沢医科大学 麻酔科学講座、金沢医科大学病院 緩和ケアチーム）

P11-4　がん治療に伴う口腔粘膜炎の症状および生活への支障に関する実態調査
原田 真梨子（国立がん研究センター 東病院）

P11-5　口腔保湿ケアの継続により終末期咽頭癌患者の不快症状を緩和できた一事例
政時 仁美（社会医療法人 社団高野会 くるめ病院 地域包括ケア病棟 看護部、
社会医療法人社団高野会 くるめ病院 内科、社会医療法人社団高野会 くるめ病院 外科）

P11-6　ステロイド、濃グリセリンが無効な乳癌のがん性髄膜炎患者の終末期症状緩和に成功した一例
岡田 佳也（多根総合病院 腫瘍内科、多根総合病院 がん診療センター）

P11-7　緩和ケア病棟に入棟した悪性リンパ腫中枢神経浸潤症例の後方視的検討
小笠原 励起（札幌北楡病院 血液内科、札幌北楡病院 緩和ケアチーム）

P11-8　腹膜播種を有する患者の癌性髄膜炎による脳圧亢進症状に対して脳室腹腔シャント術を行い自宅で家族と過ごすことができた一例
奥田 有香（和歌山県立医科大学附属病院 麻酔科、和歌山県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

P11-9　転移骨腫瘍による脊髄圧迫に対する術後成績についての事例報告
小城原 傑（昭和大学江東豊洲病院 消化器センター、昭和大学江東豊洲病院 緩和ケアチーム）

薬物相互作用、がん治療における支持療法（P12-1～P12-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：高橋 秀和（船橋市立医療センター 腫瘍内科）

P12-1　緩和ケアチームが薬物療法を行っていた癌患者が薬剤性QT延長症候群から多形性心室頻拍を発症した一例
佐伯 彩乃（兵庫医科大学 麻酔科・疼痛制御科学講座）

P12-2　取り下げ

P12-3　取り下げ

P12-4　ミコナゾール錠口腔用を使用後、薬物相互作用が疑われた一例
久保 麻悠子（佐賀県医療センター好生館 緩和ケア科）

P12-5　大腸がんの化学療法中の有害事象に対し鍼灸治療が奏功した1例
堀口 葉子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P12-6　がん患者に対するCVポート留置の有用性と安全性に関する検討
高橋 秀和（船橋市立医療センター 腫瘍内科）

P12-7　パロノセトロンにより3日間の強い傾眠を生じた1例
山際 一也（平塚市民病院 薬剤部）

P12-8　乳がん患者における運動の実施状況とQOL -初発及び再発との比較-
小橋 和花（長崎大学病院）

P12-9　抗がん剤治療が誘発したと考えられたRestless Legs症候群の検討
瀧川 千鶴子（KKR札幌医療センター）

P12-10　自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法に伴う口腔粘膜炎に対するジェルクレアの有効性
加藤 晋一郎（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 緩和ケアチーム、国家公務員共済組合連合会 斗南病院 薬剤部）

抑うつ・不安、せん妄・不眠1（P13-1～P13-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：東端 孝博（筑波大学附属病院 緩和支持治療科）

P13-1　在宅療養中に認めたステロイド誘発性精神症状により本人・家族間の不和を生じた3例
沖代 奈央（おきしろ在宅クリニック）

P13-2　家族介護者が患者の手を握る行為による自律神経機能の変化と抑うつとの関連
佐久間 博子（関西医科大学 心療内科学講座）

P13-3　がんサバイバー看護師が取り組んだ追体験で、抑うつ状態から離脱した一症例
中川 吉恵（社会医療法人 高清会 高井病院 看護部）

P13-4　双極性障害と不安障害を併存した患者が乳がん術後再発，大腿骨転移性骨腫瘍の手術目的で入退院後，緩和ケア外来で精神科医が同席して薬物調整を行っている事例
長井 友子（昭和大学江東豊洲病院 精神科、昭和大学江東豊洲病院 緩和ケアチーム）

P13-5　星の癒し -緩和ケアにおけるプラネタリウムの効果-
長山 幸仁（社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院）

P13-6　リハビリ職員のせん妄対策への意識向上に向けた取り組み～リハビリ専門職対象の研修会の開催～
依光 美波（社会福祉法人 恩賜財団 済生会松山病院）

P13-7　終末期がん患者におけるせん妄に対する院内製剤クエチアピン坐剤の有用性：後ろ向き観察研究
小山 大輔（愛和病院 緩和ケア内科）

P13-8　硬膜外持続鎮痛により痛みとせん妄が改善し緩和ケア病棟を退院し在宅療養可能となったがん患者の2症例
栗山 俊之（和歌山県立医科大学 緩和ケアセンター）

P13-9　術後せん妄予防目的に術前GABA$_A$受容体作動薬を他剤に切り替える有効性の検討
寺田 立人（国立がん研究センター 中央病院 精神腫瘍科、伊那中央病院 腫瘍内科）

P13-10　ヒドロキシジンとハロペリドールの併用は、がん患者のせん妄を悪化させなかった：多施設共同後ろ向き観察研究
平山 貴敏（こころサポートクリニック 心療内科・精神科・腫瘍精神科、
国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

せん妄・不眠2 (P14-1～P14-11)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：北浦 祐一（パナソニック健康保険組合　松下記念病院 精神神経科）

P14-1　同種造血幹細胞移植患者におけるせん妄の要因の検討
木原 里香（JA愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科）

P14-2　抗精神病薬の持続皮下注射における予防的ステロイド混注が重篤な皮膚有害事象に及ぼす影響
矢吹 律子（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

P14-3　投与経路からみたオレキシン受容体拮抗薬の比較～頭頸部がんに診られた不眠の一例～
西本 武史（函館五稜郭病院緩和ケア科、函館五稜郭病院緩和ケアチーム、函館五稜郭病院精神科リエゾンチーム、
福井大学医学部腫瘍病態治療学講座）

P14-4　緩和ケア病棟におけるオランザピン筋注製剤の安全性についての検討
川上 恭平（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、静岡県立静岡がんセンター 腫瘍精神科）

P14-5　緩和ケア領域におけるレンボレキサントの不眠への効果についての後ろ向き研究
山中 駿（埼玉県立がんセンター 緩和ケア科、埼玉県立がんセンター 心療内科）

P14-6　ラメルテオンの内服によって悪夢を引き起こした一例
平山 沙織（神戸大学医学部附属病院 緩和支持治療科）

P14-7　せん妄・抑うつ状態が主症状であった、直腸癌髄膜癌腫症の一例
新野 捺美（埼玉医科大学病院 緩和医療科）

P14-8　経口摂取不能な治療抵抗性終末期せん妄を有するがん患者の療養場所選択に対するプロナンセリン経皮吸収型製剤の有効性：後ろ向き観察研究
今井 亨（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

P14-9　単施設での睡眠薬の分類における転倒率調査
松坂 和正（埼玉県立がんセンター 薬剤部）

P14-10　がん専門病院におけるせん妄症状軽減を目的とした非薬物療法の実施状況調査
佐々木 千幸（国立がん研究センター中央病院 看護部）

P14-11　75歳以上の呼吸器悪性腫瘍患者におけるせん妄と病状の関連
飯田 郁実（国立がん研究センター中央病院 臨床開発推進部門 医薬品開発推進部 支持療法開発室、
国立がん研究センター中央病院 看護部）

せん妄・不眠3
(P15-1～P15-14)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：入江 佳子（虎の門病院 ）

P15-1　がん患者のせん妄の発症予防に対する非薬物療法：スコーピングレビュー
菅野 雄介（東京医科歯科大学大学院）

P15-2　臨床疑問2 がん患者のせん妄の発症予防における抗精神病薬単独投与：スコーピングレビュー
石田 哲朗（日本医療大学病院 精神科、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-3　がん患者のせん妄の発症予防におけるラメルテオン：スコーピングレビュー
和田 佐保（国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部、国立がん研究センター 中央病院 精神腫瘍科、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-4　臨床疑問4 がん患者のせん妄に対するオレキシン受容体拮抗薬単独投与：スコーピングレビュー
安田 俊太郎（東京医科歯科大学病院 薬剤部、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-5　CQ5：がん患者のせん妄の評価方法：スコーピングレビュー
大矢 希（京都府立医科大学 大学院医学研究科 精神機能病態学、JPOS ガイドライン策定委員会 せん妄小委員会）

P15-6　がん患者のせん妄に対する抗精神病薬：スコーピングレビュー
山本 泰大（小牧市民病院 薬局、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-7　臨床疑問8 がん患者のせん妄に対するトラゾドン：スコーピングレビュー
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）

P15-8　臨床疑問9 がん患者のせん妄に対するヒドロキシジン：スコーピングレビュー
平山 貴敏（こころサポートクリニック 心療内科・精神科・腫瘍精神科、国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-9　臨床疑問10 がん患者のせん妄に対するベンゾジアゼピン系薬単独投与：スコーピングレビュー
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科、市立芦屋病院薬剤科、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-10　臨床疑問11 がん患者のせん妄に対する抗精神病薬とベンゾジアゼピン系薬併用：スコーピングレビュー
岡本 禎晃（市立芦屋病院、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-11　臨床疑問12 がん患者のせん妄に対する抗精神病薬と抗ヒスタミン薬併用療法：スコーピングレビュー
伊藤 哲也（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-12　臨床疑問13 オピオイド投与中のがん患者のせん妄に対するオピオイドスイッチング：スコーピングレビュー
山中 幸典（イワオ薬局 日赤病院前ミタス伊勢店、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-13　臨床疑問14 がん患者のせん妄症状に対する非薬物療法：スコーピングレビュー
角甲 純（三重大学、JPOSガイドライン策定委員会せん妄小委員会）

P15-14　臨床疑問15 終末期がん患者のせん妄に対するアプローチ：スコーピングレビュー
三好 崇文（市立伊丹病院 精神科）

精神・心理的ケア1
(P16-1～P16-11)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：川崎 優子（兵庫県立大学 看護学部）

P16-1　心理的援助によって、正確な病状理解およびICに至った膀胱がん患者の一例
林 みなみ（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部）

P16-2　進行卵巣癌患者のスピリチュアルペインに対し多職種で連携し対応した一例
吉田 美恵子（信州大学 医学部附属病院 婦人科病棟）

P16-3　小児病院血液・腫瘍科における心理士の取り組み～心理支援の実際とその役割・意義～
浦上 涼子（東京都立小児総合医療センター 心理福祉科）

P16-4　オンライン面会は患者の希望に繋がるのか
坂本 千佳（上尾中央第二病院）

P16-5　多様な面接構造での心理支援が，自殺予防や遺族サポートにつながった骨髄異形成症候群の1例
梶原 都香紗（近畿大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター）

P16-6　がんと診断される前後での音楽を聴く習慣の変化と、気分により聴く音楽のムードについて
石田 彩花（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

P16-7　緩和ケアチームが希死念慮の対応を行った事例の現状把握と課題
島田 瑠奈（聖隷浜松病院 緩和医療科、聖隷浜松病院 緩和ケアサポートチーム）

P16-8　苦痛や意思表出の場が確保されていることが，苦痛緩和の一助になったと思われる症例―リハビリテーションは私のための時間―
小畑 敦子（重井医学研究所附属病院 リハビリテーション部）

P16-9　乳幼児を育てながら外来化学療法を受けるがん患者の親役割遂行上の困難と対処―質的研究を通して―
赤司 友実（国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

P16-10　当院緩和ケアチーム心理士による院内活動の現状と課題～心理士に求められる専門性について～
大塚 有利子（熊本大学病院 緩和ケアセンター）

P16-11　血液造血器疾患患者が無菌室入室中に体験する不安～入室後1週目と3週目の比較～
富澤 恵樹（前橋赤十字病院）

精神・心理的ケア2 (P17-1～P17-10)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：茅野 綾子（国立がん研究センター　中央病院 精神腫瘍科）

P17-1　がん専門病院における禁煙外来の取り組み
三島 菜乃（国立がん研究センター 中央病院 精神腫瘍科）

P17-2　取り下げ

P17-3　精神疾患を有する早期乳がん患者の意思決定を支えた一例
松本 奈央（社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院）

P17-4　AYA世代の造血器腫瘍患者に対する病状理解と意向確認を目指した心理的アプローチの検討
北上 早紀（徳島大学病院 がん診療連携センター）

P17-5　A地域がん診療連携拠点病院におけるがん患者への自殺予防対策の取り組みと今後の課題
高橋 淳子（総合病院 聖隷浜松病院）

P17-6　終末期がん患者の外見の変化に苦痛を感じた家族と共に行った作業療法
池知 良昭（香川県立白鳥病院 リハビリテーション科、
東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 客員研究員）

P17-7　Zoomを用いたオンラインによる「心理から考える症例検討会」の活動報告
柳原 恵梨（谷田病院）

P17-8　自宅退院当日に自殺未遂に至った1症例
久保 佳子（長野市民病院 緩和ケア内科）

P17-9　緩和ケア病棟での心理面接における中断についての一考察
本田 寛（独立行政法人国立病院機構 豊橋医療センター 統括診療部）

P17-10　BSC期のがん患者の「その人らしさ」を支える看護実践-熟練看護師の語りから-
藤本 紗也加（昭和伊南総合病院、長野県看護大学 大学院 成人看護学分野）

遺族のケア (P18-1～P18-11)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：竹久 志穂（近畿大学病院 がん相談支援センター）

P18-1　がんで配偶者を亡くした遺族にとっての成長経験：メルロ=ポンティの身体図式の組み換えに依拠して
近藤 めぐみ（京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）

P18-2　小児専門病院で子どもを亡くした遺族へのグリーフケアと今後の課題
鎌田 真紀（千葉県こども病院 緩和医療検討委員会）

P18-3　Facsimile Illnessを伴う遷延性悲嘆症を抱える遺族の一例
竹内 恵美（国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部、国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

P18-4　当院のグリーフケアの一環である遺族会「故人を偲ぶ会」の活動報告
小木曽 綾子（愛和病院 看護部）

P18-5　がん患者の遺族のQuality of Lifeと死別前のケアの満足度及び家族機能の関連：縦断的研究の二次解析
川原 美紀（東京女子医科大学 成人看護学）

P18-6　遺族自身が望む遺族ケアのあり方についての質的研究
橋内 麻衣子（奈良県立医科大学附属病院 消化器内科）

P18-7　3年ぶりの対面開催の遺族会を実施して～看護師の振り返りを考察する～
橋本 光代（パナソニック健康保険組合 松下記念病院）

P18-8　“遺族”は社会的にどのように見られているのか―誰を亡くしたかによる認識の違い
坂口 幸弘（関西学院大学 人間福祉学部 人間科学科、関西学院大学 悲嘆と死別の研究センター）

P18-9　がん患者の遺族における介護体験の評価：J-HOPE2016 Study
大沢 恭子（京都大学 医学部附属病院 緩和医療科）

P18-10　配偶者との死別後に受ける期待が遺族のPosttraumatic Growthに及ぼす影響①―質問紙調査による検証―
白澤 万智（こころの総合診療室 Canal 勾当台）

P18-11　死別後社会的孤立が予想される家族に長期的な生活支援を見据え多職種で効果的に関わった1例
木原 歩美（京都民医連あすかい病院）

在宅緩和ケア1 (P19-1～P19-12)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科 ）

P19-1　在宅医療の麻薬注射製剤普及のための実態調査
石川 彩夏（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P19-2　親、子、孫と三世代にわたり同時期に在宅緩和ケアを行った家族の1例
國末 充央（医療法人社団 彩明会 グリーン在宅クリニック）

P19-3　終末期在宅がん患者の消化管皮膚瘻に対して酢酸オクトレオチドを用い、皮膚障害と疼痛の改善が得られた一例
高林 広明（岡部医院仙台）

P19-4　在宅療養中の終末期癌患者の臨死期における鎮静についての後方視的調査
中安 一夫（医療法人博愛会 顕田病院）

P19-5　在宅で過ごす終末期がん患者を支える訪問看護師の実践と抱えている課題
梅山 恵一郎（医療法人修志会 りあん訪問看護ステーション）

P19-6　TAFRO症候群が疑われたAIDS患者を在宅で看取った一例
岩月 まり子（秋本クリニック訪問看護ステーション）

P19-7　取り下げ

P19-8　A市で当クリニックが在宅で実施する腹水濾過濃縮再静注法の現状と課題
守屋 有紀子（在宅医療専門診療所 医療法人 いなだ訪問クリニック）

P19-9　在宅療養中の末期癌患者に発症したストーマ穿孔の1例
高木 圭（医療法人社団 淳友会 わたクリニック）

P19-10　在宅セッティングにおけるがん患者へのオピオイド持続注射の有用性
平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック 腫瘍内科・緩和ケア内科）

P19-11　鎮静の検討会によりミダゾラムの投与目的が変更になった悪性胸水の一例
加藤 誠二（ゆめクリニック 戸塚院）

P19-12　在宅看取りを希望した独居終末期がん透析患者の一例からがん透析患者の看取りを考える
小出 緑（医療法人生寿会 かわな病院）

在宅緩和ケア2
(P20-1～P20-12)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：吉村 真一朗（JCHO九州病院 緩和ケア科）

P20-1　当院訪問診療におけるオピオイド持続注射の使用状況
原田 奈津子（医療法人 平和の森 ピースホームケアクリニック）

P20-2　進行がん患者に対する全人的苦痛の緩和のための在宅緩和ケアチームの実践～ディグニティセラピーやがんのリハビリテーションを通じて～
齊藤 名歩（さつきホームクリニック、さつき訪問看護ステーション）

P20-3　在宅終末期ケアにおける訪問診療同行看護師の役割検討―同行看護師および多職種、患者家族を対象としたインタビュー―
奥岡 由美（社会医療法人 関愛会 江別訪問診療所）

P20-4　訪問看護ステーションと連携強化のため在宅緩和ケア医が担当患者に特化した緩和ケア及び薬剤講義を訪問看護ステーションに出張して自宅療養支援を行った活動報告
渡辺 啓太郎（栄光病院 在宅医療センター）

P20-5　介護施設で活かすデータテクノロジー「眠りスキャン」を用いた予後予測ツールの可能性を検証する
齊藤 麻衣（SOMPOケア そんぽの家交野）

P20-6　訪問看護におけるエンゼルケアの特徴と課題
坂詰 大輔（桜新町ナースケアステーション）

P20-7　終末期の苦痛症状を抱えながらも治療を希望された大腸がん患者の1例 -関わりが難しいと感じたA氏への看護を振り返る-
富澤 和子（合同会社being 訪問看護ステーション クローバー）

P20-8　慢性腎不全透析差し控え後に在宅緩和ケアを行った2症例
塚越 規子（緩和ケア診療所 いっぽ）

P20-9　当院で在宅緩和ケアを行ったがん末期独居例の検討
塚田 裕子（在宅ケアクリニック川岸町）

P20-10　介護者がひとりきりの在宅看取り在宅看取りを希望した高齢患者の事例を振り返って
雨宮 裕美子（東大和訪問看護ステーション武蔵村山サテライト）

P20-11　余命宣告後、自ら決断できることや家族の笑顔が生きる原動力になり、長期在宅療養が可能となっている患者の語り
江﨑 優子（ここな訪問看護ステーション）

P20-12　食道小細胞癌に対し早期胃瘻造設を依頼したことでQOL低下せず自宅見取りを行えた1症例
杉本 由佳（すぎもと在宅医療クリニック）

在宅緩和ケア3
(P21-1～P21-12)

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：松岡 真里（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻 小児看護学分野）

P21-1　在宅にて鎮静下にある肺がん終末期患者への呼吸ケア管理における、看護師の葛藤および苦痛緩和における評価の難しさについて
鑪水 理恵子（やよい訪問看護ステーション）

P21-2　治療病院から退院連携した看護小規模多機能型居宅介護でのケアリング
市橋 正子（医療法人社団思葉会 MEIN HAUS）

P21-3　病院薬剤師が末期心不全患者の在宅緩和ケアに介入した一例
木和田 真帆（公立みつぎ総合病院 薬剤部）

P21-4　在宅医療におけるがん患者の終末期過活動せん妄の体系的治療の開発
阿部 晃子（横浜市立大学附属病院 緩和医療科、国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P21-5　在宅療養中に心不全と思われた末期がん患者の血清アルブミン（ALB）値とN末端プロB型ナトリウム利尿ペプチド（NT-proBNP）値の検討
渡辺 邦彦（在宅ほすぴす）

P21-6　地域がん診療連携拠点病院での、がん終末期訪問診療の状況と課題
上條 佳子（社会医療法人財団慈泉会相澤病院）

P21-7　オピオイド注射薬持続投与継続で在宅移行する患者のPCAポンプの使用調査
佐久間 詠理（医療法人社団淳友会 わたホームクリニック）

P21-8　在宅緩和ケアの場面で日中と夜間でフェンタニルクエン酸塩の投与量をあらかじめ調整することで症状コントロールできた1例
廣橋 航（福岡みなと在宅医療クリニック）

P21-9　認知症を持つ終末期がん患者と家族の関わり
長 光代（おれんじ訪問看護ステーション）

P21-10　訪問リハビリテーションを通して，短期間の介入の中で作業療法士が関わった終末期ケアの一事例
村口 詞紀（社会福祉法人 勤医協福祉会 勤医協札幌ひがし訪問看護ステーション）

P21-11　在宅終末期における骨肉腫肺転移患者の呼吸困難に対して、CPAP装置を用いた擬似HFNCが有効であった一例
光田 栄子（かとう内科並木通り診療所）

P21-12　乳癌広範囲糜爛にロールタイプの非固着性ドレッシング材が有用であった一例 ―訪問看護師の“配慮”と“必要”の葛藤から―
吉田 祐子（なごみ訪問看護ステーション仁川）

在宅緩和ケア4（P22-1～P22-12）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：津村 明美（認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト ）

P22-1　在宅医療におけるQOD向上を目指して-遺族アンケートから学ぶ-
伊丹 知子（医療法人自由会 こうなんクリニック）

P22-2　在宅での髄腔内化学療法にて症状緩和を得た急性骨髄性白血病症例における薬局薬剤師の役割
谷口 允文（株式会社ケアフェイン 在宅ケア薬局）

P22-3　悪性腫瘍患者への在宅輸血と在宅看取りについて
山岡 憲夫（やまおか在宅クリニック）

P22-4　生活のしやすさに関する質問票から見えたがん患者の外来における在宅療養支援の課題
川瀬 佳津子（福井県 済生会病院）

P22-5　在宅医療に携わる診療看護師の役割 ―末期がん患者への専門性を活かした活動報告―
田代 恵子（ゆみのハートクリニック、医療法人社団ゆみの）

P22-6　独居患者が支援体制を整えたことで最期まで自宅で過ごすことができた一例
小室 綾（北見赤十字病院 看護部）

P22-7　在宅緩和ケアに難渋したパーソナリティ障害を患う若年性乳癌患者の一例
吉田 志帆子（豊川医院）

P22-8　在宅医への依頼が困難で自宅療養が難しいと考えられた症例に訪問診療を実施してみて見えてきた課題
片井 留美（鹿児島市医師会病院 緩和ケア科）

P22-9　当診療所における在宅緩和ケアの現状と課題ー活動開始後の11年間を振り返ってー
大呂 昭太郎（すえひろ生協診療所 緩和ケア科）

P22-10　在宅緩和ケアにおけるICT情報共有ツール利用症例の検討
梶浦 新也（富山大学 附属病院 臨床腫瘍部）

P22-11　在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者のうち、持続的鎮静を行なった5例の検討
井上 稔也（いのうえ在宅診療所）

P22-12　訪問診療の頻度の決定にPPI（Palliative Prognostic Index）を用いた経験
中村 幸生（医療法人優幸会 中村クリニック）

在宅緩和ケア5、高齢者の緩和ケア（P23-1～P23-8）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：荻野 美恵子（国際医療福祉大学医学部 医学教育統括センター・脳神経内科学）

P23-1　終末期の身の置き所のない苦痛に対して、ポケットエコーが一助となり尿道カテーテルを抜去したことで、患者、家族の両者に安眠が得られた一例
藤本 恭子（よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 よどきり訪問看護ステーション）

P23-2　在宅緩和ケア協働支援による長野県北信地域（信濃町）への地域包括ケアの活動についての報告
田實 武弥（新生病院 診療部、穂波の郷クリニック）

P23-3　通院中からの関わりで訪問看護の導入がスムーズだった一事例
齊藤 矢寿子（済生会高岡病院 訪問看護ステーション）

P23-4　当院における高齢者総合機能評価への取り組みと治療転帰との関連について
比嘉 謙介（川口市立医療センター 緩和ケア科、医療法人 宙麦会 ひだクリニック）

P23-5　非がん慢性疼痛ならびにがんサバイバーのオピオイド中止に伴う考察―当院でオピオイドを中止できた症例と中止できなかった症例から
佐藤 真理子（新座志木中央総合病院）

P23-6　当院緩和ケア病棟に入棟した超高齢がん患者に関する検討
二宮 智子（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

P23-7　緩和ケアセンターに依頼のあった高齢患者の治療の意思決定の実状
内田 恵（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学、名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

P23-8　高齢者機能評価に基づいて行う、緩和ケアチームとの協働体制の整備
平野 勇太（国立がん研究センター 東病院）

予後予測（P24-1～P24-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：今井 堅吾（聖隷三方原病院 ）

P24-1　急性期病院におけるPiPS Bモデルの検証
三浦 康誠（菊名記念病院 外科）

P24-2　進行がん患者におけるNEWS（National Early Warning Score）による予後予測の有用性に関する検討
西木戸 修（昭和大学横浜市北部病院 緩和医療科）

P24-3　がん性リンパ管症患者の終末期の経過と早期死亡予測因子に関する後ろ向き観察研究
加藤 栄助（小牧市民病院 緩和ケア科、
昭和大学 医学部 内科学講座 呼吸器アレルギー内科部門 藤が丘病院 呼吸器内科）

P24-4　臨死期に死亡前徴候として眼球彷徨を認めた3例
安藤 詩織（京都桂病院 緩和ケア科）

P24-5　在宅型ホスピス施設においてターミナルケアへの移行を予後予測指標を用いて実践した取り組み
平野 美佳子（株式会社 アンビス 医心館訪問看護ステーション浜松早出）

P24-6　脳腫瘍・脳転移がある患者の予後予測の精度に関する検討
伊藤 真理（愛知医科大学病院）

P24-7　訪室時に死亡している状態で発見された突然死3症例の検討
筒井 健次（あさか医療センター 緩和ケア科、あさか医療センター 緩和ケア科 看護部）

P24-8　乳癌化学療法患者における好中球リンパ球比、血小板リンパ球比の変化と予後
山口 由美（鳥取赤十字病院 外科）

P24-9　がん終末期における低血糖のリスク因子の同定
金井 良晃（TMGあさか医療センター 緩和ケアセンター）

P24-10　終末期がん患者の予後予測より生存が短かった症例に関する検討
村井 美代（藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座）

看取りの前後のケア（P25-1～P25-6）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：金石 圭祐（JCHO東京新宿メディカルセンター 緩和ケア内科）

P25-1　急性期病院内科病棟看護師における臨床経験年数とターミナルケア態度の関係
山本 若奈（伊勢崎市民病院 看護部）

P25-2　終末期がん患者の家族に対する患者自己紹介シート（This is Me!シート）介入の効果および実現可能性の検証―単施設予備的試験
羽多野 裕（第二協立病院 緩和ケア科、JORTC 臨床研究部門）

P25-3　デスカンファレンスを通して医療者のグリーフケアに繋がった事例
田中 由佳梨（社会医療法人同仁会 耳原総合病院 緩和ケア病棟）

P25-4　当院の呼吸器内科領域における疾患毎の看取りの特徴
志津 匡人（岐阜県立多治見病院 呼吸器内科）

P25-5　「看取りが近づいたときのケア」テンプレートの運用状況の報告と今後の課題
山下 貴郁（筑波大学附属病院 看護部 緩和ケアセンター）

P25-6　急性期一般病院における看取りケアに関する問題点と取り組む課題
尾形 良子（行徳総合病院）

苦痛緩和のための鎮静（P26-1～P26-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：小池 和彦（社会医療法人 札幌清田病院 緩和支持医療センター 緩和ケア内科）

P26-1　院内終末期鎮静マニュアル作成後に終末期鎮静を行った3例
浦川 雅己（深谷赤十字病院 緩和ケア外科）

P26-2　当院緩和ケア病棟における緩和的鎮静の実施状況
小池 和彦（社会医療法人 札幌清田病院 緩和支持医療センター 緩和ケア内科）

P26-3　特定機能病院における終末期の苦痛緩和のための鎮静の実態調査
上野 祐介（香川大学 医学部 附属病院）

P26-4　終末期における苦痛緩和のための鎮静開始前に多職種で話し合うためのプロトコール作成
上野 祐介（香川大学 医学部 附属病院）

P26-5　当院緩和ケア病棟における鎮静実施状況の推移
石川 ゆりか（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

P26-6　持続的鎮静の意思決定プロセスに関する検討
内藤 明美（宮崎市郡医師会病院 緩和ケア科）

P26-7　当院緩和ケア病棟における鎮静に関する調査報告と考察
堀内 伊織（社会医療法人 貞仁会 新札幌ひばりが丘病院）

P26-8　緩和ケアチームによる鎮静前カンファレンスの取り組み
敦賀 健吉（北海道大学病院 腫瘍センター 緩和ケアチーム、北海道大学病院 麻酔科）

P26-9　緩和ケア病棟で、事前の面談で話し合ったの本人の意向を反映し、家族との話し合いで深い鎮静に切り替えた痙攣コントロール不良の1例
宮脇 弘樹（神戸大山病院）

P26-10　「入院は絶対嫌。だから家で寝かせて」～早期からの持続的深い鎮静を希望したケースの振り返り～
中村 明澄（医療法人社団澄乃会 向日葵クリニック）

ホスピス・緩和ケア病棟1（P27-1～P27-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：江藤 美和子（ベルランド総合病院 外来　緩和ケアチーム）

P27-1　緩和ケア病棟に入棟しながら緩和的放射線治療を行った症例の検討
沼澤 理絵（社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 麻酔科、札幌北楡病院 緩和ケアチーム）

P27-2　緩和ケア病棟新規開設後3年9ヶ月における緊急入院症例の検討
栗崎 功己（社会医療法人抱生会 丸の内病院）

P27-3　緩和ケア病棟看護師におけるSTAS-Jの認識とその活用の困難さ
髙塚 恵民（日本赤十字社 高槻赤十字病院 緩和ケア病棟）

P27-4　当院緩和ケア病棟における口腔管理の現状
千葉 高大（公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院 口腔管理センター・歯科）

P27-5　悪性中皮腫患者の積極的治療終了後の予後及び終末期の臨床像
千住 博明（特定医療法人 雄博会 千住病院 緩和ケア科）

P27-6　終末期がん患者のオピオイド・ベンゾジアゼピン系薬剤不適切使用に介入を行った1例
西原 桜子（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 緩和ケア内科）

P27-7　包括的QOL尺度CoQoLoが「歩きたい」という希望に基づいた理学療法によって改善した終末期膵がんの一例
山口 愛（医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション部）

P27-8　2つ緩和ケア病棟で3回の入院と通院で過ごされた前立腺癌の1例=法事執行という最後の願いに応えて病棟で施行、常に患者の希望を支えるということ=
佐藤 健（成田記念病院 緩和ケア外科）

P27-9　緩和ケア病棟入棟を拒否する進行がん患者における複雑性の探索的研究
大北 淳也（小牧市民病院 緩和ケア科）

P27-10　急性期充実体制加算の届出を目指す急性期病院で緩和ケア病棟は生き残れるのか?～届出に向けて緩和ケア病棟を一般病棟に区分変更した施設からの報告～
阿部 克哉（（株）日立製作所日立総合病院緩和ケア科）

ホスピス・緩和ケア病棟2（P28-1～P28-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：村上 寛子（京都桂病院 緩和ケア科）

P28-1　緩和ケア病棟における末梢挿入型中心静脈カテーテル挿入の安全性と有効性に関する後方視的検討
村上 寛子（京都桂病院 緩和ケア科）

P28-2　緩和ケア病棟における臓器提供の課題に関する質的分析
羽賀 大貴（京都桂病院 緩和ケア科）

P28-3　当院緩和ケア病棟入院患者に対する歯科的介入の現状と課題
本田 真子（岐阜県立 多治見病院 歯科口腔外科）

P28-4　大学病院の緩和ケア病棟において看護師がエンパワメントしながら学びを深めた取り組み
岩倉 俊子（東京医科歯科大学病院 緩和ケア病棟）

P28-5　緩和ケア病棟の夜間休日の予定外入院に対する医療スタッフの困難感と課題
富塚 真理子（医療法人徳洲会 千葉徳洲会病院）

P28-6　CES-P評価尺度を用いた調査中間報告―緩和ケアの質の向上・患者の満足度を高める取り組み―
植田 実樹（医療法人財団医道会 稲荷山武田病院）

P28-7　医師による良い死の評価と遺族による良い死の評価の関連
太田 菜々子（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）

P28-8　緩和ケア病棟で働く看護師のロールモデル行動
河原 七絵（東京衛生アドベンチスト病院）

P28-9　緩和ケア病棟における、せん妄有症率の検討
鈴木 誉也（北海道がんセンター 緩和ケア内科）

P28-10　COVID-19状況下で、感染対策と患者の希望実現で緩和ケア病棟スタッフが葛藤した一例
梅村 恵里香（東京都健康長寿医療センター 緩和ケア内科）

ホスピス・緩和ケア病棟3（P29-1～P29-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：嶽小原 恵（淀川キリスト教病院 薬剤部）

P29-1　コロナ禍における緩和ケア病棟の開設その工夫と課題について
平田 敦子（東京品川病院）

P29-2　2次医療圏における緩和ケア病床不足の解消に向けた緩和ケア病棟の開設からの1年
棚田 大輔（阪南中央病院 緩和医療科）

P29-3　コロナが明けて初めての追悼会開催報告
濵田 智博（兵庫県立丹波医療センター、緩和ケア病棟、看護部）

P29-4　緩和ケア病棟看護師を対象としたケアカンファレンス実施前後の意識変化の調査
永田 しのぶ（宝塚市立病院 緩和ケア病棟）

P29-5　緩和ケア病棟看護師が考える看護の質の維持・向上へ向けた取り組み～コロナ禍を経て～
小山 千恵（宝塚市立病院 緩和ケア病棟）

P29-6　緩和ケア病棟看護師へのSPACE-N 3ステップラダーを用いた取り組み
岡山 幸子（宝塚市立病院 緩和ケア病棟）

P29-7　COVID-19禍における面会制限下で終末期患者にVirtual Reality（VR）を用いた研究を行なった医療者の体験
三栖 阿紀子（和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科 博士前期課程）

P29-8　「今、幸せ」と語った終末期がん患者との関わりの一例
西村 知子（市立ひらかた病院 精神科）

P29-9　急性期病院に新設された緩和ケア病棟における超高齢者がん患者の検討
金澤 裕信（一宮西病院 緩和ケア内科）

P29-10　当院の緩和ケア病棟における主治医制度の検討
中山 啓（高岡市民病院 緩和ケア内科）

ホスピス・緩和ケア病棟4（P30-1～P30-10）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：萬谷 摩美子（医療法人愛和会　愛和病院 薬剤部）

P30-1　緩和ケア病棟を持たない、がん診療連携拠点病院における緩和ケア病床
任 幹夫（独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院 緩和ケア科、
独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院 緩和ケアセンター）

P30-2　緩和ケア病棟開設実態報告
上島 成也（国立病院機構大阪南医療センター）

P30-3　緩和ケア病棟の自宅退院に繋がった要因～退院支援における事例を振り返って～
畑中 えり子（盛岡赤十字病院 看護部 緩和ケア病棟）

P30-4　緩和ケア病棟における転倒リスク評価の経時的変化と転倒との関連
深松 伸明（岡山赤十字病院 緩和ケア科）

P30-5　新型コロナウィルス感染症流行下の緩和ケア病棟の面会制限をふりかえる～ 一度も面会禁止としなかった当院の取り組みについて ～
福田 陽子（東京衛生アドベンチスト病院）

P30-6　がん薬物療法終了から緩和ケア病棟入院までの期間と入院期間についての考察～単一施設後方視的研究
寺林 徹（日本バプテスト病院 ホスピス）

P30-7　緩和ケア病棟閉鎖を経験した中での患者支援とスタッフケアのための取り組みについて―有事に備える病棟運営・チーム活動の検討-
田中 梨美子（霧島市立医師会医療センター 臨床心理室）

P30-8　面会制限解除が緩和ケア病棟に与える影響の考察～面会解除前後のデータから分かること～
光永 祐子（総合病院 山口赤十字病院）

P30-9　緩和ケア病棟でのせん妄発症因子の解析
岡脇 誠（川崎医科大学 臨床腫瘍学）

P30-10　コロナ禍による緩和ケア病棟入院患者への影響
小西 治子（日本赤十字社医療センター 緩和ケア科）

制度設計・政策・費用対効果、卒前教育（P31-1～P31-6）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：山口 拓洋（東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野）

P31-1　熊本県下のがん診療連携拠点病院における「がん相談支援センター」周知に向けた取組の情報収集
永原 真紀（熊本大学病院 熊本県がん連携サポートセンター）

P31-2　熊本県のがん相談支援体制整備を目指す熊本県がん連携サポートセンター
永原 真紀（熊本大学病院 熊本県がん連携サポートセンター）

P31-3　予後の伝え方に関する解剖実習前の医学生の考え：「終末期の話し合い」に関する医学生の準備性についてのアンケート調査
山木 照子（滋賀医科大学 医学部）

P31-4　医学生と「生と死」を考える実習報告書の作成
山田 圭輔（金沢大学 附属病院 麻酔科蘇生科）

P31-5　「医学科6年生に対する緩和医療科臨床実習での教育実践報告～疼痛と睡眠障害を課題とした医療面接実習～」
掛田 恭子（高知大学医学部附属病院 緩和医療科）

P31-6　看護学生が捉える緩和ケアの特徴からみた看護基礎教育における課題-看護学生を対象とした緩和ケア教育に関する文献検討を通して-
角田 知穂（帝京科学大学 医療科学部 看護学科）

市民・患者への啓発（P32-1～P32-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：宮下 光令（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野 ）

P32-1　自分の価値観について話し合うワークを取り入れたがん教育の経験
廣野 正法（伊勢崎市民病院 緩和ケア内科）

P32-2　ACPガイド冊子の地域住民への普及を目指した教育介入の効果
濱吉 美穂（佛教大学 保健医療技術学部 看護学科）

P32-3　市民を対象とした「人生会議」を勧めるワークショップ（WS）とその評価
辻川 真弓（鈴鹿医療科学大学 看護学部）

P32-4　健康行動の変容につながる若い世代にむけたがん教育の試み：グラフィックレコーディングを取り入れたワークショップの活用
伊藤 結貴（秋田大学 医学部 附属病院 看護部）

P32-5　医療用麻薬使用への抵抗感や誤解に関する研究
名越 恵美（岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科）

P32-6　がん診療連携拠点病院ホームページ上における心理職の情報記載に関する実態調査
中川 大和（群馬県立がんセンター がん相談支援センター 相談支援課）

P32-7　横浜市ACP 人材育成研修の報告～2022年度研修修了者アンケートを中心に～
日下部 明彦（横浜市立大学 医学部医学科 総合診療医学）

P32-8　食道癌患者会における緩和ケア医の活動報告
鈴木 友宜（草加市立病院 緩和ケア科）

P32-9　医療従事者が行うがん教育～子供たちにも正しい知識を～
岩山 友紀（公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院）

P32-10　地域住民を対象としたACP普及への活動報告
西田 美保（一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院 緩和ケアチーム）

P32-11　市民と共に看取りを考える〈暮らしの中の看取り〉準備講座の10年を振り返って
大井 裕子（小金井ファミリークリニック 在宅診療部、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック、NPO法人くみサポ）

その他の教育・啓発・研究1（P33-1～P33-12）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：井谷 嘉男（八尾市立病院）

P33-1　がん患者の看護介入に関するCochran Reviewの結論性：A Systematic Analysis
小林 成光（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）

P33-2　「熊本県緩和ケア従事心理職ネットワーク」における活動について
一美 奈緒子（国立大学法人 熊本大学病院）

P33-3　家族看護に関するCochran Reviewの結論性：A Meta-research Study
伊東 由康（兵庫県立大学 看護学部）

P33-4　がんサバイバーにおけるHealth Related Quality of Lifeと酸化ストレスに対するお笑いの有効性
阪本 亮（堺市立総合医療センター 心療内科、堺市立総合医療センター 緩和ケア科）

P33-5　ピアサポーターを対象としたがん教育外部講師養成研修の報告
大野 裕美（名古屋市立大学大学院 医学研究科 血液腫瘍内科学）

P33-6　オンライン研修による人生会議（ACP）普及活動の実践 ～縁起でもない話をしよう会@東大阪～
山本 直美（若草第一病院 看護部）

P33-7　A施設主催のELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム受講者のフォローアップ研修からみえたこと-実践報告と研修修了後のアンケートより-
松本 礼子（総合病院 聖隷浜松病院）

P33-8　離島における緩和ケアの普及と医療者の緩和ケアスキル向上を目指した、徳之島と緩和ケアアウトリーチプロジェクトの協働
田畑 幸利（徳之島徳洲会病院 訪問看護事業所）

P33-9　当院における医療用麻薬に関する人為的ミスの事例検証
藤崎 佳那子（社会保険 田川病院）

P33-10　がん疼痛治療における入院患者のレスキュー薬自己管理に関する看護師の意識調査
深野 恵利子（恩賜財団済生会横浜市南部病院）

P33-11　国立がん研究センターにおける「地域緩和ケアネットワーク構築」のための取り組み
佐藤 綾子（国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部）

P33-12　地域のがん診療連携拠点病院におけるACP実装のための方策は、
井谷 嘉男（八尾市立病院）

その他の教育・啓発・研究2（P34-1～P34-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：金子 健（慶應義塾大学病院　薬剤部・緩和ケアセンター ）

P34-1　当院の医師を対象とした治療抵抗性の苦痛に対する持続的鎮静についての実態調査
中村 俊彦（公立学校共済組合 九州中央病院 緩和ケア科）

P34-2　支部学術大会の省コスト化・参加者増に向けた取り組み～日本緩和医療学会第5回関西支部学術大会の経験から
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所、水谷クリニック）

P34-3　当院の緩和ケア勉強会・緩和ケア地域連携カンファレンスの取り組み
長岡 広香（がん・感染症センター 都立駒込病院 緩和ケア科、
がん・感染症センター 都立駒込病院 緩和ケアセンター）

P34-4　終末期および緩和ケアにおけるマインドフルネス研究の現状と活用可能性
中木 里実（姫路大学 看護学部）

P34-5　香川大学医学部附属病院緩和ケアセンターにおけるJICA委託事業全インド医科大学人材育成研修の報告―離島診療見学を含む研修プログラム
村上 あきつ（香川大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、香川大学医学部附属病院 腫瘍内科）

P34-6　ACP情報提供ツールの活用に関する医療従事者の実態調査-第2版-
仁井山 由香（地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 看護部）

P34-7　ACPに関する医療従事者の意識調査と活動効果の報告-第1版-
斉藤 志織（地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 看護部）

P34-8　キャリアパス等に関連したオンライン個別相談の取り組み
橋本 孝太郎（医療法人社団爽秋会 ふくしま在宅緩和ケアクリニック）

P34-9　緩和ケア介入患者の管理システムの作成
嶺井 渉（沖縄協同病院）

P34-10　取り下げ

P34-11　熊本県がん連携サポートセンターの活動報告 ～がんピアサポーター活動支援～
永原 真紀（熊本大学病院 熊本県がん連携サポートセンター）

アドバンス・ケア・プランニング、意思決定1（P35-1～P35-12）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：志村 みゆき（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）

P35-1　アドバンス・ケア・プランニング普及を目指した取り組み～全職員へのアドバンス・ケア・プランニングの実施～
白﨑 麻純（公益社団法人地域医療振興協会 公立丹南病院）

P35-2　在宅医療において患者・家族とのコミュニケーションがうまくいかなかった事例を振り返って
香西 友佳（むすび在宅クリニック）

P35-3　看護師のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に対する実践と課題
佐々木 牧子（高知大学医学部附属病院 緩和ケアチーム、高知大学医学部附属病院 看護部）

P35-4　もしもの時のことを考えたくない人生最終段階へ向かうがん患者のACP支援
角田 真由美（東京慈恵会医科大学 附属第三病院）

P35-5　病院と地域の医療・介護・福祉スタッフを対象としたACPを育む研修会の取り組み
角田 真由美（東京慈恵会医科大学 附属第三病院 看護部）

P35-6　終末期に向かって繰り返してACPを行った患者における価値観・希望の変化
志村 みゆき（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）

P35-7　ACP支援において明らかになった患者の価値観・希望：一般病棟・外来と緩和ケア病棟との相違
高間 紀子（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）

P35-8　緩和ケアリンクナース会におけるアドバンス・ケア・プランニングの取り組み
中川 みどり（公立大学法人 福島県立医科大学会津医療センター附属病院）

P35-9　取り下げ

P35-10　当院におけるアドバンス・ケア・プランニングワーキンググループ活動報告
米村 智子（松江市立病院）

P35-11　アドバンス・ケア・プランニングからより良く生きるための意思決定支援につながった事例の一考察
大和 英子（徳島市民病院 看護部）

P35-12　高齢がん患者の治療選択に関する意思決定支援における外来看護師の看護介入 アンケート調査
加藤 紀香（公益財団法人 がん研究会有明病院）

アドバンス・ケア・プランニング、意思決定2（P36-1～P36-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：笹原 朋代（ファミリー・ホスピス株式会社 品質管理部）

P36-1　後期高齢患者のがん告知後、治療選択に至るまでの患者の真意を明らかにし意思決定支援について考察する
市川 めぐみ（長崎県島原病院 緩和ケアチーム）

P36-2　我が国における人生の最終段階の医療やケアに関する話し合いの実施状況と、話し合い実施に関連する要因-国民意識調査データ分析より-
羽成 恭子（筑波大学 ヘルスサービス開発研究センター、日野原記念ピースハウス病院 診療部）

P36-3　オンラインセカンドオピニオンにおける心理士の役割について
川端 悠子（谷野メディカルアソシエイツ）

P36-4　AYA世代発症のHBOC患者におけるがん生殖医療の課題
小林 弥生子（長野市民病院 婦人科）

P36-5　急性期外科病棟におけるがん予定手術患者に対するACPの取り組み
田口 泰郎（半田市立半田病院 外科、半田市立半田病院 緩和ケアチーム）

P36-6　人工透析中の終末期上行結腸癌患者における、透析中止の意思決定過程についての報告と考察
加藤 薫（かとう内科並木通り診療所）

P36-7　A病院外来看護師によるがん患者へのアドバンス・ケア・プランニングの現状
吉田 ひろみ（神戸市立医療センター西市民病院 看護部）

P36-8　Three-talkモデルを通した集中治療領域における共同意思決定の振り返り
桒畑 昌弥（京都府立医科大学付属病院 看護部）

P36-9　緩和的放射線治療を選択・実施し、QOL改善が得られ自宅退院に至った進行甲状腺癌患者の1例 ～人生の最終段階にある患者・家族へのACP支援の意義～
疋田 督子（水戸済生会総合病院 緩和ケア病棟）

P36-10　終末期のがん患者の尊厳を最期まで守ることができた一例～意思決定が困難になった時、最期まで患者の尊厳を守るには～
長谷川 記三子（株式会社Style 訪問看護ステーションStyle）

P36-11　進行がん患者と「今後のやりたいこと」について話し合うことを困難にする要因～看護師の認識に焦点をあてた質的研究～
宮良 香帆（名桜大学 大学院 看護学研究科博士前期課程）

アドバンス・ケア・プランニング、意思決定3（P37-1～P37-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：小山 富美子（近畿大学看護学部設置準備室 ）

P37-1　救命救急センターを有する急性期病院におけるAdvance Care Planningの意識調査から見えてくること
吉澤 和大（横浜市立みなと赤十字病院 救命救急センター）

P37-2　急性期病院でどのようにACPを始めるか～患者家族の気持ちを尊重した意思決定支援をより円滑に行うために当院で取り組んでいること～
松山 純子（健和会大手町病院 外科）

P37-3　「私はここで最期を迎えたい」急性期病院で本人の意思を尊重するための課題 -ACPシートを用いて-
仲間 有希（市立敦賀病院 緩和ケアチーム）

P37-4　支援者向け意思決定支援ガイドの評価：妊娠期に子どもの生命を脅かす病態を診断された女性・家族の「子どもとの過ごしかた」
千葉 真希（武庫川女子大学 看護学部 看護学科）

P37-5　一般市民のアドバンス・ケア・プランニングに関する認識および実施状況と今後の支援に向けての課題―A病院で開催した健康講座のアンケート結果から―
杉江 礼子（市立大津市実病院 患者相談支援室）

P37-6　ACP（アドバンスケアプランニング）普及活動の取り組みと課題
川 二美（医療法人社団 いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケアチーム）

P37-7　脳神経疾患のため意思疎通困難である患者の終末期ケアについての意思決定支援を多職種連携で対応した一例
石田 享相（市立豊中病院 産婦人科）

P37-8　心肺機能停止（以下CPA）で救急搬送されたがん終末期患者からみえるA病院の意思決定支援の現状と課題
佐藤 梓（三沢市立三沢病院）

P37-9　A病院緩和ケア初診面談にPSOから2で紹介された患者の緩和ケア期移行の理由に関する検討
ウォン 政代（大阪労災病院 緩和ケア科）

P37-10　がん患者と家族への外来看護における在宅療養支援のプロセス
筒井 曜子（富山市立富山市民病院）

P37-11　急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニングに関する認知と実践状況調査
赤羽 日出男（日本医科大学武蔵小杉病院）

アドバンス・ケア・プランニング、意思決定4（P38-1～P38-11）

6月14日（金）15:00-16:00
ポスター会場

座長：小杉 俊介（飯塚病院 総合診療科）

P38-1　がん患者の透析の中止の意思決定支援とは～壮年期で耐え難いがん性疼痛から透析中止を決断した男性患者の事例報告～
真上 美千子（公益社団法人鹿児島共済会 南風病院）

P38-2　当院におけるアドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援の導入に向けた活動
浅野 あさみ（地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター）

P38-3　造血器悪性腫瘍患者の意向に基づいた質問促進リスト（Questions Prompt List for Patients with Hematological Malignancies; QPL-HM）の開発
白井 由紀（京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）

P38-4　ACP（advance care planning）の実践により児の希望に寄り添えた終末期小児がん患者を経験して
郷古 康愛（日本大学医学部附属板橋病院 小児科）

P38-5　消化管穿孔を発症した終末期がん患者の5例ー手術を実施するか否かに関する意思決定のプロセス
松本 朝子（大腸肛門病センター 高野病院 緩和ケア科）

P38-6　A氏への退院支援は正しかったか ～もしバナカードを使った意向確認～
吉田 綾子（市立千歳市民病院）

P38-7　判断能力のないICU重症患者の治療方針に臨床倫理コンサルテーションチームを含めた多職種で対応した1例
長田 大雅（慶應義塾大学 医学部 麻酔学教室）

P38-8　Jonsenの4分割表を用いた多職種によるカンファレンスの一例～救急病棟における意思決定支援の関わり～
八木 菜々美（静岡県藤枝市立総合病院）

P38-9　真のACPとは何か-在宅緩和ケアでサービス導入を望まないがん患者・家族の事例-
長瀬 亜岐（おひさまクリニック西宮）

P38-10　人生最終段階の医療・ケアとACPに関する大学生の意識調査
坂井 さゆり（新潟大学 大学院保健学研究科）

P38-11　オンラインACP啓発活動の一般市民への影響
アナグノストウ デスピナ（京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻）

痛みの評価・診断（P39-1～P39-11）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：福田 陽子（慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター）

P39-1　疼痛緩和に難渋した十二指腸乳頭部がん肝転移の1例
吉野 和穂（小田原市立病院 緩和ケア科）

P39-2　上大静脈症候群を発症している右肺癌の腫瘍内出血による腫瘍サイズの増大により、換気障害と腕神経叢の神経障害性疼痛の急性増悪が同時期に生じた一例
藤田 靖明（豊橋市民病院 麻酔科）

P39-3　疼痛コントロール目的で介入し、非がん性疼痛を疑い理学療法にて軽快した肺がん患者の1例
清水 雅子（独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院 緩和ケア・ペインクリニック科）

P39-4　腕時計型ウェアラブルデバイスを用いた自動疼痛検出機械学習モデルの開発：健常女性の月経痛を対象とした予備的研究
平山 英幸（東北大学大学院 医学系研究科 緩和ケア看護学分野）

P39-5　IPOSを用いた入院患者の疾患別苦痛比較
西澤 昭彦（加古川中央市民病院 緩和ケアセンター）

P39-6　骨転移における血清LDH・ALP値と骨転移痛の関連について
寺本 晃治（滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍内科、滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍センター）

P39-7　頭頸部アルミノックス治療後に疼痛が遷延した2症例
山本 知美（山口県立総合医療センター 看護部）

P39-8　大後頭神経三叉神経症候群を呈した食道癌頸部リンパ節転移の一症例
松尾 佳那子（京都府立医科大学附属病院 疼痛・緩和ケア科）

P39-9　新たに坐骨神経痛を生じた悪性腫瘍患者の2例
中村 久美子（山口県立総合医療センター 麻酔科）

P39-10　疼痛評価シートの学習会が緩和ケア病棟看護師にもたらす効果
大井 怜奈（高岡市民病院 看護部 看護科）

P39-11　ケミカルコーピングが疑われた肺癌終末期患者の一例
坂元 佑哉（医療法人青仁会 池田病院）

オピオイド以外の薬物療法1（P40-1～P40-7）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：廣瀬 宗孝（兵庫医科大学病院 緩和ケアセンター）

P40-1　疼痛コントロールが困難でスピリチュアルペイン表出に至ったが鎮痛補助薬にて症状緩和した一例
今野 俊和（医療法人 桜十字 桜十字病院）

P40-2　ミロガバリンにて著明な全身性浮腫を認めた一例
鈴木 梢（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

P40-3　乳がん局所再発に伴う難治性疼痛に対して患者の意向を尊重し通院で10年以上の長期に症状コントロールをしている一例
小山 佐知子（公益財団法人日本生命済生会日本生命病院 看護部）

P40-4　がん患者の脊髄神経障害による神経障害性疼痛に対してケタミンが奏功した2例
宮奈 穣（東京さくら病院 緩和ケア内科）

P40-5　コントロール困難な癌性髄膜炎による頭痛に対してケタミン持続投与が有用であった一例
日野 未来（日本生命病院 麻酔・緩和医療科、日本生命病院 緩和ケアチーム）

P40-6　肺腺がん治療中に視床転移を認め、視床痛を来した一例
丹波 和奈（京都府立医科大学 疼痛・緩和ケア科、京都岡本記念病院）

P40-7　腹膜播種由来の難治性疼痛に対しケタミンが有効であった1例
渡邉 暁史（医療法人社団淳友会わたクリニック）

オピオイド以外の薬物療法2 (P41-1～P41-8)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座 ）

P41-1　肺癌脊髄転移による難治性の下肢痛に対して，少量のミルタザピン投与が奏功した症例
峠 正義（富山県立中央病院 緩和ケア科）

P41-2　遺伝子パネル検査により推奨された免疫チェックポイント阻害剤を導入することにより疼痛コントロールが改善し長期生存が得られている胆嚢癌の一例
佐藤 到（上尾中央総合病院 腫瘍内科、城北病院 内科）

P41-3　排膿散及湯により炎症が軽快、疼痛の緩和につながった肛門管癌の1例
高久 秀哉（水戸済生会総合病院 緩和ケア内科、筑波技術大学 保健学部附属東西医学統合医療センター）

P41-4　誘因のない神経障害性の突出痛に対してラコサミドが有効であった頸髄腫瘍の1例
金島 正幸（静岡県立静岡がんセンター）

P41-5　ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の単施設後方視的観察研究
戸田 雄（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、
国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科）

P41-6　オピオイド抵抗性急性発症の重度疼痛に、ケタミンのボーラス投与及び持続投与が著効した2症例
久保田 敬乃（川崎市立井田病院 緩和ケア内科）

P41-7　癌性疼痛の鎮痛補助薬としてラコサミドを使用した2例
乾 友浩（徳島大学病院 がん診療連携センター）

P41-8　薬剤師による処方提案・緩和ケアチーム介入により疼痛緩和が得られた肛門痛の一症例
有馬 朱里（鹿児島県立大島病院）

インターベンショナルラジオロジー（痛み）、ペインクリニック・神経ブロック1 (P42-1～P42-7)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：廣田 一紀（福岡徳洲会病院 緩和ケア）

P42-1　内臓神経ブロック中に誤嚥性肺炎をきたした事例報告
佐藤 洋造（愛知県がんセンター 放射線診断・IVR部）

P42-2　排尿障害を伴った直腸がん再発による旧肛門部痛に神経ブロック施行を熟慮した1症例
小島 康裕（JA愛知厚生連豊田厚生病院 ペインクリニック外科）

P42-3　乳がん術後腋窩リンパ節再発による上肢痛に対して頸椎くも膜下鎮痛法を施行した一症例
塩飽 尭之（西宮市立中央病院 麻酔科・ペインクリニック科）

P42-4　悪性会陰部痛に対するくも膜下フェノールブロック導入と適応の限界
加藤 隆文（東京都立荏原病院）

P42-5　難治性がん性痛に対する持続脊髄くも膜下鎮痛法がQOLの向上に寄与した1症例
横山 亜紀子（JA神奈川県厚生連相模原協同病院 看護部）

P42-6　仙骨転移によるがん疼痛に対し持続硬膜外鎮痛法を用いて放射線治療が完遂でき、メサドン追加で硬膜外鎮痛法終了後も良好な鎮痛を得られた一例
酢谷 俊介（東京ベイ・浦安市川医療センター 総合内科）

P42-7　乳がん術後再発による上肢の痛みに，エコーガイド腕神経叢パルス高周波法と星状神経節ブロックの併用が有効であった2症例
丸内 貴子（福岡リハビリテーション病院 麻酔科、福岡徳洲会病院 緩和ケア）

ペインクリニック・神経ブロック2
(P43-1～P43-8)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：大西 佳子（京都市立病院 ）

P43-1　皮下植え込みくも膜ポートを用いた鎮痛法による強力な鎮痛とオピオイド副作用の開放からがん治療を再開できた症例
荒 将智（北里大学 医学部 麻酔科学教室）

P43-2　子宮頸がんに対する密封小線源治療に伴う痛みのために治療困難であったが、仙骨硬膜外ブロックとparacervical blockの併用により治療可能であった症例
石井 浩二（長崎大学病院 麻酔科、長崎大学病院 緩和ケアセンター）

P43-3　仙骨硬膜外エタノール注入法により、臀部痛が軽快しオピオイドを減量できた転移性子宮癌の1例
野田 美弥子（鹿児島大学病院 緩和ケアセンター）

P43-4　坐位維持が困難な難治性肛門部痛に対してインターベンショナル痛み治療を組み合わせることでADLが向上した2症例
奥谷 博愛（兵庫医科大学 麻酔科学・疼痛制御科学講座）

P43-5　周術期に硬膜外麻酔を併用することにより上下腹神経叢ブロックの適応を判断し、良好な疼痛管理を行うことができた1例
田村 純子（市立池田病院 麻酔科・ペインクリニック）

P43-6　脊髄鎮痛法により疼痛緩和を行えた事例から考える今後の課題
上川 亜矢（医療法人 徳洲会 宇和島徳洲会病院）

P43-7　神経ブロック施行直後に傾眠傾向となりオピオイドを減量中止とした下顎歯肉癌の1例
濵田 琴巳（霧島市立医師会医療センター 緩和ケア内科）

P43-8　難治性がん疼痛緩和治療の地域連携 ～くも膜下ポート増設患者の在宅調整からみえた課題～
森 直美（医療生協さいたま 埼玉協同病院）

その他の痛みに関するもの
(P44-1～P44-11)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：伊勢 雄也（日本医科大学付属病院 薬剤部）

P44-1　骨転移と非骨転移に対する疼痛緩和照射の比較
小出 雄太郎（愛知県がんセンター 放射線治療部）

P44-2　がん患者に合併した非がん疼痛の診療とその課題
清水 瑠衣（医療法人沖縄徳洲会 千葉西総合病院）

P44-3　麻薬の自己管理基準作成後の運用評価
小田原 めぐみ（JA尾道総合病院 緩和ケアセンター、JA尾道総合病院 看護科）

P44-4　リハビリテーションで症状が軽減した低位前方切除後症候群の一例
森田 真理（横須賀共済病院緩和ケア内科）

P44-5　緩和ケア病棟入院中の患者における緩和的放射線治療の安全性と有効性に関する後方視的検討
大棟 有紀（京都桂病院 緩和ケア科）

P44-6　緩和ケアチーム介入症例における有痛性骨転移緩和照射の後方視的検討
松井 孝至（市立青梅総合医療センター 疼痛緩和内科）

P44-7　栃木県における医療用麻薬注射製剤調製方法における実態調査
藤村 昭太（栃木県緩和支持療法研究会世話人、自治医科大学附属病院 薬剤部）

P44-8　訪問看護師が行う「がん患者の痛み」のアセスメントと支援 ～参与観察とインタビューから～
伊藤 紗弥香（長野県看護大学大学院 発達看護学 成人看護学分野、信州大学医学部附属病院）

P44-9　肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセドを含む化学療法中にRS3PE症候群を疑わせるリウマチ様の多関節症状を合併したがん慢性疼痛の1例
笹良 剛史（友愛会豊見城中央病院 全人的痛みセンター 緩和ケア内科・麻酔科、友愛会友愛医療センター、
友愛会豊見城中央病院 緩和ケア病棟）

P44-10　乳房切除後疼痛症候群の肩関節可動域制限に対するトリガーポイント注射の有効性に関する検討
川崎 成章（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P44-11　インターネットを用いた専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステムChallenge-CanPainについて
西村 瑠美（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

リンパ浮腫・浮腫・皮膚症状（P45-1～P45-10）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：片山 英樹（岡山大学病院 緩和支持医療科）

P45-1　胃癌患者の全身性浮腫に対し生体電気インピーダンス法を用いて浮腫および浮腫ケアの評価を試みた1症例
久永 みゆき（藤田医科大学岡崎医療センター）

P45-2　肝転移による下大静脈狭窄のある難治性浮腫6例の検討
齊藤 英一（新生病院）

P45-3　癌性皮膚潰瘍に対する無水エタノールガーゼ圧着療法という選択肢の提示
月江 教昭（那珂川病院 緩和ケア内科、二日市那珂川病院 緩和ケア内科）

P45-4　緩和ケア病棟における終末期がん患者の入院時褥瘡を有した症例の検討
千住 千佳子（千住病院 形成外科、千住病院 緩和ケア科）

P45-5　静脈うっ滞性皮膚潰瘍に紫雲膏が効果を認めた症例
遠藤 光史（東京医科大学病院 緩和医療部、メディケアクリニック石神井公園）

P45-6　緩和ケア病棟における褥瘡と血清亜鉛値の検討
山田 泰史（愛和病院）

P45-7　リンパ浮腫外来開設10年の総括
山﨑 有香里（市立福知山市民病院 看護部）

P45-8　癌終末期の重度褥瘡感染に対して壊死組織切除を施行した一例
桑田 知幸（医療法人社団 城東桐和会 東京さくら病院、タムス総合クリニック新小岩駅前）

P45-9　終末期乳癌皮膚転移のがん性創傷に対して、ポリヘキサニド含有創傷製品の使用経験
山﨑 圭一（ベルランド総合病院 緩和ケア科）

P45-10　神経線維腫症に合併した悪性末梢神経鞘腫瘍に対して皮膚症状を含めた症状緩和を行った一例
濱崎 慎平（飯塚病院 緩和ケア科）

感染症、貧血・出血・血栓症・血液学的問題、オンコロジーエマージェンシー（P46-1～P46-7）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支持治療科）

P46-1　終末期がん患者における予後予測と抗菌薬の効果との関連性についての検討
石田 聡子（特定医療法人 雄博会 千住病院 緩和ケア科）

P46-2　腸膀胱瘻によるUTIのコントロールに、持続的低用量ST合剤が奏功した一例
古谷 実（古谷麻酔科クリニック）

P46-3　緩和ケア病棟における血液培養検査の実施状況
川村 泰一（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

P46-4　当院のがん患者における深部静脈血栓症誘因因子の検討
竹内 瑞枝（東京女子医科大学病院 化学療法緩和ケア科）

P46-5　在宅医療での終末期がん患者における在宅赤血球輸血の有効性と安全性
宮下 直洋（HOME CARE CLINIC N-CONCEPT、NPO血液在宅ねっと）

P46-6　心嚢ドレナージを続行しながら在宅療養に移行し、がん性心膜炎にともなう心不全症状を緩和し続けることができた1例
曽和 晃正（医療法人 南労会 紀和病院 疼痛緩和内科）

P46-7　肺炎と同時発症した癌性リンパ管症に対して多職種連携を図りながら緊急的化学療法をおこなうことで救命できた乳癌症例
武知 浩和（四国中央病院 乳腺科/緩和ケア科）

血液検査・画像検査、抗がん治療：化学内分泌療法（P47-1～P47-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：竹迫 秀和（鹿児島市立病院 薬剤部）

P47-1　がん終末期患者の予期しない死に対する死亡時画像診断（Ai）は有用か?
濱尾 巧（亀井病院 診療部）

P47-2　前立腺癌患者におけるMRIによる大腿骨近位部の骨評価について
川江 大一（順天堂大学大学院医学研究科 緩和医療学）

P47-3　アンドロゲン除去療法を受けた非転移性前立腺癌患者における既存椎体骨折とその重症度が全生存期間に及ぼす影響
後藤 果志亜（順天堂大学大学院医学研究科 緩和医療学）

P47-4　A病院におけるがん薬物療法関連のインシデントの傾向と要因分析
世利 佐知子（国家公務員共済組合連合会 千早病院）

P47-5　A病院化学療法室における看護実践上の困難感～現状調査と今後の課題～
飯田 祐子（綾部市立病院）

P47-6　緩和ケア病棟入院後に免疫チェックポイント阻害薬による治療効果が明らかになり化学療法を再開した肺腺癌の1例
勝又 千英子（永生会みなみ野病院 緩和医療科）

P47-7　重篤な肝不全を伴う再発乳癌に対して適切なShared Decision Makingをおこなった後選択した化学療法により良好な結果が得えられた1症例
山口 慧（埼玉医科大学 国際医療センター 乳腺腫瘍科）

P47-8　終末期として入院した悪性リンパ腫にステロイド単独療法を行った7例
谷山 朋彦（三菱京都病院 腫瘍内科・緩和ケア内科）

P47-9　がん悪液質と診断されたirAEを治療し抗がん剤治療を再開した一例
神野 菜月（済生会神奈川県病院 緩和ケア科）

抗がん治療：放射線治療、外科治療、抗がん治療：放射線治療（P48-1～P48-10）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：武井 大輔（埼玉県立がんセンター 薬剤部）

P48-1　放射線治療が苦痛症状改善に有効であった超高齢膀胱小細胞癌の2例
山下 大輔（国際親善総合病院 泌尿器科）

P48-2　「緩和的放射線治療スクリーニング」から見えてきた当院の課題
余田 栄作（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 放射線治療科）

P48-3　進行胃癌に対する緩和的放射線治療の有用性に関する検討
余田 栄作（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 放射線治療科）

P48-4　【超短期 放射線治療】QUAD SHOTを用いた、高齢終末期癌患者の在宅導入・施設入所
高橋 聡（自治医科大学 放射線治療科）

P48-5　多発性肝転移に対して緩和照射を実施した2例
青木 健（滋賀医科大学医学部附属病院 放射線科）

P48-6　当院緩和ケア科での悪性腫瘍に対する放射線治療の現状
萩原 信悟（友愛記念病院 緩和ケア科）

P48-7　当院における皮下埋め込み型CVポート造設術の短期および長期合併症とそのリスク因子について
谷口 嘉毅（八尾市立病院 消化器外科）

P48-8　悪性疾患による幽門狭窄に対する胃空腸バイパス術の検討
大平 正典（東京都済生会中央病院 一般・消化器外科）

P48-9　緩和手術と化学療法により長期奏功を得た腹膜播種再発症例
住本 秀敏（滋賀医科大学 医学部 附属病院 腫瘍内科、滋賀医科大学 医学部 附属病院 腫瘍センター、
滋賀医科大学 医学部 附属病院 緩和ケアセンター）

P48-10　日本における脳定位放射線治療の治療装置選択に及ぼす診療報酬の影響
小出 雄太郎（愛知県がんセンター 放射線治療部）

インターベンショナルラジオロジー（痛み以外）、その他の痛み以外の身体症状・治療1（P49-1～P49-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：清水 陽一（国立看護大学校 ）

P49-1　悪性下大静脈症候群に対して下大静脈ステントを留置した2例
平田 裕久（松原徳洲会病院 緩和ケアチーム）

P49-2　大静脈症候群に対する血管内ステント留置術における合併症回避のための工夫について
中村 一彦（鳥取県立中央病院 放射線科）

P49-3　終末期がん患者におけるフロセミド注の単回皮下投与の使用とその効果について～緩和ケア病棟における後ろ向き調査～
金石 圭祐（JCHO東京新宿メディカルセンター）

P49-4　新規ジクロフェナク経皮吸収型製剤によってがん疼痛の緩和に加えせん妄が改善した一例
水上 奈穂美（札幌医科大学 麻酔科学講座）

P49-5　緩和ケア病棟入院患者におけるレストレスネスに関する後方視的検討
池田 昌弘（がん研究会有明病院 緩和治療科）

P49-6　がん治療病院の緩和ケアチームが担当したがん患者におけるimmune-related adverse events（irAEs）：単施設後ろ向き観察研究
柳泉 亮太（横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科）

P49-7　がん治療中に急性腎障害をきたし，オピオイドが相対的過量となった3例
後藤 麻佑（東邦大学医療センター大森病院 消化器外科、東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター）

P49-8　在宅療養中に急激に腎機能障害が進行し，モルヒネ塩酸塩水和物が過量となり意識障害が生じた一例
椿 貴佳（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

P49-9　終末期がん患者の悪性腹水における腹水穿刺と腹水濾過濃縮再静注法（CART）の比較検討
西川 英里（筑波メディカルセンター病院）

その他の痛み以外の身体症状・治療2（P50-1～P50-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：宇井 睦人（緩和アカデミー、順天堂大学緩和医療学研究室）

P50-1　緩和ケア外来に通院しながら血液透析導入を行った一事例
川畑 恵（勤医協中央病院 緩和ケア科）

P50-2　悪性胸水ドレナージ後にEx Vacuo Pneumothoraxを発症し難治性気胸となったが、逆流防止弁付きドレナージバックの使用で在宅治療に移行できた膵癌、癌性胸膜炎の1例
岩田 真（三重県厚生連 松阪中央総合病院）

P50-3　緩和ケア領域における経鼻胃管症候群の事例報告と文献的考察
鈴木 尚樹（山形県立中央病院）

P50-4　頸動脈洞症候群による失神発作へ対し緩和照射が有効であった尿管がん頸部リンパ節転移の一症例
太田 久幸（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア内科）

P50-5　直腸癌イレウスで留置された自己拡張型金属ステントが、緩和ケア病棟入院中に自然逸脱したが、ステント再留置により経口摂取再開可能となった1例
鈴木 稔（朝倉医師会病院 緩和ケア科）

P50-6　陰茎壊死に合併した激痛に対し非オピオイド・フェンタニル・ケタミン・キシロカインを投与したが治療抵抗性であり陰茎切断術を要した腹膜透析中のカルシフィラキシスの一例
宇井 睦人（湘南鎌倉総合病院 総合診療科、順天堂大学 緩和医療学研究室）

P50-7　取り下げ

P50-8　骨転移を合併した進行がん患者に対して外来理学療法の継続により長期的にADLが維持された一症例
三浦 未里衣（筑波メディカルセンター病院 リハビリテーション療法科）

P50-9　高齢がん患者の栄養補助食品のみの摂取で巨大褥瘡が治癒した一例
安川 夏江（下関市立市民病院）

ボディイメージ・セクシュアリティ、スピリチュアルケア・宗教的ケア（P51-1～P51-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：稲田 修士（埼玉県立がんセンター ）

P51-1　思春期・若年成人世代のがん患者が治療による外見変化を経験してから社会生活への適応に至るまでのプロセス
吉原 凜佳（順天堂大学医学部附属浦安病院 メンタルクリニック）

P51-2　スピリチュアルケアに難渋した終末期がん患者への関わりのふり返り
上北 綾乃（阪南中央病院 緩和ケア病棟）

P51-3　スピリチュアル-カンファレンスシートを用いてケアの統一を図り子供達のために絵本制作を行った1症例～思い子供たちへ繋がれ～
松若 元子（川内市医師会訪問看護ステーション）

P51-4　副鼻腔がんの進行により「早く息子の所に行きたい」と表出したスピリチュアルペインを抱えた患者への一考察
阿部 優子（市立旭川病院 看護部 東7階病棟）

P51-5　西宮市立中央病院におけるDignity Therapyの取り組み
藤江 裕二郎（西宮市立中央病院 外科）

P51-6　緩和ケア病棟を有しない急性期病院の緩和ケアチーム・一般病棟看護師が協働して終末期がん患者の「動けない苦しみ」へ援助介入した一例
野澤 やよい（日本赤十字社 さいたま赤十字病院 看護部、日本赤十字社 さいたま赤十字病院 緩和ケアチーム）

P51-7　緩和ケア病棟を有さない病院における臨床宗教師の活動報告
石原 真（関西電力病院 緩和ケアチーム）

P51-8　多職種を対象とした看取り期のコミュニケーション研修会
小澤 竹俊（エンドオブライフ・ケア協会、めぐみ在宅クリニック）

P51-9　宗教的ケアとして、臨床宗教師が院内で患者親族の法要を行なった一例
大里 真之輔（一般財団法人 日伸会ビハーラ医療福祉機構 あそかビハーラ病院）

相談支援・がんカウンセリング、社会的・経済的問題・就労の問題（P52-1～P52-12）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：阪本 亮（堺市立総合医療センター ）

P52-1　SDM（共有意思決定支援）に難渋した一例 -結果が望めないにも関わらず治療の継続を希望し続けた患者・家族との関わりを通して-
池野 聡美（大阪府済生会富田林病院）

P52-2　「がん相談支援センター案内票」をもってがん相談支援センター来室した患者の実態把握
大木 純子（聖隷三方原病院 看護相談室）

P52-3　山形県民のがん相談支援センター認知度および情報媒体の実態
松田 芳美（やまがた健康推進機構山形県がん総合相談支援センター）

P52-4　地域で暮らすがんサバイバーと家族が気軽に専門家に相談したり当事者同士が語り合える居場所づくり
藤原 由佳（訪問看護ステーションあさんて・はな、Cancer Support神戸なごみの家）

P52-5　がん患者の社会的苦痛に焦点を当てた支援の現状と課題～「生活のしやすさに関する質問票」から見えたこと～
石井 芳（JA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院）

P52-6　死後事務決定とプロセスでの医療相談員の関わりの一事例
福森 星輔（社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院 緩和ケアチーム、
社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院 社会福祉士）

P52-7　がんサバイバーの治療と仕事の両立支援において社会保険労務士が医療従事者との連携を円滑に行うために必要と考える要因
杉谷 園（公立大学法人和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科、医療法人曙会和歌浦中央病院）

P52-8　大腸がん罹患者におけるSense of coherenceと就労状況との関連について
林 美貴子（東邦大学医療センタ 一大橋病院、平塚共済病院）

P52-9　身寄りのない高齢の中途失聴・難聴の重複がん患者の治療の意思決定支援に難渋した1例
野井 拡（箕面市立病院 泌尿器科、箕面市立病院 緩和ケアチーム）

P52-10　がんを経験した看護師の就労問題とメンタルヘルスについての報告
上原 弘美（社会医療法人友愛会 友愛医療センター 地域医療部、サバイバーナースの会「ぴあナース」）

P52-11　入院中のSNS利用が患児の心理面へ影響を及ぼすプロセス-小児慢性疾患患児に着目して-
加藤 恵（株式会社 琉球マインド こどもとかぞくのサポートルームKNOT）

P52-12　外来化学療法室での継続看護への取り組み
岸本 幸恵（昭和大学江東豊洲病院 外来化学療法室）

家族のケア・子どものケア1（P53-1～P53-10）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：武田 ヒサ（京都医療センター　緩和ケア病棟）

P53-1　がんになった親をもつ子どものためのオンラインサポートプログラム（CLIMB）の有効性に関する研究-子どもと親のプログラムへの評価に着目して-
柴田 麻美（福井県済生会病院）

P53-2　未成年の子供を抱えるがん患者に対する緩和ケアチームの活動の現状とその課題
千田 操（東京慈恵会医科大学附属柏病院 緩和ケアチーム、看護部）

P53-3　コロナ禍における面会援助サービス
笠原 俊典（稲荷山武田病院）

P53-4　社会的課題を多く抱える終末期がん患者とその子供のケアを通して
玉寄 やよい（社会医療法人 葦の会 オリブ山病院）

P53-5　成人がん患者の家族による介護と社会生活に関するスコーピングレビュー
舘 理江（日本福祉大学）

P53-6　大学病院の緩和ケアチームにおける家族ケアの範囲についての一考察
木村 恵（産業医科大学病院 緩和ケアセンター）

P53-7　予期悲嘆を表出する妻へ肺がん治療期から看取りまで認定看護師として関わった一症例
藤田 早紀（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 看護部 支持・緩和療法チーム）

P53-8　NICUにおける終末期に、家族としての時間を穏やかに過ごせた一例 -チャイルド・ライフ・スペシャリスト含む多職種でのかかわりからの考察
牧田 夏美（名古屋大学医学部附属病院 小児がん治療センター）

P53-9　母親の終末期を受け入れられない子供へ積極的介入を行なった乳癌患者の一例
黒田 貴子（聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科学）

P53-10　未成年の子供をもつがん患者の終末期ケアにおける医療者の困難感を減らす取り組み
木原 歩美（京都民医連あすかい病院）

ピアサポート・患者会・家族会、家族のケア・子どものケア2（P54-1～P54-8）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：梅田 節子（神戸市立医療センター中央市民病院）

P54-1　「見たい聞きたい話したい」の場「オンラインランチ会『おしゃべり庵』」の開催が目指す「人と人、社会とのつながりを感じるきっかけとなるコミュニティ」づくりに向けて
柴田 敦巨（株式会社michiteku 猫舌堂）

P54-2　「イイサジーカトラリー」が生み出す自分らしく生きられる世の中に向けて～ピアメイド（「同じ悩み・課題を抱える仲間たちによるデザイン」）にあふれる世の中を目指す～
柴田 敦巨（株式会社michiteku 猫舌堂）

P54-3　コロナ禍のがんサロンにがん体験者が求める支援
松本 智里（石川県立看護大学 看護学部）

P54-4　認知症終末期の家族ケアで感じた私のモヤモヤに対してネガティブ・ケイパビリティの考え方を取り入れた一例
三枝 正彦（医療法人社団やまぶき訪問クリニック）

P54-5　チーム医療の実践により死別前に家族ケアを導入した乳癌患者遺族の一例
伊藤 一希（聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科学）

P54-6　AYA世代腎細胞癌患者の全人的苦痛に対して緩和ケアを行った一例
杉浦 知可子（昭和大学病院 乳腺外科）

P54-7　患者の治療後の生活に大きく影響を与える代理意思決定を経験した家族の意思決定の現状と課題
山本 加奈子（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）

P54-8　患者と配偶者の想いが違う時～面談を重ね、段階的にこどもへ親の病状説明をした一例～
西本 恭子（静岡県立静岡がんセンター 小児科）

その他の精神・心理・社会的ケア・スピリチュアルケア（P55-1～P55-12）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：船橋 英樹（宮崎大学医学部附属病院 精神科）

P55-1　COVID-19の自粛生活ががん患者の孤独感とレジリエンスに与えた影響
川村 舞（札幌医科大学 アイン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座）

P55-2　比較的若年の進行膵神経内分泌がん患者で、ケミカルコーピングが疑われ対応に苦慮した事例
児玉 麻衣子（福井大学 医学部 附属病院 がん診療推進センター）

P55-3　強い不安があり精神的苦痛を認めたが、言語聴覚士による在宅訪問嚥下リハビリテーションを導入することで早期退院が可能となり症状が改善された舌癌症例
佐野 塁（中部労災病院 耳鼻咽喉科）

P55-4　小脳性認知情動症候群を伴う乳癌小脳転移の終末期療養患者に非言語的アプローチを含むケアを行った一例
山本 栄司（京都市立病院 緩和ケア科）

P55-5　「見たい・聞きたい・話したい」の循環を意識した関わりが人の進化成長を促し、緩和ケアの一助となる取り組み
柴田 敦巨（株式会社michiteku 猫舌堂）

P55-6　家族から孤立し、極度に精神的不安定を呈した末期がん患者が、スピリチュアルケアを通して様々な痛みを克服していった一例
三谷 汐里（市立八幡浜総合病院）

P55-7　一眼カメラを用いた緩和ケア病棟および在宅での写真療法
杉 真恵（川崎市立井田病院）

P55-8　学童期のトラウマ体験が終末期に医療者に向けられた依存に影響した肺がん患者の一例
小杉 孝子（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 心療内科）

P55-9　「自宅に帰り、夫と自宅で過ごしたい」思いを持ち続けた患者への緩和ケアの報告
江田 清一郎（松本協立病院 呼吸器内科）

P55-10　緩和ケアにおける音楽療法の方略～事例を通して考察する
平田 済（たたらリハビリテーション病院 内科（緩和ケア））

P55-11　子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマ体験をアセスメントするための質問紙の開発
大塚 知子（千葉県立保健医療大学 健康科学部 看護学科）

P55-12　抗がん治療が奏功し治癒したが後遺症が遺った患者に寄り添う～緩和ケア医の新たなミッション～
下澤 信彦（川崎市立井田病院 緩和ケア内科）

退院支援・退院調整1（P56-1～P56-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 緩和ケア内科）

P56-1　新型コロナウィルス感染症流行禍で在宅療養を選択するがん患者への退院支援＜Web会議を利用した退院支援の考察＞
角田 陽香（大崎市民病院 看護部）

P56-2　高容量オピオイドを使用している患者・家族の在宅療養を支える多職種連携
喜屋武 有里（社会医療法人 敬愛会 中頭病院）

P56-3　療養場所決定に関する意思決定支援ー地域包括ケア病棟看護師による電話訪問の効果ー
丸田 瑞穂（米沢市立病院）

P56-4　退院支援・退院調整の質向上に向けた看護部の取り組み～退院支援・退院調整を行った患者の退院後評価の実際とその効果について～
切通 奈都子（医療法人社団 杏順会 越川病院）

P56-5　緩和ケア病棟から自宅に退院した患者の自宅看取りを可能とした要因
草田 典子（一宮市立市民病院）

P56-6　緩和ケアセンターにおける退院・在宅調整支援の現状と課題
古口 めぐみ（地方独立行政法人 栃木県立がんセンター 緩和ケアセンター）

P56-7　終末期期間限定自宅退院の勧め
山内 佳恵（東北労災病院 緩和ケアチーム、東北労災病院 看護部）

P56-8　社会的苦痛のある終末期がん患者の支援を通しての学び
松本 由美子（日本医科大学 多摩永山病院）

P56-9　発達障害傾向にある終末期がん患者の意思決定支援
松本 由美子（日本医科大学 多摩永山病院）

退院支援・退院調整2 (P57-1～P57-9)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：足立 誠司（国民健康保険智頭病院）

P57-1　情報共有のための退院支援プロセスシートを用いた退院支援
三山 美保（医療法人協和会 協和マリナホスピタル）

P57-2　緩和ケア病棟で一時退院したことの患者・家族にとっての思いや意義
森田 敦志（社会医療法人 貞仁会 新札幌ひばりが丘病院 看護部）

P57-3　当院の緩和ケアにおける在宅医療への取り組みと課題
山﨑 誠司（徳島県立三好病院）

P57-4　自宅退院に不安を抱える未婚の独居がん患者を退院支援した一例
山中 香織（要町ホームケアクリニック）

P57-5　心臓原発腫瘍で胸水貯留と反回神経麻痺による呼吸困難感を来たし、家族の気持ちの受け入れの困難さや急変のリスクを抱えながらも本人の希望に添い自宅療養を継続した一例
森岡 弘恵（市立八幡浜総合病院）

P57-6　免疫関連有害事象による全身状態悪化のため緩和ケア病棟転院も考慮されたが、本人と家族の希望であった自宅に退院し、家族旅行に行くことができた末期肺癌患者
後藤 文太（社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院 リハビリテーション科）

P57-7　患者・家族への危機介入によって希望する在宅療養を実現した1事例 ～アギュララ問題解決危機モデルを用いて～
牛島 けい子（一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院 地域医療連携室 入退院支援部門）

P57-8　情報整理シートの活用により自宅退院へ向けた調整が促進された終末期がん患者の一例
牧野 佐知子（独立行政法人 国立病院機構 豊橋医療センター 看護部）

P57-9　離島に暮らす患者の意思決定を医療チームで支えた一事例
深町 翔（鹿児島県厚生農業協同組合）

緩和ケアにおける地域連携1 (P58-1～P58-10)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：大石 醒悟（医療法人社団　まほし会　真星病院 循環器内科）

P58-1　取り下げ

P58-2　地域における在宅医療の2階建てシステム導入について
梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院 麻酔科・集中治療科）

P58-3　自壊した腫瘍が原因で施設退所を迫られた乳癌患者に対して、放射線治療を行い施設での生活を継続する支援ができた1例
田口 利枝（新久喜総合病院 放射線科（治療））

P58-4　千葉県印旛市郡における在宅緩和医療の現状～アンケート調査結果～
齊藤 理（成田赤十字病院 緩和診療科）

P58-5　緩和ケア病棟から在宅療養へ移行した患者の持続皮下注射使用についての検討
伊藤 浩明（岐阜県立多治見病院）

P58-6　連携医療機関の統合カルテ活用により膵がん難治性疼痛に対して早期に腹腔神経叢ブロックが実施できた一症例
大槻 明広（鳥取大学 医学部附属病院 麻酔科・ペインクリニック外科、鳥取大学 医学部附属病院 緩和ケアチーム）

P58-7　非専門医の行う緩和ケアの現状と課題～地域中核病院の消化器外科医の葛藤～
北川 祐資（調布東山病院 消化器外科）

P58-8　当院緩和ケア外来初診時から他院への転院をすすめた3例
吉永 敬士（社会医療法人シマダ 嶋田病院）

P58-9　当院ホスピスへの紹介がん患者の現状とその転帰 ～急な患者支援にも対応可能となるための“地域緩和ケア連携”を目指して～
山極 哲也（日本バプテスト病院 ホスピス、日本バプテスト病院 地域医療支援部）

P58-10　終末期がん患者の在宅療養における在宅療養支援診療所とのカンファレンスの効果
宇根底 亜希子（JA愛知厚生連 江南厚生病院）

緩和ケアにおける地域連携2（P59-1～P59-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：湯浅 美鈴（鈴鹿中央総合病院 緩和ケア内科）

P59-1　緩和ケア科への入口を広くする～連携診療所に対する書類登録のみでの確実なバックアップ提供の試み・そのメリットとデメリット～
松田 優子（医療法人 平和会 平和病院）

P59-2　小規模多機能居宅介護施設で認知症合併のがん治療から終末期までを過ごし訪問診療医で早期からの緩和ケアと意思決定支援を実現できた一例
栗林 泰子（河北医療財団 あいクリニック）

P59-3　在宅輸血療法の実際～在宅輸血療法における患者付添人は誰か～
山田 真弓（トータス往診クリニック、NPO法人血液在宅ねっと）

P59-4　多施設連携webカンファレンスの結果、院内初のくも膜下サドルブロックを実施し自宅退院が可能となった症例
萩野 晃生（一部事務組合下北医療センター むつ総合病院 薬剤科）

P59-5　訪問看護師が実践する脊髄鎮痛法の看護～合併症を予防しつつ最期まで望む暮らしが継続できたがん終末期3事例からの考察～
宇﨑 節子（しあわせ訪問看護ステーション）

P59-6　地域に受け容れられる緩和ケアを目指して
加藤 博美（公益社団法人鹿児島共済会 南風病院 緩和ケア内科）

P59-7　在宅緩和ケアクリニックと緩和ケアチームの相互訪問による地域連携の取り組み
大塚 由有子（中国中央病院 緩和ケアチーム）

P59-8　くも膜下鎮痛施行中のがん患者の速やかな在宅移行のために～婦人科がん疼痛に対する在宅くも膜下鎮痛6例の経験を通して～
萩原 綾希子（市立札幌病院 緩和ケア内科）

P59-9　ゼロから始めた緩和ケア連携の会 ―地域との交流会の立ち上げの経験―
黒崎 亮（前橋赤十字病院 外科）

緩和ケアにおける地域連携3（P60-1～P60-10）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：林 みずほ（大阪大学医学部附属病院 緩和医療センター）

P60-1　地域とのより深い連携を目的とした地域がん診療連携拠点病院の試み～包括支援センターでのアドバンスケアプラニング（ACP）出前講座～
井谷 嘉男（八尾市立病院 緩和ケアセンター）

P60-2　難治性疼痛に対して地域連携が功を奏した2例
篠 美和（医療法人社団守成会 広瀬病院 在宅診療部）

P60-3　緩和ケアチーム、街にでる―緩和ケアのアウトリーチサービスとしての遠隔コンサルテーションの試み
永山 淳（国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 緩和ケアセンター）

P60-4　令和6年能登半島地震当日に在宅療養中の患者を緊急で受け入れた1例
飯田 優理香（高岡市民病院 外科）

P60-5　訪問看護ステーションにおけるがん相談会定期開催の取り組みとその効果
皆川 美穂（医療法人社団 林山朝日診療所 訪問看護・リハビリステーションわたぼうしWEST）

P60-6　がん疼痛が緩和しない場合のがん疼痛治療に携わる各専門医の相談の実態について
荒川 さやか（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P60-7　左室補助人工心臓を装着した肺がん患者の看取り支援
近藤 夏貴（埼玉医科大学国際医療センター 緩和ケアチーム）

P60-8　患者が望む生き方を叶える医療・看護連携～立派に生き抜きました～
相田 智恵子（恩賜財団 福岡県済生会二日市病院）

P60-9　ビジネスチャットアプリLINE Worksを利用した在宅利用連携の取り組み
加藤 淳一（博愛病院 薬剤部、博愛病院 情報システム管理室、博愛病院 緩和ケアチーム）

P60-10　人生の最終段階における、狭義のアドバンスケアプランニング（ACP）～当院の看取り搬送の取り組み状況と今後の課題～
藤井 仁志（岩手県立久慈病院 外科）

小児・若年者の緩和ケア1（P61-1～P61-8）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：佐竹 陽子（大阪公立大学大学院 看護学研究科）

P61-1　YA世代における在宅医療の提供・終末期緩和ケア チームの役割
青石 裕香（愛晋会 中江病院 緩和ケア/在宅診療）

P61-2　幼い子どもをもつAYA世代の終末期がん患者を受け入れる訪問看護ステーションをどう支えるか?
岩田 真幸（ウィル訪問看護ステーション）

P61-3　気管切開管理にACPが有用であった医療的ケア児の1例
野崎 章仁（滋賀県立小児保健医療センター 小児科）

P61-4　造血細胞移植後AYA世代患者を対象としたサロン開催の取り組み
埴 瀬里奈（福井大学医学部附属病院 看護部、福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

P61-5　AYA世代における緩和ケアニーズと対応についての検討
山崎 裕（市立函館病院 緩和ケア科、市立函館病院 緩和ケアチーム）

P61-6　生きることをささえる小児緩和ケア～療育を取り入れ、最期まで経験することの大切さを教えてくれた一事例～
内重 真由美（熊本大学病院 がん相談支援センター /緩和ケアセンター）

P61-7　若年末期がん患者に対する公的療養支援制度導入から6年～円滑な制度利用を目指して～
西小野 美咲（県民健康プラザ鹿屋医療センター）

P61-8　重症児の生命倫理と在宅医療の役割
坂 啓子（シティ・タワー診療所）

小児・若年者の緩和ケア2（P62-1～P62-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：吉田 沙蘭（東北大学大学院　教育学研究科 ）

P62-1　終末期がん患者の在宅支援 母としての役割を果たし続けた患者からの学び
松浦 明海（訪問看護ステーション もれっと）

P62-2　患児の特性や大家族という特殊な家庭環境での小児がん緩和ケアの実践
金澤 剛二（日本大学 医学部 小児科）

P62-3　AYA世代がん患者がん診断時に抱えるつらさや問題点に関する後方視的検討
池上 貴子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

P62-4　山梨大学医学部附属病院におけるAYA世代がん患者に対する緩和ケアの現状と課題
熊倉 康友（山梨大学 医学部附属病院 医療チームセンター、山梨大学 医学部 麻酔科学講座）

P62-5　病院勤務の小児血液・がん専門医、麻酔科医がバックアップする小児在宅緩和医療の実践
杉山 正仲（医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック、東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科）

P62-6　病院小児科・病院外科・在宅医療・福祉の連携により在宅で看取りが可能となった30代重症心身障害者のS状結腸癌の一例
南條 浩輝（医療法人輝優会 かがやきクリニック）

P62-7　緩和ケアチームによるドッグセラピー活動
平山 哲（地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 子どものこころの診療科）

P62-8　出生前診断に基づく新生児緩和ケア Potterシーケンスでの経験
勝又 薫（神奈川県立こども医療センター 新生児科）

P62-9　緑膿菌・ESBL産生菌による反復性上部尿路感染症に対して、在宅でのTAZ/PIPC持続皮下注射が有効であった重症心身障害児の1例
森 尚子（医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック、東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科）

非がん患者の緩和ケア（呼吸器疾患、心疾患、認知症）（P63-1～P63-8）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：船越 政江（医療法人社団林山朝日診療所 訪問看護・リハビリステーションわたぼうし）

P63-1　サポーティブケアチーム・緩和医療外来で介入した肺移植患者9症例の事例検討
佐藤 麻美子（東北大学病院 緩和医療科）

P63-2　終末期にある特発性間質性肺炎患者の在宅看取りについて
石橋 妙子（公益財団法人 筑波メディカルセンター 訪問看護ステーションいしげ）

P63-3　最後まで家族と歩む-成人先天性心疾患のホスピスケア-
前角 衣美（よだか診療所）

P63-4　次世代シーケンサーを用いて家族性心筋症に対して遺伝子解析を実施することの有用性と課題
飛田 尚重（東京女子医科大学病院 循環器内科）

P63-5　ミダゾラムによる間欠的鎮静が症状緩和と心不全治療の両面に奏効し、終末期心不全に伴う呼吸困難感の改善に寄与したと考えられた1例
北山 生己（医療法人愛心会 東宝塚さとう病院）

P63-6　本邦緩和医療の現場における非がん性呼吸器疾患患者に対する緩和ケアの認識の調査
萩本 聡（公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科 緩和ケア内科）

P63-7　在宅ドブタミン投与における末梢挿入型中心静脈カテーテル関連合併症の事例報告と検討
後藤 幸子（やまおか在宅クリニック）

P63-8　看護実践の振り返りを通して認知症看護の中に見つけた緩和ケア
中西 佳菜（実風会 新生病院）

非がん患者の緩和ケア（神経疾患、腎疾患、その他）（P64-1～P64-12）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：宇野 さつき（ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス ）

P64-1　当院の緩和ケアチームで介入したALS症例の報告
友松 裕美（東海大学 医学部 専門診療学系 緩和医療学）

P64-2　クロイツフェルト・ヤコブ病患者・家族への緩和ケア～施設看取りに至った2事例を経験して～
中田 侑吾（医療法人社団平郁会 札幌在宅クリニックそよ風）

P64-3　筋萎縮性側索硬化症患者における口渇ケアの効果
新井 玉南（地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立神経病院 看護部）

P64-4　急速な呼吸機能低下をきたした筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者2例の経験から アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の適切なタイミングについての検討
凪 淳子（医療法人社団 いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケアチーム）

P64-5　「死にたい」と発言する筋萎縮性側索硬化症患者に対する多職種連携支援～援助的コミュニケーションを使って～
宇田 真記（医療法人清友会 清水医院）

P64-6　血液透析患者の適切な意思決定支援体制整備に向けた取組み
―がん診療推進センターと血液浄化療法室の看護師間の協働―
高野 智早（福井大学医学部附属病院 看護部、福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

P64-7　腎代替療法における緩和医療的高齢者ラストPD（腹膜透析）の事例
田中 俊之（公立富岡総合病院 泌尿器科）

P64-8　頭蓋内良性腫瘍に伴う三叉神経痛に対する症状緩和アプローチ
戸田 陽子（済生会横浜市東部病院 緩和ケア内科、済生会横浜市東部病院 緩和ケアチーム）

P64-9　くも膜下出血と頭痛：急性期集学的治療における緩和ケア医の役割
野池 輝匡（相澤病院 緩和ケアチーム）

P64-10　当院緩和ケアチームにおける包括的高度慢性下肢虚血の疼痛緩和に関する後方視的検討
宮﨑 真一郎（浜松医療センター 緩和医療科、浜松医療センター 緩和ケアチーム）

P64-11　保存的腎臓療法を選択し在宅で終末期を迎えた4症例
塩田 修玄（東京医科歯科大学病院 集中治療部）

P64-12　非がん患者に対する緩和ケア介入のニーズと課題
三浦 美和子（東京都済生会中央病院 がん診療統括センター、国際医療福祉大学大学院 医学研究科）

集中治療での緩和ケア（P65-1～P65-6）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：坂本 岳志（有限会社サンメディカル あけぼの薬局　メディカル店）

P65-1　院内急変患者におけるRapid Response System起動前後のDo-Not-Attempt-Resuscitation指示の年齢調整年次推移と年齢別割合：日本の多施設レジストリを使用した二次解析結果
辻 達也（岡崎市民病院 麻酔科、名古屋市立大学大学院 医学研究科麻酔科学・集中治療医学分野）

P65-2　急性期総合病院にて、集中治療科、主科、緩和ケアチーム協働で多職種カンファレンスと全人的ケアを重ね、適切な抗腫瘍治療が可能となった、初発重症がん性リンパ管症の1例
星野 奈月（東京都 済生会 中央病院 緩和ケア科）

P65-3　集中治療領域の緩和ケア提供に関する医師の認識 ～緩和医療専門医はICUでの緩和ケアに自信はあるのか？～
三好 祐輔（神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科）

P65-4　集中ケアにおける緩和ケアの必要性を検証～当院ICU看護師を対象にしたアンケート結果から課題を明確化した～
山城 美香（沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院）

P65-5　救急・集中治療領域における意思決定支援～入院時重症患者対応メディエーターの活動の実際と今後の課題～
木野 美和子（筑波メディカルセンター）

P65-6　ICUにおけるGoals of Care Discussionのあり方を考える
塩田 修玄（東京医科歯科大学病院 集中治療部）

その他の地域・在宅緩和ケアと特定集団に対する緩和ケア（P66-1～P66-7）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：田代 真理（高知県立大学 看護学部）

P66-1　災害下における緩和ケア：文献レビュー
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和ケアセンター）

P66-2　当院での葬祭扶助の実態
大塚 正友（彰療会 大正病院）

P66-3　コントロール不良のHIVに伴う重症エムポックス患者への緩和ケア
木内 大佑（国立国際医療研究センター病院 緩和ケア科）

P66-4　当院婦人科がん患者死亡例を対象とした緩和ケアの実態調査
関口 勲（地方独立行政法人栃木県立がんセンター）

P66-5　家族・施設職員と協働し知的障害を有するがん患者の疼痛コントロールを外来で行った一例
西堀 理香（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 緩和ケア内科）

P66-6　指定障害者支援施設における癌末期患者の看取り～住み慣れた場で慣れた人々に囲まれて過ごす意義と課題～
藤原 葉子（医療法人徳洲会 ホームケアクリニック札幌）

P66-7　令和6年能登半島地震で被災した高齢者施設の入所者を緩和ケア病棟で受入れた事例
河上 裕子（高岡市民病院）

緩和ケアチーム1（P67-1～P67-11）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：羽多野 裕（吉田病院 内科(緩和ケア)）

P67-1　当院における麻薬自己管理の推進活動 ～2023年日本緩和医療学会発表からの院内伝達研修会による～
白木 照夫（国立病院機構岩国医療センター）

P67-2　院内メールを積極的に活用した緩和ケアチームカンファレンスの有用性と課題
塩原 正之（千葉市立海浜病院 緩和ケアサポートチーム）

P67-3　緩和的手術が必要なハイリスク患者が在宅医療に移行するための麻酔科医の役割
大竹 知子（牧田総合病院 麻酔科）

P67-4　当院オピオイド回診の助言と採用についての検討
佐藤 尚子（岡崎市民病院 緩和ケア内科）

P67-5　当院における緩和ケアチーム訪問診療の取り組み
奥山 奈穂子（JA秋田厚生連 平鹿総合病院）

P67-6　当院における緩和ケアチームの活動状況と今後の展望
伊藤 恭史（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 疼痛緩和内科）

P67-7　当院緩和ケア病棟での慢性便秘症に対する下剤の処方状況について
川端 邦裕（公立学校共済組合東海中央病院 緩和ケアチーム）

P67-8　irAE治療のために自宅退院の時期を逸した症例
矢間 友美（鳥取大学 医学部 附属病院 緩和ケアチーム）

P67-9　緩和ケア病棟を有する病院で活動する緩和ケアチームの役割
奥澤 直美（独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター 緩和ケアチーム、看護部）

P67-10　多重課題を抱え危機的状態である患者と家族を病棟と緩和ケアチームで支えた一例
上田 幸奈（島根大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 看護師）

P67-11　当院における緩和ケアチームからの神経ブロック療法提案の実際と課題
久永 みゆき（藤田医科大学岡崎医療センター）

緩和ケアチーム2（P68-1～P68-10）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：橋本 孝太郎（医療法人社団爽秋会　ふくしま在宅緩和ケアクリニック ）

P68-1　当院における緩和ケアチーム活動の現状と課題～緩和ケアチーム活動に関するアンケート調査から見える今後の課題～
松川 寿恵（JA神奈川県 厚生連 伊勢原協同病院）

P68-2　がん患者に対しオピオイドサポートチームを中心に多職種連携し在宅看取りにつながった一事例
鈴木 聡子（JA秋田厚生連 由利組合総合病院 緩和ケアチーム 看護部）

P68-3　緩和ケアチームからの提案伝達手段として書面を導入した効果
斎藤 美智子（神戸市立医療センター西市民病院 緩和ケアチーム、神戸市立医療センター西市民病院 看護部）

P68-4　地方都市の市民病院である当院における緩和ケアチーム活動報告と今後の課題
西川 さや香（豊川市民病院 緩和ケアチーム）

P68-5　緩和ケアチームとして免疫関連有害事象への対応を要した乳癌の一例
山北 伊知子（広島市立北部医療センター安佐市民病院 腫瘍内科）

P68-6　急性期病院における緩和ケアチームの管理栄養士としての関わり
滝沢 彩乃（社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 緩和ケア支援チーム）

P68-7　終末期AYA世代がん患者家族の在宅療養に対する葛藤への支援
駒村 光尉（千葉県立佐原病院）

P68-8　内臓神経ブロックを早期に実施したことで本人らしさを取り戻した一症例
高仲 雅子（日本医科大学 多摩永山病院 緩和ケアチーム）

P68-9　ICUで人工呼吸器管理となったがん終末期患者に対する緩和ケアチームによる支援が困難であった1例
伊佐敷 沙恵子（奈良県総合医療センター）

P68-10　地域がん診療連携拠点病院で「依頼を受けていないがん患者も含めて苦痛の把握に努める」（がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針）ための緩和ケアチーム活動
稲垣 大輔（豊橋市民病院）

緩和ケアチーム3
(P69-1～P69-10)

6月15日(土)11:00-12:00
ポスター会場

座長：小原 弘之（廿日市記念病院 内科・緩和ケア病棟）

P69-1　緩和医療チーム介入の効果 ～放射線治療医が加わって～
堀田 あゆみ（岐阜大学医学部附属病院 看護部 がんセンター）

P69-2　大学病院の緩和ケアチームにおける鍼灸師の活動報告
山中 一星（東海大学 医学部 専門診療学系 漢方医学、東海大学医学部付属病院 診療技術部 診療技術科）

P69-3　経口摂取を目標とする侵襲的処置に対して緩和ケアチームで意思決定支援を行った一例
古川 龍太郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

P69-4　非がん患者に対する当院緩和ケアチームの取り組み
松本 奈穂子（広島赤十字・原爆病院 呼吸器科）

P69-5　患者の語りから全人的苦痛の理解を深めたチームアプローチ呼吸困難感や不安に対しベンタゾシン長期使用が問題となり薬剤変更に難渋した一例
伊敷 桃子（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

P69-6　当院の緩和ケアチームの質の評価と課題
岡部 智行（広島市立広島市民病院 緩和ケア科、広島市立広島市民病院 緩和ケアチーム）

P69-7　患者と家族の意向の相違に対する緩和ケアチームの役割についての一考察～語られなかった家族史が最期の望みへ影響した2症例を通して～
安髙 久美子（産業医科大学病院 緩和ケアセンター）

P69-8　化学療法を最後まで望んだ終末期がん患者の1例 -緩和ケアとの両立-
立石 さち（済生会西条病院 看護部）

P69-9　緩和ケアチームが介入したがん患者のせん妄に対するプロナンセリン貼付剤の使用に関する後方視的調査
高橋 彩子（昭和大学 医学部 内科学講座 緩和医療学部門）

P69-10　スピリチュアルケアにおける多職種協働を望む医療者の背景
河南 真吾（徳島大学病院 総合診療部）

緩和ケア外来、苦痛スクリーニング
(P70-1～P70-9)

6月15日(土)11:00-12:00
ポスター会場

座長：内藤 明美（宮崎市郡医師会病院　緩和ケア科 ）

P70-1　A病院緩和ケア初診外来の症状コントロールと面談外来の分析～医師の意識調査も含めて～
濱沢 智美（大阪ろうさい病院 緩和ケア科）

P70-2　急性期病院における緩和ケア外来の患者と家族への支援コロナ禍でのがん相談支援センター相談員の役割と今後の課題
岡崎 賀美（社会医療法人財団大和会 東大和病院 がん相談支援センター）

P70-3　当院の苦痛スクリーニングにおける回答拒否患者に関する検討
白石 朝子（産業医科大学病院 緩和ケアセンター）

P70-4　がん遺伝子パネル検査外来における緩和ケアスクリーニングの意義
津田 万里（東海大学 医学部 専門診療学系 緩和医療学）

P70-5　外来におけるがん患者の苦痛に対するスクリーニングの現状と課題～スクリーニング導入10年目を迎え、更なる浸透を目指して～
野田 陽子（福岡県済生会福岡総合病院 がん治療サポートチーム、緩和ケア認定看護師）

P70-6　苦痛スクリーニングのテンプレート導入の効果
大西 真理（市立東大阪医療センター）

P70-7　外来がん薬物療法中の患者支援における課題―STAS-J評価からみえてきたこと―
竹田 美和子（公立置賜総合病院 看護部）

P70-8　苦痛のスクリーニング実施と評価の定着に向けた取り組み
深田 陽子（日本医科大学付属病院）

P70-9　「生活のしやすさに関する問診票」を活用した当院における実態調査
榎本 史子（新百合ヶ丘総合病院 緩和ケアチーム、看護部）

早期からの緩和ケア（P71-1～P71-7）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：矢吹 律子（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

P71-1　がん治療科と緩和ケア科の連携：早期からの緩和ケア介入実現を目指して
渕崎 蓉史（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

P71-2　進行肺がん患者およびその家族への早期緩和ケアの試験的取り組み
児玉 美由紀（北里大学病院）

P71-3　全ての初診患者が一度はがん相談支援センターを来訪する体制の整備について～システム確立までのプロセス～
伊藤 由美子（兵庫県立がんセンター 看護部）

P71-4　緩和ケアセンター3年間の実績と今後の課題
山川 久栄（藤沢市民病院）

P71-5　ICUにおける緩和ケア実践の現状 ～緩和ケアにおける看護師の困難感～
佐口 真央（独立行政法人 国立病院機構 高崎総合医療センター）

P71-6　初回がん薬物療法患者に対する栄養面のサポーティブケア提供体制構築に向けた栄養学的問題点調査
佐々木 まなみ（東北大学病院 栄養管理室）

P71-7　早期からの緩和ケア介入により内科的診断補助の役割を担い、がん悪液質と鑑別が必要だった原発性副腎不全を診断することができた一例
高橋 佑輔（飯塚病院）

その他の終末期ケア、デリバリー（P72-1～P72-11）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：清水 正樹（京都桂病院 緩和ケア科）

P72-1　がん患者の終末期ケアの質にコロナ禍が与える影響
木原 里香（JA愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科）

P72-2　死亡票情報を用いた遺族調査の二次解析によるがん診療連携拠点病院と非拠点病院で死亡したがん患者の特性と緩和ケアの質の比較
伊藤 里美（東北大学 医学系研究科）

P72-3　支持療法として在宅輸血療法を施行した際の終末期血液腫瘍患者の予後に関する検討
神山 祐太郎（トータス往診クリニック、NPO血液在宅ねっと、東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科）

P72-4　緩和ケアの専門家が不在の施設に所属する医師が抱く緩和ケア提供上の困難
太田 有咲（大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻）

P72-5　北海道における今後の緩和ケアが必要な人々の推計および緩和ケア提供のアクセシビリティ
大日方 裕紀（北海道大学 大学院保健科学研究院）

P72-6　転倒骨折のがん患者6例における予後予測と実際の予後の検討
三田 礼子（JCHO神戸中央病院）

P72-7　終末期に植え込み型除細動（ICD）機能の停止を検討した重症心不全担癌患者の共同意思決定支援
村松 雅人（JA愛知厚生連 豊田厚生病院 緩和ケア内科）

P72-8　BSCに移行したがん患者に対する相談支援の現状と課題-がん相談支援センターに求められる役割とは-
小泉 純子（戸田中央総合病院 緩和ケアセンター）

P72-9　終末期の意思決定支援に対する医療者の困難：計量テキスト分析によるがんと循環器疾患の比較
市倉 加奈子（北里大学 医療衛生学部 保健衛生学科、北里大学大学院 医療系研究科）

P72-10　COVID-19禍における家族との面会制限下でがん患者の看取りに携わった急性期病棟に従事する看護師の体験
松岡 晃子（和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科 博士前期課程）

P72-11　緩和ケアの専門家が不在の施設に所属する医師のコンサルテーションニーズ
青木 美和（大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻）

その他の教育・啓発・研究3
(P73-1～P73-6)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター）

P73-1　終末期がん患者の疼痛に対する看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
森川 みはる（京都大学大学院 医学研究科）

P73-2　終末期がん患者の呼吸困難に対する看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
角甲 純（三重大学）

P73-3　終末期がん患者の悪心・嘔吐に対する看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
小林 成光（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）

P73-4　終末期がん患者の便秘に対する看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
中野 貴美子（徳島大学 医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学）

P73-5　終末期がん患者のせん妄の発症予防を目的とした看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
菅野 雄介（東京医科歯科大学）

P73-6　終末期がん患者の家族介護者の介護負担に対する看護支援についての適用可能性の検討：Delphi研究
小林 成光（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）

評価尺度、教育方法、卒後教育
(P74-1～P74-12)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：浅井 真理子（帝京大学 薬学部）

P74-1　がん患者の症状軽減と日藝版癒しスケールの関係：緩和ケアにおける新指標の可能性
三浦 智史（国立がん研究センター東病院）

P74-2　中小規模病院での終末期がん患者のアドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の困難感尺度の開発と信頼性・妥当性の検証：研究プロトコール
伊藤 千鶴（訪問看護リハビリステーション さくら苑）

P74-3　「緩和ケア看護における患者報告型アウトカム有用性調査票」の開発と信頼性・妥当性の検討
倉橋 美岬（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野、岡崎市民病院）

P74-4　緩和領域のPRO-CTCAE評価におけるベースライン評価の重要性
宮里 明芽（東京医科大学病院 薬剤部）

P74-5　慢性偽性腸閉塞症の治療別のquality of life及び治療戦略の評価について
髙橋 宏太（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科、横浜市立大学附属病院 消化器内科 肝胆膵消化器病学）

P74-6　IPOS（Integrated Palliative Outcome Scale）実施患者におけるサポーティブケアチームの介入の効果
阪本 響生（神戸学院大学 薬学部）

P74-7　IPOS使用に対する看護教育についての活動報告
安藤 由香里（日本赤十字社医療センター）

P74-8　看護学生を対象とした意思決定支援の講義における「がんの病いの語り」の効果
木村 恵美子（札幌医科大学 保健医療学部 看護学科）

P74-9　専門看護師の協働による希死念慮を有するがん患者についての看護教育への取り組み
西川 律子（日本医科大学付属病院 看護部）

P74-10　看護ケアへのアロマテラピー導入講習会の効果検証および臨床へのアロマテラピー導入の障壁に関するインタビュー調査
伊藤 里美（東北大学 医学系研究科）

P74-11　島嶼県沖縄における緩和ケアの均霑化に向けた取り組み-COVID-19 pandemicでの経験を踏まえた包括的緩和ケア教育支援システムの構築
中島 信久（琉球大学病院 地域・国際医療部）

P74-12　研修医に「患者のスピリチュアルペインへの対応」を指導する
川畑 恵（勤医協中央病院 緩和ケア科）

施設内教育1
(P75-1～P75-8)

6月15日(土)11:00-12:00
ポスター会場

座長：小林 孝一郎（白井聖仁会病院 緩和ケアセンター）

P75-1　がん患者のACPについてロールプレイを取り入れた研修による看護師への効果
谷口 香織（大阪赤十字病院 看護部）

P75-2　乳腺科専門病棟における看護師育成の現状と今後の課題
高橋 美生（聖隷横浜病院 看護部）

P75-3　急性期病院に従事する看護師のがん看護に対する困難感 ～がん看護の困難感尺度を用いた実態調査～
佐藤 有美（札幌市病院局 市立札幌病院）

P75-4　外来薬物療法室看護師におけるACP支援に関する教育ニーズと教育的介入による看護師の変化
久保田 由美（社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院）

P75-5　看護師の自殺予防対応力向上に向けた課題の抽出・第一報
齋藤 百代（市立函館病院 看護部）

P75-6　A施設の看護師のがん看護に関する困難感の変化
上田 佳奈（国立病院機構 岩国医療センター）

P75-7　当院における医師に対するACP普及活動～本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会での学びを取り入れて～
白木 照夫（国立病院機構岩国医療センター）

P75-8　当院における臨床倫理教育活動～倫理的対立により麻薬自己管理が困難であった症例を通じて～
白木 照夫（国立病院機構岩国医療センター）

施設内教育2
(P76-1～P76-7)

6月15日(土)11:00-12:00
ポスター会場

座長：長岡 広香（がん感染症センター東京都立駒込病院 緩和ケア科）

P76-1　コロナ禍前後で就職した訪問看護師のがん患者に対する困難感～看護師のがん看護に対する困難尺度を用いて～
加藤 麻樹子（訪問看護ステーション・青い空）

P76-2　がん看護リンクナースが主体的に症状緩和に取り組めるための教育的アプローチ・介入―便秘改善への取り組みを通してー
福岡 泰弘（公益財団法人 筑波メディカルセンター）

P76-3　当院における緩和ケアセンター勉強会の取り組みについて
浅石 健（大阪医科薬科大学病院 緩和ケアセンター）

P76-4　保険薬局におけるがん患者支援方法の指導と実践
坂本 亜矢子（株式会社ユービーディー 千本丸太町ゆう薬局）

P76-5　緩和ケアチーム介入患者に対する，リハビリテーションの有無と介入前後のFIM改善効果の検討
安原 寛和（前橋赤十字病院 リハビリテーション科部）

P76-6　当科におけるリハビリテーション担当者へのフォローアップ・教育活動（第2報）～持続可能な当科の教育体制構築と院内、他施設への活動拡大可能性について～
角田 健（要町病院 リハビリテーション科）

P76-7　心不全終末期患者に対する訪問リハビリの取り組みについて
澤田 真理子（のぞみハートクリニック）

多職種協働・チーム医療1
(P77-1～P77-10)

6月15日(土)11:00-12:00
ポスター会場

座長：上村 恵一（国家公務員共済組合連合会　斗南病院 精神科）

P77-1　緩和ケアの推進活動による多職種連携における効果と組織の課題
三浦 美和子（東京都済生会中央病院 がん診療統括センター、国際医療福祉大学大学院 医学研究科）

P77-2　がん医療における高齢者総合機能評価の取り組みについて-多職種協働推進に向けた公認心理師の役割-
西内 俊朗（川口短期大学 こども学科、川口市立医療センター緩和ケア科・消化器外科、緩和ケア科・精神腫瘍科、総合相談室・がん相談支援センター）

P77-3　臨床宗教師と医療者との協働の発展を目指して～交流集会とアンケート結果の総括～
原 信太郎（医療法人伴帥会愛野記念病院 緩和ケア内科、九州臨床宗教師会）

P77-4　緩和ケア病棟におけるリハビリテーションがADLおよび転帰に与える影響
池澤 英里（戸田中央総合病院 緩和医療科）

P77-5　がんリハビリテーション介入患者に対する、外来でのケア拡充に関する取り組み
永田 和也（公立館林厚生病院 放射線治療科、公立館林厚生病院 緩和ケアチーム）

P77-6　多部門・多職種で行う日常生活支援を含めた症状緩和の検討 ～院内カンファレンス定期開催の経験から～
梅岡 京子（奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

P77-7　A病院における緩和ケアチーム活動の周知の検討―看護師を対象としたアンケート調査より―
藤尾 亜由美（独立行政法人 国立病院機構 東広島医療センター）

P77-8　多職種アプローチとしての病院チャプレンの働き
宮川 裕美子（日本バプテスト連盟医療団 牧師室）

P77-9　一地域がん診療連携拠点病院で行う骨転移患者登録、スクリーニング、症例検討が同時にできるオンライン骨転移ボードの取組
片岡 秀之（徳島県立中央病院 臨床腫瘍科、徳島県立中央病院 緩和ケアチーム）

P77-10　がんリハビリテーションの現状―小田原市立病院の場合―
吉野 和穂（小田原市立病院 緩和ケア科、小田原市立病院 がんサポートチーム）

多職種協働・チーム医療2 (P78-1～P78-10)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：柏木 秀行（飯塚病院　連携医療・緩和ケア科 連携医療・緩和ケア科）

P78-1　終末期を迎えた乳がん患者の希望を叶えるための多職種支援
髙野 清美（昭和大学江東豊洲病院 看護部）

P78-2　思春期・若年成人世代の造血器悪性腫瘍患者のがん生殖相談
渡邊 温子（帝京大学 医学部 緩和医療学講座）

P78-3　緩和ケア病棟における園芸療法
毛利 ユカ（いばらき園芸療法研究会）

P78-4　骨転移診療チームの構築から2年間の活動状況
石井 美希（伊勢崎市民病院 看護部）

P78-5　コロナ禍の急性期一般病棟における多職種カンファレンスの実際と課題
津本 友美（大阪赤十字病院 看護部）

P78-6　STAS-Jと心理療法士の介入の関連性の検討
芥川 亘（独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター）

P78-7　電子カルテベンダー変更に伴うオピオイド処方運用変更への取り組み
土井 千春（恩賜財団済生会横浜市南部病院 緩和医療科）

P78-8　医療者、葬儀関係者、他職種連携のエンゼルケアで患者・家族が満足のいくエンゼルケアを目指す
牧 香代子（医療法人秀麗会 山尾病院 看護介護部、生ききるLabo）

P78-9　地域がん診療連携拠点病院であるA病院における倫理的多職種カンファレンスの活動報告
白猪 淳子（JA神奈川県厚生連 相模原協同病院 看護部）

P78-10　AYA世代かつ医師である患者との関りについてチームで取り組んだ一事例
谷口 香織（大阪赤十字病院 看護部）

多職種協働・チーム医療3 (P79-1～P79-9)

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：中澤 葉宇子（国立がん研究センターがん対策研究所 がん政策評価研究部）

P79-1　骨転移キャンサーボードにより、患者が希望する治療介入が得られた2症例の報告
下田 絵美子（市立東大阪医療センター 放射線科）

P79-2　関連病院と地域の人的資源を活用した、離島におけるELNEC-Jの主催運営
中屋 真由美（鹿児島県立 大島病院）

P79-3　緩和医療における鍼灸施療の実態調査～緩和ケアチーム、緩和ケア病棟での鍼灸施療～
朝田 ちあき（北海道消化器科病院）

P79-4　基本的緩和ケアの普及を意識した緩和ケアチーム活動
佐藤 伸隆（有明医療センター）

P79-5　亀田 腫瘍外科-Acute Pain Service-緩和ケアサポートチームプロジェクト
常石 大輝（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科、安房地域医療センター 総合診療科、
亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科）

P79-6　急性期病院の緩和ケアリンクナースが捉えるACP推進への取り組みの現状と課題
藤田 裕美（徳島赤十字病院）

P79-7　進行癌の椎体転移に伴う疼痛、歩行困難に対しタペンタドールへのオピオイドスイッチング及び理学療法により自宅療養が可能になった2症例
吉藤 正泰（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科）

P79-8　ホスピタリティ マインドががん患者のQOL向上に貢献した一事例
加藤 彩織（社会医療法人石川記念会 HITO病院）

P79-9　当院消化器内科病棟における疼痛時予測時改良の取り組みと成果
佐藤 麻美子（東北大学病院 緩和医療科）

医療者のストレス・燃え尽き症候群（P80-1～P80-7）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：清水 佐智子（鹿児島大学医学部保健学科 ）

P80-1　がん終末期療養者を看取る訪問看護師間のピアサポートと自己効力感の関連
森 京子（名古屋学芸大学 看護学部 看護学科）

P80-2　緩和ケア病棟で働く看護師が抱えるジレンマや困難とその解決方法を通じて
尾花 咲希（社会医療法人シマダ 嶋田病院 緩和ケア病棟）

P80-3　PCUで自死に遭遇した医療スタッフの精神的ストレスや心理サポートの振り返り
藤井 陽子（つくばセントラル病院 看護部）

P80-4　エンドオブライフケアを実践する看護師においてワークライフバランスと社会的サポートが職業上のQOLに及ぼす影響
東端 孝博（筑波大学附属病院 緩和支持治療科）

P80-5　緩和ケア病棟看護師のグリーフケアに活かすために緩和ケア認定看護師が経験したデスカンファレンスでの関わり
系井 優理佳（医療法人 JR広島病院）

P80-6　コロナ禍に新型コロナ感染症病棟に転用された緩和ケア病棟スタッフの経時的職員満足度調査
土田 敬（福井県済生会病院 緩和ケア外科）

P80-7　公認心理師による緩和ケア病棟巡回支援の取り組み ～単回面接による評価を職員のサポートに活かす～
犬飼 一智（医療法人協和会 本部クオリティマネジメント室）

倫理的問題（P81-1～P81-6）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：宮下 光令（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

P81-1　新人看護師の倫理的感性を高める取り組み～臨床で直面する倫理的ジレンマへの支援～
緒方 幸恵（聖マリア病院 看護支援室）

P81-2　倫理コンサルテーションチーム（ECT）と緩和ケアチーム（PCT）の協同～「本人にとって最善」の医療の実現を目指すために
岡島 明子（総合上飯田第一病院 緩和ケア外科、総合上飯田第一病院 緩和ケアチーム）

P81-3　植込み型除細動器停止をおこなった終末期がん患者の一例
岩城 隆二（市立東大阪医療センター 緩和ケア内科）

P81-4　倫理カンファレンス導入による効果と今後の課題
福本 有子（国民健康保険 和水町立病院）

P81-5　精神科専門病院における治療方針決定のプロセスについて-緩和ケアへのニーズから始まった倫理的検討をめぐって-
横須賀 響子（東京都立松沢病院 緩和ケアチーム）

P81-6　紛争下における緩和ケア：文献レビュー
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和ケアセンター）

コミュニケーション（P82-1～P82-9）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：新幡 智子（慶應義塾大学　看護医療学部 ）

P82-1　キーパーソンという言葉に関する緩和ケア病棟看護師の認識と使用状況：多施設アンケート調査
鳥崎 哲平（熊本大学大学院 医学教育部 臨床倫理学専攻、大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科）

P82-2　アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関するA大学病院に勤務する看護師の認識と実践の実態調査
重田 宏恵（香川大学 医学部 附属病院 緩和ケアセンター）

P82-3　取り下げ

P82-4　若くして末期がんとなりお別れの際の意思をコロナ禍による面会制限の中ご家族にリモートで伝え得た経験
志賀 健一郎（原三信病院 緩和ケアチーム）

P82-5　看護師による患者の感情表出を促進するためのコミュニケーションスキル「NURSE」に基づく看護師のコミュニケーションスキルを評価する尺度の信頼性・妥当性の検討
赤坂 麗（東北大学 緩和ケア看護学分野）

P82-6　「岡山がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会」の12年間の活動報告
那須 淳一郎（岡山済生会総合病院 内科）

P82-7　腫瘍内科医への不信で緩和ケア病棟に入院後、免疫チェックポイント阻害剤の再開継続が可能であった1例
薗 潤（医療法人協和会 協和マリナホスピタル 緩和ケア内科）

P82-8　がん治癒期における心理的ストレス関与のある機能性身体症候群の疫学的調査
蓮尾 英明（関西医科大学 心療内科学講座）

P82-9　「食べること」を通じ、同じ時間の共有・体験が生み出す「病気になっても生きやすい社会」の実現～がん経験者と食品メーカー・歯科医師との体験型交流会共同開催を経て～
柴田 敦巨（株式会社michiteku 猫舌堂）

English（PE1~3）

6月15日（土）11:00-12:00
ポスター会場

座長：大屋 清文（ピースホームケアクリニック京都 ）

PE-1　Educational Program for Advanced Beginner Psychiatric Nurses Caring for Patients having Schizophrenia Complicated by Cancer
Harumi Arai(Shitennoji University Faculty of Nursing and Graduate School of Nursing)

PE-2　Cinemeducation in palliative care: using the film “Wit” to talk about death and end-of-life issues
Maria Fidelis C. Manalo(The Medical City)

PE-3　Knowledge and Attitude of Healthcare Workers in a Tertiary Hospital in Bangsamoro Autonomous Region in Muslim Mindanao (BARMM), Philippines
Benedict R. Zapanta(Cotabato Regional and Medical Center)

PALポスター

PAL-P（PAL-P1~3）

6月14日（金）14:00-14:40
ポスター会場

司会：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）
野田 真由美（NPO法人支えあう会「α」）
轟 浩美（全国がん患者団体連合会）

PAL-P1　企業内がん経験者コミュニティの5年間の活動と今後に向けて
村本 高史（Can Stars）

PAL-P2　ピアサポート活動のための新たな人材育成プログラム「学び合いの会」の取り組み
竹内 香（京都府がん患者団体等連絡協議会/NPO法人京都がん医療を考える会）

PAL-P3　患者のエンパワーメントと専門性を活かした持続可能なリンパ浮腫セルフケアプログラム「リンパラボ朝めぐリンパ」
矢後 綾子（認定NPO法人オレンジティ）